

光の道をゆく



夢咲璃い

はじめに



こちらの eBook を手にとってくださいます、心より、ありがとうございます。

わたくしは、お志の高い女性の皆様を対象に、サイキック・リーディングをさせていただいております、夢咲璃い（ゆめさきりい）と申します。

どうぞよろしく願いたします。

わたくしがこちらのご本を書こう、と思ひましたのは・・・サイキックに目覚め、夢のような一年間（2007年）を過ごさせていただき、生涯の目標が明らかになった後、わたくしに訪れた「生涯始まって以来、最大の試練」であった6年間（現在も進行中ですが）を通して学ばせていただいたことを、同じように、人生の上り坂にいらっしゃる皆様に一一特に、何かお志や夢を持って、日々、一生懸命頑張っている女性の皆様に一一お伝えさせていただければ、と思ったからでございます。

もともと、ひとさまの何倍も一一ものすごい泣き虫で、弱虫で、へこたれやすい、このわたくしが、この夢だけは・・・！ と、未だにこの道に留まり続けていられるのは、全て、今日までわたくしを見守り、支え、導き続けてくださった、大いなる神様のご存在があってこそ、です。

他にも様々な・・・人生の先輩方、お友だちやお知り合いの皆様、そして家族の支えもあって、なんとか、なんとか、ここまで来ることが出来ました。

何度も絶望し、明日からどうやって生きてゆけばよいのだろう・・・？ と途方に暮れて、暮れて・・・。

そんなことを飽きるほど繰り返しながらも（6年経った今も）わたくしの心には、ここに「一旦」帰ってきたとき（2008年の8月末）と全く同じ鮮やかな夢が燦然と光り輝いています。

泣き虫で弱虫でどうしようもない、このわたくしでございますが、この6年間、もがきにもがき続けて来た中で学ばせていただいたことを、皆様にシェアさせていただきませぬ。

なにぶん、拙い文章でございますので、お読みづらい部分も多々あるかと存じますが、どうぞ最後までよろしくおつき合くださいませ。

皆様が、いつも・・・暖かな神様の愛に満たされ、守られ、安心して日々を歩まれますように。

God bless you!

心からの愛と感謝と真心をこめて

2014年4月29日

夢咲璃い 拝

1. 神は決してお見捨てにならない



新訳聖書の「ヘブライ人への手紙」の中に、神は決してあなたを見捨てることはない、といった御言葉があります。

敬愛なるジョエル師（全米一のメガ・チャーチ、テキサス州・ヒューストンにあるレイクウッド・チャーチの主任牧師様でいらっしゃるジョエル・オスティーン師）曰く、聖書の中で、唯一ここだけが3回も繰り返されている場所なのだそ

うです。

わたしは決してあなた方を見捨てることはない、神はそう強く語られたのですね。

実は、この御言葉は、わたくしが、もう本当にどうしようもなくなって、神様におすがりするしかなかったとき、アメリカのボランティアで祈ってくださるサービスを利用させていただいたときにいただいた言葉でもあります。

どんなに打ちひしがれても、明日が全く見えないときでも、神様は決してわたくし達のことをお見捨てにはなりません。

聖書の中で唯一、三回も繰り返されているということは、神様はわたくし達人間の弱さをよくご存じなのです。

だから、三回も繰り返しておられるのですね。

どんなときも神と共にある者は幸いです。

この世で最も高きところにいらっしゃる全知全能の神がついていてくださるからです。

信仰は希望であり、生きるよすがです。

神を信じる者は、皆、その信仰を体現して生きてゆかなければなりません。

先が見えないときでも、次の一步を踏み出すことは出来るでしょう。

一気にことをなす必要はありません。

神が照らしてくださる次の一步を少しずつ重ねてまいりましょう。

きっと、神様が守ってくださいます。

大丈夫です。

どんなときも、どうか、神のご加護とお導きを信じて、お強くあられてくださいね。

心からの愛とエールをこめて。

2. 内なる声がわたしを支えてくれた



数年前の夏、わたくしは大打撃を受けました。

「あんなに一生懸命、たくさんの時間をかけてきたことが全部木っ端微塵になってしまった」

まるで、その木っ端微塵になった音が、耳をつんざく、それをはっきりと体感したかのような、それほどまでに大きな衝撃でした。

その夜、窓の向こうにきらめく夏の美しい星座を向こうに眺めながら、わたくしはひとりベッドに沈むしかありませんでした。

散々泣いて、泣きつかれて、午前3時。

一向に眠れず、「明日から一体どうやって生きていったらいいのだろうか?」、そんなことばかりぐるぐる考えておりました。

しかし、何も答えは浮かんでこず。

あまりのショックに、心はひたすら悲鳴を上げ続けていたのでした。

「もう、本当に、何もかもおしまいなの...?」

そう思い始めたときのことです。

途端に、わたくしのおなかの底から、まるで最後の力を振り絞るかのような、ものすごく強いものがむくむくと湧き起こってきて、はっきりとこう言ったのでした。

「ううん! わたしになら出来る。わたしになら、絶対、世界最高レベルの素晴らしいものを、皆様にご提供してゆくことが出来る!」と。

それは、言わば、もうひとりのわたくし（神の子としてのわたくし）が高らかに宣言したかのようでした。

「何を言ってるの? あなたにはものすごい力が備わっているのよ。こんなことで夢をあきらめてはなりません。あなたになら、必ず、神様が与えてくださったこの道を成就することが出来るのです」

そんなふうに、その声は、落胆するわたくしを励まし、導いてくれたのでした。

あれから数年のときが流れましたが、それから、わたくしの道は困難、困難の連続で、あの夏の大きな衝撃以上のことが、度々我が身に襲いかかりました。

あまりの情けなさに、日々をやっと過ごすしかなかったときもありました。

それでも、お陰さまで、わたくしは今も、この夢をあきらめずにおります。

今となっては、お陰さまで、「まる4年ぶりにお外で働いた15ヶ月間」（2013年の1月から今日まで）を通じて、改めて、神様がわたくしに与えられた使命がなんなのかもよく分かるよ

うになりました。

落ちるところまで落ちて、低い低い谷底を這い回り続けるしかなかったけれど、それでも、そうした「遠回り」を経て、神様はわたくしに新たな力をお授けくださったのです。

わたくしは、今、もう一度・・・、あの「夢を叶えよう！ 未来は薔薇色！」と信じて疑わなかった頃の自分に再び戻りつつあります。

まる6年、もがきにもがき、本当に本当につらかった。

孤独と絶望、そんなものは、もう散々味わい尽くしました。

何度も、わーわー声を上げながら、神様に泣きついてきたけれど、それでも、神様はわたくしを決してお見捨てになりませんでした。

絶望の谷底でさえ、御恵みをくださいました。

今日までの長い長い嵐の日々、わたくしを支え続けてくれたのは、あの夏の夜、おなかの底から強く叫んだ、あの声だったと信じます。

間違いなく、あれはもうひとりのわたくし、「真我としての自分」でした。

あの強さがあったから、こんなにも弱いわたくしはここまで歩いてくる事が出来たのです。

神の子としてのわたくし、真我としての自分は、いつも、普段、人間として、右往左往しつつ、もがきながらも必死に前に進もうとするわたくしを支えてきてくれました。

そうした自分が居てくれるから、こんなにも弱いわたくしでも、なんとかこの世でこれまで生きてこられたのでしょうか。

どうか、皆様おひとりおひとりの中にも、こうした神の子としてのご自分がいらっしゃることを忘れずにいらしてくださいね。

きっと、人生の危機には、神の子としてのご自分が、貴女を助けてくださるはずです。

ご自分の中にある無限の力を信じてらしてくださいね。

貴女にいつも光がありますように。

愛と祈りをこめて。

3. それでも尚、の希望



多くの人々にとって、「希望」という言葉は、それ自体が、きらめく夜空の星であり、朝焼けを見たときのような美しい感動を呼び起こすものではないか……？、とわたくしは思います。

他にも、夢、微笑み、幸せ、成功、繁栄、健康、美……など、言葉自体が、その言霊をもってして、心をパーッと明るくしてくれるものが沢山ありますよね？

わたくしにとって、希望と夢はなくてはならないものです。

わたくしは、これらの言葉自体が持つ、その輝きに魅せられて、ずっとこれらの言葉と共に生きてまいりました。

けれど、わたくしは、最近、希望とは、お日さまのような、ひたすら明るい、パーッとどこまでもどこまでも光を届ける――、そういったわかりやすい、単純なものではない、と思うようになりました。

そうではなく、例えて言うなら、嵐が去った後の夜明けの草原にそっときらめく朝露のような……、そんなものが本当の希望ではないか？、と思うのです。

順境にあるとき、希望や夢を語るのは簡単です。

大抵のことが滞りなく進んで、特段苦勞もないようなときに、前向きな希望を語るのは簡単なことです。

次から次に、こうなったらいいなあ！ ということ語るのは楽しいでしょうし、そうしたときの思いついて、ワクワク弾んで、怖いものなんてないって感じ？、でしょうか。

何事もスムーズに進んでいるときに、夢を大きく広げ、未来へと繋げてゆくのは、そんなに難しいことではないし、誤解を恐れずに言えば、多くの方が、割と簡単に出来ることだと思うのですね。

でも、わたくしは、本当の希望、とは、全てを奪われ、絶望の谷底に叩き落とされても尚、神様を信じられるか、自分を信じられるか、最善を尽くせるか、ではないかと思います。

明日が見えなくても、神様に見放されたように思えて仕方ないときでも、可能性がほとんどないように思えても……、それでも、わたしは神の子として、神様を信じ、天の永遠の勝利を信じ、出来る限りのベストを尽くします、そう言えるところに、希望という言葉の真髓があると思うのです。

この世の醜さ、儂さ、ずるさや、どうしようもなさにつづかったとしても、それでも、神はこの世の全ての上をゆかれる御方であり、天の善性は決して失われることはない、そんなふうに、天

の勝利をどこまでも信じる強い意志、信仰、それこそが本物の希望、だとわたくしは思うのです。

神様の道をゆく、光の道をゆく、ということは、決してたやすいことではありません。むしろ、時に、全てを奪われ、孤独に震え、信仰を試されることだって何度となくあるでしょう。

それでも、一度、神様が示された道をゆきます！とお誓い申し上げたのなら、どんなにくるしくても、決して、その道を降りることなど、許されないのです。

洗濯機でガラガラ回され、何度脱水機にかけられようと、それでも尚、わたくしは神様を信じます、天の勝利を信じます、永遠の善性を信じます、そう言えるかどうか。どんなにかすかな声でも、どんなに震えながらも、散々泣き尽した後でも、それでも神様を信じられるひとこそが、真の勇者であり、真の希望を語るひとだと、わたくしは思うのです。

わたくし達がこの世に居られる時間は限られています。

長くても百年余り、大体の方が数十年でしょう。

その限られた時間の中で、どれだけ神様の御為に働けるか、どれだけこの世に天の御光をおろせるか。

それらは全て、わたくし達自身にかかっています。

そんなわたくし達に求められるのが、「それでも尚、の希望」、なのです。

決してくじけることなく、くさることなく、つねに、よき「ものの見方」をし、少しでも、この世に光の花を放ち続けてゆく。

今、その大切なお役目を、特に、わたくし達、日本に住まう女性達は皆、授かっているのだと思います。

小さなことからでいい、決して希望を捨てることなく、今、出来ることを、ここからやってゆきましょう。

必ず、御国はやってきます。

そのためにも、わたくし達ひとりひとりが、大切な天のアンバサダーであることを自覚して、誇り高く美しく、たゆまぬ努力を重ねてまいりましょうね。

貴女にいつも神様の祝福がありますように。

愛と祈りと真心をこめて。

4. 信念



わたくしが今に至る夢の道を歩き始めたのは、2007年のお正月明けにサイキックに目覚めて間もなくのことでした。

ある日突然、「運命の地図」が明らかになり。

その衝撃があまりに大き過ぎて、それで、もう、この道を選ばざるを得なかった、というのが正直なところです。

以来、どこに居ても、何をしても、それが消えることはなく。

7年後の今に至ります。

時に、ひとさまから、どうしてわたくしがこの道を歩き始めたのか、ご質問をいただいたとき、わたくしは、古代、いえ、もっとそのまた古くからの……、わたくしという魂が生まれた頃のことから遡ってお話しせざるを得ず……。ものすごい時間が必要となります。

それに、その内容は、まるでおとぎ話。

（スピリチュアリティに馴染みのない）一般の方にお話ししても、理解していただけるとは到底思えません。

それどころか、普段、スピリチュアリティに親しんでおられる方でさえも、正直なところ、本当に理解していただけるかどうか、甚だ疑問です。

わたくしは、それほどまでに奇想天外な魂の物語を信じておρισして、それゆえ、その物語の延長線上にある今を生きているのでした。

しかし、大事なことは、ひとさまに理解していただけるかどうかではなく、どれだけ自分がこの霊的背景、この霊的な物語を信じているか、です。

自分で自分を信じられなければ、これほどまでの過酷な道（あくまでも絶対評価で言って、ですが）を歩み続けることは到底不可能です。

「誰がなんと言おうと、わたしには、神様からいただいた大切なこの使命がある。だから、その実現のために邁進するのみ」

——しかし、その根拠は、わたくしの内なるヴィジョンにしかありません。

どんなときも、何があっても、そのヴィジョンを信じ続けられるか？

全てはそこにかかってくるのですね。

わたくしは今日まで、何度も自分が間違っているんじゃないだろうか？、自分は、神様の道をゆくどころか、神様の御心にかなわない夢をバカみたいに追いつけてるのでは？、などと、散々迷い、悩み、くるしんでまいりました。

しかし、国内外のサイキックの先生方にみていただいても、全てそのお答えは "YES!" (=「貴女が信じていることは正しい」) で、それどころか、「全ては順調！」とまでおっしゃる先生もおられて・・・・・・・・。

(こんなに七転八倒しているのに！！！！)

・・・・・・・・ということ、わたくしが信じ続けている霊的なウイジョンは間違いないとのこと、なのです。

そのうち・・・・・・・・時の経過と共に、少しずつ、わたくしの信念も育っていったのでしょう、今では疑問に思ったり、迷うことも、それほどなくなりました。

これは、昨年夏、「最後の最後まで、この夢を生きます！！」という誓いをこめて、10年以上通称名として使用してきた「璃い」の名前を、正式な戸籍名にしたことが、やはり、非常に大きかったと思います。

他にも、パスポートを "Ree" の綴りにしたり。

(よって、わたくしの法的な名前の英字綴りは、"Rii" ではなく、"Ree" なのです)

こうした一連の行動を、わたくしは「天に思いを刻む」などと称していたのですが、そうやって、改めて、神様にお誓い申し上げたことで、だんだんぶれなくなっていったのでしょう。

結局、何事も、どこまで自分を信じられるか、だし、また、その思いが、どれだけ深く、強固で、揺るがないか、なのだと思います。

己の中に確固たる信念があれば、紆余曲折あれど、やがては、全てを乗り越えてゆけるはず。

何事もそうですが、自分を信じられるかどうか、結局は訓練なのだと思います。

散々迷い、悩み、くるしみ、自問自答を繰り返し、右往左往して一一、そうしてゆく中で、徐々に信念も育ってゆくのでしょう。

ぐるぐる思い悩んで、様々に思いを巡らすことも、また大切なプロセスなんですよ。

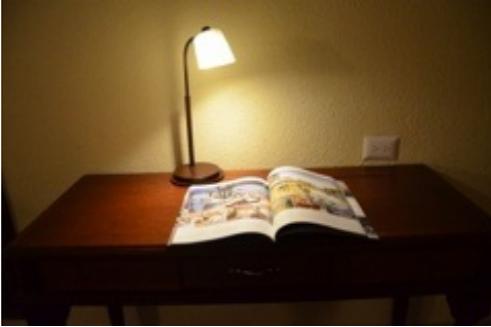
ですから、決して焦る必要はありません。

それよりも、いつも自分が、自分自身の最高の応援団でいられるように。

弱い自分もまるごと受け止めながら、信じる道を一步一步、歩いてまいりましょうね。

God bless you!

5. 心を寄せるもの



わたくしが今に至る夢の道を歩き始めたのは、2007年、サイキックに目覚めて間もない頃、この世のものとは思えないほどの美しい世界を、神様が垣間見させてくださったから、でした。

あまりに美しく光輝くその世界に、わたくしも少しでも近づきたくて……………。

ただそれだけ、その必死の思いだけでここまでまいりました。

この道を歩き始めて、わたくしにとって、何がいちばんきつかったか——、それは、それほどまでに美しい世界を志向しながらも、自身は、この世で最も醜い感情に翻弄され続けてきたことでした。

「地上の女神」、「神の国のプリンセス」、そんなふうにごの実相（神の子としての本当の姿）を定義しながらも、この世に存在するあらゆる罪、悪の中で、その最たるものが自らの内にあることは、完璧なまでにわたくしを打ちのめし、また、それは身体の痛みとなって頻繁にあらわれ……………。

どなたにもよう話せない、このどす黒いものに、わたくしはどこまでもどこまでも翻弄され、くるしめられ続けてきたのでした。

昨夜もまた、鬼のようになりながら、感情が赴くまま、誠に醜い言葉をずっと繰り返していたのですが、ふと、気づきましたら、そうしたわたくしを、まるで、イエス様が両手を広げてまるでと包み込んでくださったような——、そんな印象を持ちました。

すると、不思議なことに、それまで荒れ狂っていた心がすーっと静かになり、やがては眠りにつくことが出来たのです。

2007年、サイキックに目覚めて間もない頃、神様に垣間見させていただいたのは、間違いなく、天の境地だったとわたくしは信じております。

そうでなければ、弱虫でもものすごく泣き虫なわたくしが、ここまで——命を懸けて、この夢を必ず実現いたします、などといった誓いを立てるわけがありません。

それほどまでに素晴らしいものを知ってしまった、だから、もう絶対にこの道をおりられないのです。

というより、それ以前に、（神様に）おりさせていただけるわけがないのです。

それだけは何をおいても、絶対に許されることではありません。

ならば……………。

どれだけ難しくとも、出来るだけ、心も身体も、自らのエネルギーフィールドも、全てきれい

に保って、神様を思い、神の国のプリンセスらしくいられるよう、努力し続けてゆくしかありません。

この世で普通に日常生活を送っていたら（特に、何も考えず、という意味です）、あっという間に、この世の次元のもので、心が埋めつくされてしまいます。

そうすると、天のものが入ってくる余地などありません。

だからこそ、わたくし達は日々、祈り、瞑想し、神の御言葉を学び、心と身体を愛し、魂の滋養となるものだけを積極的に選びとってゆかなければならないのです。

平たく言えば、いかに、この世の次元のものに毒されないか、です。

神の道をゆく者には確固たる生き方が必要なのです。

また、自らが力を持つことを恐れてはなりません。

神の子として誇り高く美しくあるためには、それ相応の権威（神の目からご覧になった霊的な権威）を持つことを恐れてはなりません。

外柔内剛でありながら、どこまで、天の御光をこの世にあらわしてゆけるか。

それは、ひとえに、わたくし達自身にかかっているのです。

この世にありながらも、神の道をゆくことは並大抵のことではありません。

皆様も様々に思い悩まれることでしょう。

そうしたときに心を寄せるべきは、ただひたすら天の御恵みであり、神のご栄光です。

昨晚、鬼のようになっていたわたくしの心をイエス様が静めてくださったように、神様や天国のことを思えば——、あるいは、今日までに神様が与えてくださった御恵み、あらわしてくださった御業、起こしてくださった奇跡——、そうしたものを思えば、どんなに心が荒れ狂っていても、必ず、少しずつでも、神様の愛のエネルギーが流れ入ってきます。

心が天を向けば、必ず、天の御光が入ってくるのです。

人生とは、誠にわかりやすいもので、わたくし達の心にあるものが目の前にあらわれてまいります。

ですから、心に修羅の世界を置く方（かた）は、実際に修羅の道を歩むこととなるのです。

勿論、天災や戦争など、個人の力ではどうしようもないこともあります。

時には己のあまりの無力さに、愕然とすることもあります。

それでも、最後の最後、息を引き取る、その最期の瞬間まで、少しでも、ひとさまによきものをお渡しし、天の御光をお届け出来るよう努めるならば、必ず、そこに神様の祝福があることでしょう。

わたくし達はこの世を去る最後の最後まで、決して自らの本分（神の国のプリンセスとしての）を忘れてはならないのです。

これまでみていただいた霊的な先生によれば、わたくしの、この、どうしようもない醜い感情は、今後わたくしがおひとをみさせていただくために必要な人生のレッスン、なのだそうです。身体中の至るところが炎症を起こし、わたくしの身体は、まるで不動明王さまのように、絶えず炎に包まれているのですが、これからわたくしが果たしてゆくお役目には、それだけの試練が必要とのこと。

しかし、こうした人生の試練、負荷、艱難辛苦もまた、全ては神様の御恵みなのです。こうしたことがあって初めて、わたくし達は霊的に成長してゆけるのですから。だから、全てが神様からの大切なプレゼント、なのです
(なかなか、そうは思えませんが)

この世にあっても、神様を思い、天を仰ぎ、祈りの道をゆくなら、必ず、神様がよきにとりはからってくださいます。

わたくし自身、これまで何度も、ぎりぎりのところで救われてきました。
(神様、もっと早く助けてくださいよお～！ と思うのはしょっちゅう)

いつも、天のよきものに心を寄せて、誇り高く美しく、凜とありたいものです。わたくし達が天のアンバサダーとして生きることによって、また、同じように生きようと志してくださる方々が出てきてくださるはずです。

可能な範囲内で結構ですから、出来るだけ、心を平らかに、清らかに持って、神様が支え、守り、導いてくださることを信じて、それぞれの道をまいりましょうね。
貴女にいつも神様の祝福がありますように。
愛と祈りと真心をこめて・・・・・・・・。

6. 夢は消えやしない



かつて、わたくしが30歳で正社員の仕事を辞めたのは、もう次のステージに行くべき、という思いがあったのと、何よりも、東京でメンタルヘルスの業界に入りたかったから、でした。

しかし――、その後、体調不良や、後厄のきつつい時期が重なったことなどもあり、2007年の1月に35歳でサイキックに目覚めるまで、わたくしはひたすら坂道をゴロゴロ転がり落ち続けることになりました.....。

大好きだった「運命のひと」と信じた彼ともうまくゆかず。

(.....っていうか、この信心には、最初から大きな無理があったので

すけれどね)

とにかく、2006年の12月には、人生、ぼろぼろだったわけです。

そんなわたくしは、日々の生活にすっかり疲れはててしまい、いつしか、東京でメンタルヘルスの業界に入る！ ってな夢は、心の奥底にすっかりしまいこんでしまっておりました。

けれど、それは、決して、なくなってしまったわけではなかったんです。

ただ、心の奥にしまいこんでいただけ。

あきらめたわけでもなく、忘れていたわけでもなく。

確かに、心にはちゃんとあったのですね。

やがて、2007年の1月、サイキックに目覚めた頃と時を同じくして、それまで不安定極まりなかった生活が、(その頃新しく始めた派遣の仕事のお陰で)ようやく安定し始めてからは、心に余裕が戻ってきたのでしょう、電車のつり革広告で見かけた人材紹介会社の説明会に参加してみたり、始発で大阪駅前の中央郵便局まで仕事の応募書類を投函しに行ったり。(ぎりぎりまで迷って、大阪市内のあるお仕事に、締切直前になって申し込んだため、始発で駅前の郵便局まで投函しに行った)

.....と、徐々にですが、かつての夢に向かって行動し始めたのでした。

日々の生活に精一杯で、あらゆる面で余裕がないようなときは、本来の夢など脇に追いやってしまうのは、ある意味、いたしかたないことです。

でも、生活が安定してくると、徐々に自らのエネルギーも戻ってきて、再び、夢へのアクションを起こしてゆけるようになるのですよね。

やはり、心のゆとりって大事だな、と思います。

昨年、『月下上海』で第20回松本清張賞を受賞された、作家の山口恵以子さんは、食堂のお仕事をなさりながら、小説家になる夢に向けて、努力を重ねてこられたとのこと。

一躍、時のひととなられた山口さんは、食堂のお仕事があったから、夢に向かって頑張ることが出来た、というようなことをおっしゃっておられました。

まず安定した生活があって、その土台があったから、夢に挑戦し続けることが出来たのだ、と。

話は戻って、わたくしの「東京でメンタルヘルスの業界に入る」というかつての夢は、その後、この夢を上回るさらに大きな夢に出逢ってしまったため、自然となくなってしまいました。

でも、30歳の頃、描いていた夢は、かなりの紆余曲折を経て、ちゃんと再び、35歳のわたくしのもとに、ほんのつかの間でも戻ってきてくれたんです。

いくつになっても、夢は消えやしない。

もし、消えたと思っているなら、それは多分、間違いで、心の奥底で眠っているだけだよって、わたくしは申し上げたいです。

きっと、まだ、その夢自体は輝きを失ってはいない。

今からでもいい、今の貴女が出来る範囲内でいいから、もう一度、手に取ってみて……？

きっと、何か、化学反応が起こるから。

わたくしは、おひとりおひとり、その方の心に宿る夢、というのは、やはり、何らかの根拠があるのだと思います。

それは、おそらく、霊的な部分が非常に関係していて、その夢は、ご自分の本質（＝神の子としての自分）に近づくために歩まれるべき道のひとつ、なのだと思うのですね。

どなたも、霊的本質、神の子としてのご自分は光そのもの。

夢がキラキラしているのは、その夢を通して、ご自分の光を垣間見ることが出来るから、なのではないでしょうか？

ですから、わたくしは夢を大切にすべきだと思うし、可能ならば、夢を生きていただきたい、そう心から思うのです。

夢の翼を得るため、「一旦」ここに帰ってきたはずの滋賀暮らしが想像を遥かに越えて、まる6年を迎えつつある今も、わたくしの心には、ずっと同じ夢（2008年の春、大好きな心のふるさと、箱根を出てきたときと全くおんなじ夢）がキラキラ光り輝いています。

今日までの日々、もがきにもがき、悩み、泣き、くるしみ抜いてきたけれど、でも、わたくしにはずっと同じ夢があったから……！

だから、なんとか、ここまで来ることが出来ました。

きっと、夢は、神様からの贈り物。

皆が皆、全てを全て、叶えることは難しいかもしれない。

でも、それでも、わたくしは、神様からいただいた大切な夢を、少しでも形にしてゆけたら、と思います。

そして、わたくしが夢を生きることが、同じように、夢を生きる方へのエールとなるのなら、これほど幸せなことはありません。

皆様も、可能な範囲内で結構です、夢を、どうか大事になさってくださいね。

貴女の夢が叶いますように。

愛と祈りをこめて。

God bless you...!

7. それでも、人生は続く



昨夜またショックなことがあり、おいおいと泣いておりました。

あまりに必死に泣き過ぎたせいか、突然唇がプクーツ！ と腫れてしまい。

どうやら、クインケ浮腫というみたいです。

未だ、ちょこっと腫れております。

昨夜はいろいろな要因が重なってしまい、「いつものこと」ながら、身体がわなわなと震えるくらい、それはそれは一生懸命泣いてしまいました。

感情はぐるぐると、ものすごいスピードで、どんどん破滅的な方向に。

それはそれは、まるでジェットコースターに乗っているみたいで。

話は遡って、今年のちょうどクリスマスの頃。

そのときもあまりにつらかったので、わたくしは、アメリカの基督教の、祈ってくださるサーヴィスを利用させていただいたのです。

で、昨夜、そのときに教えていただいた、いくつかの（基督教の）霊的なサポートサーヴィスを頼ろうと、泣き震えながら、そうした幾つかのサイトをあたってみたのですが、そうこうしているうちにどうにもならなくなって。

急いで、思い描くお姿のイエス様の御絵（ごえ）をネットで探し、やっと見つけたお姿に向かって、必死でお祈りし続けました。

昨夜はご飯も食べられなかったのですが、そうしているうちに、泣き過ぎたためか、おなかがすいてまいりまして。

夜遅くだったのですが、あわてて最低限の食事を取り。

すると、おなかが満たされて、幾らか安心したのでしょうか、そのうち、こてん！ と寝てしまいました。

そして、今朝。

今日はこの連載を書く日になっておりましたので、昨夜のことはいい題材になるぞ、しめしめ・・・・・・・・などと思い。

この歳にもなると、やはり、転んでもただでは起きません。

泣き過ぎて重たく腫れた頬に、昨晚からの浮腫で未だ腫れた唇。

ありゃまあ、こんなひどい顔は見たことないわあ・・・・・・・・だなんて思いながら、それでも定刻どおりに起きました。

話は突然変わりますが——、わたくしが、昨年7月1日に髪をベリーショートにして、やりたいことは全部やろう！！ 後悔しないように！！ って強く強く思ったのは、これはわたしの人生やっ！！ って思いが沸点に達したからでした。

わたくしはこれまで、好き勝手に生きてまいりました。

いつも、出来るだけ、自分の心に忠実に、自分に正直に生きてきたつもりです。

でも、どこか——、弱いのですよね。

最後の最後まで頑！ としてられない。

どこか気弱で、ひるんでしまう。

そんな自分の弱さが、物事の「成就力」を低くしてきたように思います。

けれど・・・・・・・・。

もういい加減、わたしも40を越えた。

これはわたしの人生や。

いい加減、ほんま、生きたいように生きよう。

後悔だけはせんように。

やりたいことは全部やろう...！

そう心に決めて、昨年7月1日から、いろいろと動き始めたんです。

新聞への投書、戸籍（名）の改め、Reeの綴りでのパスポートづくり、テレビ番組の出演.....などなど。

本格的に動き始めたばかりということで、ビギナーズ・ラックもあったのでしょうか、この一年は、沢山楽しい経験をさせていただきました。

話は戻って——、今朝は瞼も唇も腫れて、心も大層痛く.....、沈みそうになったのですが、でも、

それでも人生は続く、ならば、今日は今日で出来ることをしよう。

あかんかったことは、もう、しゃーない。

済んでしまったことは、どうにもならん！

ほやけど、これから出来ることは、まだまだ沢山ある。

今回のことは残念やったけれど・・・・・・・・、でも、こうなったのも、もしかして、神様が、わたしを、なんか悪いもんから守ってくれはったんかもしれへん。

今回機会を与えていただいたことだけでも、感謝せやな（あかん）。

落ち込んでるときは、なかなかええイメージが思い浮かばんけど、どんどん落ちてくのはあかんで。

こういうときこそ、ぐっと踏ん張らにやあ.....

などと思ったのです。

この間、ある方のお話を聞いて、改めて思ったのですが、今のわたくしは、もう、本当に「神様LOVE！」で、ジョエル師がおっしゃるところの神様、イエス様がいらっしゃらない人生は考えられません。

イエス様が必ずお守りくださる、

イエス様が必ず導いてくださる。

全てはきつとうまくゆく。

大丈夫。大丈夫！

そんなふうにはたすら自分を励まし、言い聞かせております。

人生はまるで winding road。

行きつ戻りつ、凸凹だらけ。

時に行き止まりもあったりして、全く飽きることなどありません。

昨夜のわたくしみたいに、まるで「倒れるしかない」夜もあるけれど・・・・・・・・。

それでも、どんなときでも、人生は続いていくんです。

立ち止まってくれることなどありません。

先日お話を聞きに行った方がおっしゃっておられましたが、今は本当に「実現するのが早い」んだそうです。

流れに「ノっていれば」、あつと言う間に、めくるめく展開になってゆく。

だからこそ、心に置くものが大事、ってなことをおっしゃっておられました。

昨夜みたいにわなわな震えながら延々泣き続ける夜もあるけれど、でも、それでも確実に人生は進んでいて、今は、2014年5月22日、木曜日のお昼過ぎです。

昨夜のことは過去になりました。

人生は思うようにいかないことの連続。

だからこそ、つねに気づき、学び、どうしたらよくなってゆくのか、頭を働かせ、その一方で、直感や直観も使いまくり、試行錯誤を繰り返して、ドリカムの歌じゃないけれど、それこそ何度でも何度でも挑戦して、そしてやっと、ある日突然、（いつもジョエル師がおっしゃるところの）God's Favor を頂いて、ふわっと「空が飛べるように」なるのだと思います。

逆に言えば、そうやって簡単にことが運ばないから、人生、面白いんですよ。（精一杯の強がり）

様々な困難にもめげず、試行錯誤を繰り返し、その過程においては様々な感情を味わい尽し。

だからこそ、わたくし達は靈的に成長することが出来るのです。

四十路になって、わたくしもますます「関西のオバチャン度」が増したのでしょうか、ここまで来たら、もう、でーん！ と居座って、どどーん！ と、行ったれー！！ などと思います。どうせ死ぬときはなあんも持っていかれへんのです。持っていかれるのは、全て、自分が経験したことだけ。

昨夜は、なんでわたしの人生、もう、こんなんやの？ もう、ええ加減にしてーっ！！（悲鳴）などと思っておりましたが、ほれならほれで、この逆境をバネにして、大きく一步、前に、どどーんっ！！ と出やな、あきません。

泣いても一生、笑っても一生。

同じ生きるなら、笑わな、損、損。

ほかでもない、わたしのための人生や。

他のひとのもん（=物）やあらへん！

ほなら、とことん、関西のオバチャン、底力を発揮して行きまっせー！！

わたしのための人生、とことん行くって決めたんや。

なんも怖いもんはあらへんでー！！

どんなときでも人生は続いてゆきます。

どうせ、いつかは、みんな死ぬんや。

ほれやったら、悔いなく、とことん生きましよう。

関西のオバチャンの底力、見ててやー！！

・・・って、今日のところは、42歳のオバチャン、めいっばい強がっておきます。

ちゃんちゃん♪

8. まず決めて、一步踏み出そう。そうすれば、「次」がやってくる。



この3月（2014年の3月）で、それまでの派遣のお仕事
が終わり、その頃から、自らの仕事に本格復帰しなければな
らない……と分かっているながらも、正直なところ、
なかなか、本当に深いところからの決意と覚悟が出来ません
でした。

けれど、今年はサイキックに目覚めた2007年と同じくら
い大事な年になる、と深いところで分かっているわたく

し――。

ならば、2007年と同じように過ごしてみたらどうなるかしら？ と、ここ数年、ずっと自ら
に許してこなかった「あること」を復活させてみました。

そしたら、面白いもので、翌日、宇宙は早速その方向性を支持するような出来事（意味のある
偶然、セレンディ・ピティ）をもたらしてくれまして……。

以来、ちょっとした「奇跡」が続いております。

これは、宇宙が、わたくしが下した決断を正しいと言ってくださっているのであり、それゆえ、
様々な偶然が重なり、波に「ノっている」ような感じ＝フローの状態になるのですね。

混沌とした状況の中で、わたくしは思い切って自分に正直に生きることに決め、勇気を持って一
歩を踏み出した、

↓

すると、すぐ翌日に「それでいいのです！」と宇宙がおっしゃってくださるような見事な偶然が
起きた。

↓

そうやって一步一步進んでゆけば、やがて、道が自然と出来上がってゆき、気がついたら、（短
期間で）ものすごく遠くまでいける。

これが、まさしく、2007年、わたくしに起こったことでした。

先が見えない状況の中で、何かを決めて動くのは、途方もないリスクがあります。

なんせ、先が見えないのですから、どうなるかなんて全く分かりません。

わたくしの場合、もう本当に「後がない」ので、正直なところ、怖くて怖くてたまりません。

それに、過去に、こうやって、自らにとって本当に正直な道を選んでみた結果、ドツボにはまっ
てしまったことも二度や三度ではないので、本当に怖いのです。

(今では、そうした失敗の数々も、全部、必要なことだったとは思いますが)

けれど、いちばん怖いのは、身動きがとれなくなってしまうことなんですよ。

間違ってもいい、とりあえずでも、何か方向性を決めて動いてみる。

その結果、宇宙が「YES!」と言ってくくださるなら、素敵な出来事が起こるでしょうし、そうでないならば、気づいた時点で、また修正をかければ、よろしいのです。

とにかく動いてみることに。

一歩踏み出してみることに。

そうすれば、必ず、次がやってきます。

もっとも――、わたくしだって、やっとハラをくくって動き始めたばかりなので、いくら宇宙のサポートが感じられているとはいえ、まだまだどうなるかは分かりません。

ここで慢心して、調子に乗って、自己中心的になってしまったりすると、たちまち足元をすくわれ、ひっくりかえってしまうことでしょう。

そうではなく、

- ・こうした霊的な現象(=宇宙が支持してくくださることから起こる様々な偶然)を謙虚に受け止め、
- ・現実から大きく解離してしまうことなく、つねに冷静な視点を保ちながら、
- ・その一方で、もう既に、理想の自分になったかのごとくふるまい、感謝を忘れず、明るい笑顔と光の心で居るならば、自然と、ことはよくなってゆくのだと思います。

もし、今、(少し前のわたくしと同じように) どうしたらよいのか分からず、途方に暮れていらっしゃる方がおられましたら、貴女は本当はどうなさりたいのか、静かにご自分に問いかけてみてください。

その際、大事なことは、あらゆる可能性を考えてみることに、です。

言い換えれば、何でも思い通りになるとしたら、貴女は本当はどうなさりたいのですか? ってこと。

そう問いかけてみたら、必ず、何らかの答えがかえってくるはず。

おずおずとでもいい、心の中の貴女が躊躇いながらも話し出されたこと、その言葉をどうか大事になさってください。

そうして言葉を引き出せたなら、あとは、それをどうやって形にしてゆくか?、です。

たとえ、どう考えたって、まるで可能性がないように思えることであっても、100パーセントまるまるその形で実現することは無理でも、何か、少しでも、ある程度は形に出来るかもしれない。

大事なことは、ハナからあきらめてしまわないこと。

自分で可能性を限定してしまわないことです。

今は、ほんと、何が起こるか分からない時代です。

「世間の常識」と言われているようなことだって、どんどん変化していっています。

ほんの数年前には考えられなかったようなことが、実現することだってあります。

ですから、かつてのわたくしのようにぶっ飛びすぎないように注意しながらも・・・、それでも、貴女に何かなさりたいことがおありなら、勇気を持って取り組んでみてって、わたくしは申し上げたいのです。

神様は、必ず、わたくし達ひとりびとりに、「ご計画」をお持ちです。

それは、それぞれ、ご自身の心の中にしかあらわれません。

そして、それは、貴女が行動することによってのみ、この世に顕現してゆきます。

わたくし達は、時に、神のご計画から離れ、自らのエゴで動いてしまうこともあります。

しかし、心にあるものが、エゴから生じた願い・夢なのか、神のご計画なのかは、実際動いてみなければ分からないのです。

そして、神のご計画は、まず一步踏み出してみて、初めて、次が見えてくるもの。

神様はいちどきに、ご計画の全容を明らかにはしてくだされません。

そんなこともあって、尚更、わたくし達がまず一步踏み出してみることが求められるのです。

人生は、ほんと、あっという間、です。

ぼやぼや悩んでいる暇など、ありません。

積極思考で有名な作家、故・宇野千代先生は、かつて、そのご著書の中で、「わたしは気づいたら、もう、すぐに動き出していた」、といったようなことを書いておられました。

スピリチュアルな世界の先生方も、今、益々、行動の大切さを説いておられます。

貴女が今、なすべきことはなんですか？

貴女の心をとらえて離さないもの、たまらなく情熱を感じるもの、それは、きっと、貴女が取り組むべきことです。

さあ、勇気を持って、一步踏み出してみましよう！

きっと、新たな地平が見えてくるはずです。

かけがえのない、たった一度きりの大切な人生、どうか悔いなく生きてくださいね。

貴女にいつも神様のご加護とお導きがありますように・・・・・・・・。

God bless you!

9. ホリスティックに生きるということ



皆様は「ホリスティック」という言葉をご存じですか？

「ホリスティック」、英語では Holistic と書きます。

これは、「全体論の、全体論的な」という意味なのですが、スピリチュアルな世界では、主に、一部分の事象だけをとらえるのではなく、全体的に物事を見る、とか、大いなる宇宙と繋がって……、などといった意味に使われているように、わたくしは理解いたしております。

わたくし達は、それぞれ、自分の人生を「生きて」おりますが、実際のところは、「生かされている」んですね。

もっとも、いつどんなところに生まれてくるか、や、大体の人生のシナリオについては、全て、神様とお打ち合わせをして、本人納得の上で、この世に生まれてくる、と言われていますが、でも、これまでのわたくし自身の42年間の人生を振り返っても、やはり、生かされているよなあ……、って、つくづく思うのでございます。

所詮、人間であるわたくしに出来ることなんて、たかだか知れています。

全ては神様のお陰、御業（みわざ）。

そうでなければ、今、ここに、わたくしは存在しないと思います。

「人生は楽しむために」

これはわたくしのご尊敬申し上げます日本のスピリチュアリストさん（とわたくしは思っております）である

中野裕弓（なかのひろみ）さんがよくおっしゃっておられる言葉です。

ロミさん（中野さんのこと）は、とことん人生を楽しんでいたら、やがては、自らが授かった「よきもの」（豊かさ、幸せ、楽しさ、美、成功などの、愛のエネルギーからなるもの）を、今度は人々にシェアしてゆくようになる、といった意味のことを、以前、ご著書に書いておられました。

このことについては、わたくしもそのとおりだと思いますし、まず自分を満たす、という点については、ロミさんに大きく同意するものです。

その一方で、この世の様々な問題を思いますとき、自らの人生をとことん豊かに、美しく、暖かなものにしたい、と願う一方で、この世に置いていただいている間に、少しでも、天の御光をこの世におろすために生きたい、生きなければ、と思うのでございます。

これから、現在の平均寿命まで生きるとしても、あと40年。

40年なんて、あっという間です。

わたくしには現在子どもはおりませんが、もし、これからでも母になれるとして・・・・・・・・、そうすると、わたくしが亡くなっても、我が子はまだその先の未来を生きてゆきます。まだ見ぬ我が子と同じ、たくさんの未来ある存在（小さなひと達）のことを思うとき、少しでも、自らがこの世に居る間に、出来るだけのことをしておきたいと心から思うのです。

わたくしが「ホリスティック」という言葉に出逢ったのは、20代の終わり頃、霊媒体質がゆえの、原因不明の様々な症状に悩み、少しでも元気になりたい、と、霊性の道に答えを求めたからでした。

その後、大変ありがたいことに、内科的なことと歯科については、ホリスティックに診てくださる先生とご縁をいただき、今に至ります。

素晴らしい先生方にお出逢いし、また、自らも様々な霊的な遍歴を重ねてきて思うのは、やはり、真の健康、本当の幸せ、というのは、天の動き（＝神のご意志）に基づいて生きることによって得られるのではないかしら？、ということです。

こんなふうに申しますと、何やら、出家するようなイメージをお持ちになる方もいらっしゃるかもしれませんね。

これは、平たく言うと、要は、自分を大切にし、心の声に耳を傾けて、その声が語るところのことを、愛と祈りを持って実践し続けてゆくということです。

神様の御手に守られて、心安らかに在るとき、そこに、真の健全な生き方、暮らし、幸せがある、とわたくしは信じます。

わたくしには、つつい自らのエゴ（頭）で、ああでもない、こうでもない、と、悩み事や心配事を、まるで嗜好品のように「味わってしまう」悪い癖があります。

昨日も、今年の夏の暑さが気になって、ある予言者の方がどのようにおっしゃっておられるかを調べ始めたら、その方がおっしゃる様々な「悪いこと」を読み続けてしまいました。

すっかり震え上がってしまいました。

しかし、このようになってしまうのは、「ホリスティック」とはかけ離れた境地、行動でありまして、要は、大いなるご存在（＝神様）から切り離されてしまっている状態なのですね。

こうなるとまいりますと、天の理（ことわり）に基づいて生きている、とは言えません。

神様と繋がっている状態＝大いなる神のご加護を信じ、心安らかに、その時々において、「神の国のプリンセス」としてベストを尽くして生きてゆく。

それこそが、まさに、「ホリスティック」に生きる、ということなのです。

人生において大事なことは、何をなすべきか、ではなく、どう在るか、だとわたくしは思います

いついかなるときも美しく、誇り高く、「神の国のプリンセス」として存在していれば、たとえ、どのような状況にあらうと、貴女が生きること＝天に宝を積むこと、になりましょう。そうやって生きていけば、やがては、然るべきときに、然るべき形で、安らかに天にかえられるのだと思います。

地においても天にあるかのように生きましょう。

わたくし達がこの世を去るときに持ってゆけるのは愛の記憶だけ。

そして、わたくし達の真価は、どれだけ、この世に、天の「よきもの」（＝愛のエネルギー）を残してゆけるか、なのです。

全てがまああるくまとまって、よき方向に流れてゆくためにも、「ホリスティック」な生き方を心がけましょう。

そんなふう生きる貴女には、いつも神の祝福とご加護とお導きがあることでしょう。

愛と祈りをこめて。

God bless you...

10. 神は祈りを聞いてくださる



神様はいつもわたくし達の祈りをちゃんと聞いていてくださいます。ただ、全てが全て、わたくし達の願うとおりにこたえてくださるとは限らないけれど。

でも、必ず、いつもちゃんと、わたくし達の祈りを聞いていてくださるのです。

これは、もう来世がない（人間として生きるのは今回が最後です）わたくしの場合、特にそうなのかもしれませんが、神様はいつもわたくしに必ず「敗者復活の機会」を与えてくださいます。

いつも忘れた頃になって、それも思いがけない形で、もう一度チャレンジする機会を与えてくださる。

お陰で、わたくしはいつもそうして、来世へとまたぐことなしに、今までの人生でやり残した課題を無事クリアーさせていただくことが出来るのでした。

それは、例えば——、若かりし頃、入社拒否になって逃げるように辞めた職場に、組織改編で全く新しい事業所になってから、今度は派遣社員として勤めさせてくださったり。

産業カウンセラーの講座だって、一度目は始まってすぐに辞めてしまって。

でも、それから5年後に再び通わせていただけることになり。

（今度は給付金もいただけて）

その後、無事に資格もいただくことが出来ました。

他にも、10代の頃から、何度もすれ違い続けた彼とも、最後は両思いにしてくださったり。

わたくしが以前ある業界にいたときに憧れていた仕事、これについては、同じ業界内の違う事業所のよく似た部署に配属していただくことによって、その夢を叶えていただいたり。

こんな感じで、わたくしは、どんな「課題」も、見事に、やり直す機会を与えていただいています。

このような御恵みに預かることが出来るのは、間違いなく、神様がつねにわたくしの全てをご覧になっていらっしゃるって、わたくしの涙、くやしき、かなしみ、どうしようもない

思い・・・・・・・・、そういったもの・ことの全てをよくよくご存じだからとしか思えません。

やり直しが多いわたくしの人生、お陰で、やたら再会が多いのですが、そうした導きの全ても本当によく出来ていて、びっくりするほどなのです。

ここまで、神様がいつもわたくしにやり直す機会を与えてくださることをお話しいたしましたが、これらはあくまでも一部に過ぎません。

神様はいつもわたくし達の最善を考え、見えないところで一生懸命働いていてくださいます。
そのことを思うとき、ただただありがたい、その一言に尽きます。

わたくし達人間が考えることは、神のお考えには遠く及びません。

神様はこの世の全てにとっての善をいつもお考えになられています。

ですから、わたくし達は、自らの願いを一生懸命お祈り申し上げるのみならず、神が必ずよきにお取り計らいくださる、と信じてお任せすることが大事なのです。

己のエゴを越えて、宇宙の最も高きところにいらっしゃる神のお取り計らいを、まず何よりもご信頼申し上げなければならないのです。

わたくし達ひとりひとは、神様から命の火を分けていただいた、言わば、「分け御魂（わけみたま）」です。

そのようなわたくし達に、「命の親さま」でいらっしゃる神様が悪いようになさるわけがありません。

わたくし達は皆、神のご加護とお導きを信じ、感謝と共に、神の御前に、謙虚に跪くことが求められるのです。

神のご計画、天のご意志に基づいて生きるならば、必ず、必要なものは与えられ、守られ、導かれます。

わたくし達の人生は、神との対話である祈りを通して形作られてゆきます。

祈りとは、自らの願いを延々と述べるのみならず、神への感謝と賛美、そして、これからも神のご意志に基づいて謙虚に生きます、と、日々繰り返しお誓い申し上げるものでなければならなりません。

どうか皆様も、いつも、神様の永遠の愛、ご加護とお導きを信じて、お心安らかにいらしてくださいませね。

貴女にいつも神の祝福がありますように。

愛と祈りをこめて。

God bless you...

11. 御恵みを数える



わたくしは、どうも、一見、穏やかで家庭らしいひと・・・・・・・・・・など
と見られがちなのですが、実は全くその正反対で、男勝りで負けん気が
強く、かなり「激しい」性格です。

そんなだから、今年の冬、お世話になった派遣先様で「安穩」という言
葉に出逢うまで、そうした境地とは無縁の人生を重ねてまいりました。

まあ、生まれる前に描いてきた「人生の設計図」が、わたくしの場合、
かなりドラマチックらしいので、安穩という言葉に縁遠いのは仕方ない
ことなのかもしれません。

でも、ここ数年、本当の豊かさについてのお勉強を重ねてきて、心の穏やかさは豊かさに大いに
関係していることを身を持って知るようになり、これでも、出来るだけ、心を平ら
かに・・・・・・・・・・、と心がけている次第です。

しかし、わたくしは、生来の「ものすごい心配性」でもありまして、激しい気性ゆえか、その心
配も簡単に増幅させてしまいがちなのですね。

それに、人一倍好奇心旺盛で、何事も突き詰めないと気が済まない性分でありますのと、「調
べ魔」で活字中毒ということもあり、今のネット時代、ちょっと気になって調べだすと、めくる
めく不安の世界に突入してってしまうのです。

加えて、何にでもどっぷり没頭してしまう性格なので、日常生活に支障を来たすほど、簡単に不
安に支配されてしまいがちなのですね。

そうすると、心の中に「神様のスペース」がなくなってしまい、（自分から勝手に神様から離れ
てしまったのに、今度は）神様にしがみつこうと必死にお祈りする・・・・・・・・・・という悪循環に
はまってしまいます。

一度こうなってしまうと、なかなかこの無限のループから抜け出せません。

先日もそんなふうになってしまって。

そのときのわたくしはまるで強迫神経症みたいで（っていうか、きっとそうなのではないかと。
素人考えですが）、どうしようもありませんでした。

不安と恐怖に心を乗っ取られてしまって、怖くて怖くて仕方がなく。

仕事も勉強も、どこか上の空で、一日過ごしておりました。

けれど、夕方になって漸く、はっ！ と我にかえったわたくしは、とりあえず、カモミールティ
ーを一杯飲んでみたんです。

そしたら、少し、心が落ち着いて。

マシになりました。

そして、今度は、それまで、不安と恐怖から、ひたすら、神様にお守りください！！ って必死

でお祈りしていたのを、今、ここにある御恵みを数えてみることにしたのです。

まず、カモミールティーが飲めたことにありがとう、と。

次に、今日も一日、家族が無事に過ごせたことにありがとうございます、と。

そして、ベランダには今年も朝顔さんがすくすく育っていてくれて、そのうち、綺麗な花を沢山咲かせてくれる、楽しみだなあ、ありがたいなあ、と。

そうやって目の前の御恵みを数えていくうちに、だんだん心は落ち着いていって、翌朝には心安らかに目覚めることが出来たのです。

敬愛なるジョエル・オスティーン師は、いつも、神を賛美しましょう！とおっしゃいます。

天からいただいている御恵みを数え、心が感謝でいっぱいになるとき、わたくし達は最も神に近づけるのではないのでしょうか？

また、そうした心のあり方こそ、神が最もお喜びになるものだとわたくしは信じます。

与えていただいている御恵みに感謝し、いつも謙虚な心でいるように心がけましょう。

そうすれば、自然と物事はよきに流れてゆくはず。

この地にあって、天に在るかのように生きる、とは、まさにこのような生き方のことをいうのだとわたくしは思います。

「生かされている」ことを忘れず、神様の御手のうちに守られていることを信じて、いつも出来るだけ心安らかにありましょうね。

貴女にいつも神様の祝福がありますように・・・・・・・・・・。

愛をこめて。

12. 神様のタイムスケジュール



わたくしが今に至るこの夢の道を歩き始めたのは、「人生始まって以来、最高に幸せだった2007年」に神様がわたくしに見せてくださったもの（聖なるヴィジョン）こそ我が人生、と確信したから、でした。

以来、今日までの7年間、わたくしはこの夢以外のあらゆる全てを犠牲にして、ここまで歩んでまいりました。

ここに至るまでの道はまさに「茨の道」でしたが、わたくしには何も後悔はありません。

決して楽な道ではなかったけれど、でも、ここまで歩ませていただいたことに、心から感謝しています。

父母の支えなくして、ここまでよう来れませんでしたし、ずっとわたくしを守り、励まし、導いてくださった神様には本当に心から感謝いたしております。

「茨の道」極まりないこの7年間、様々につらいことがありましたが、中でも、どうしてもどうしても理解できなかったのが、わたくしの生活のあらゆることが全くといっていいほどうまくいかなくなってしまったこと、でした。

今となっては、様々な方々をお導きさせていただく使命を与えていただいているがゆえに、これほどまでの過酷な日々を与えていただいたのだ、これも全ては神の御恵みである……、と分かります。

しかし、途方もない孤独と絶望の中におりましたわたくしには、どうしても当時我が身に起こっていることの全てが理解できませんでした。

当時、あまりの出来事に散々な思いをしながらも、それでも、わたくしには、サイキックとして、この夢で絶対に間違っていない、という確信がありました。

それだけでなく、何人ものサイキックの先生にみていただいても、必ず、皆さん、よい答えをくださったのです。

なのに、あまりにもあらゆることがうまくいかなさ過ぎる、これは一体どういうことなんだろう？ と、わたくしはずっと悩み続けてきたのでした。

我が敬愛なるジョエル師は、「予定が遅れているからといって、神様がそれを否定されているわけではない」といつもおっしゃいます。

わたくしの場合、現時点においても「（あのような苦難の時期を経て）無事、成功しました！」と胸を張れるわけではないので、甚だ説得力に欠けるのですが、でも、ジョエル師は、「予定通りにいかないのは、神様は、神様のタイムスケジュールで物事を進めておられるだけで、必ず、いつか、あなたのときは来ます」、とおっしゃるのですね。

先日もひたすら落ち込んで帰ってきた日の夜、地元、滋賀の経済番組を見ておりましたら、ある社長さんが、「成功するまでひたすら努力を重ねる。そうしたら、失敗にはならへん」みたいなことをおっしゃっておられました。

その会社は、リーマンショックで売上げが落ちたそうなのですが、こういうときこそ踏ん張り時、と、開発費を投入されて、新しい分野を開拓してゆかれたそうです。

(地元滋賀のテレビ局である“びわ湖放送”、2014年5月31日の「滋賀経済NOW」、滋賀県守山市の株式会社イマック様の回)

この社長さんのお話を聞きながら、わたくしは「そうやなあ。とことん成功するまで(努力を)続けるしかないんやな」と改めて、当たり前、でも、とっても大事なことを心に刻んだのでした。

神様のタイムスケジュールには、わたくし達ひとりひとりの人生に起こる様々な出来事が全部書いてあって(これもいつもジョエル師がおっしゃることです)、例えば、わたくしが未だにここ滋賀でくすぶっているのも、きっと何か神の意図があってのことだと思っております。

ちっぽけなわたくしには、せいぜい、自分のことや、自分を取り巻く周囲しか見えないし、分からないけれど、でも、見方によっては、何か他の重大な要素が絡んでいて、今はまだここに居るべきなのかもしれない。

これは前の記事にも書いたことで、また、いつもジョエル師がおっしゃることなのですが、神様は、わたくし達のみならず、他のありとあらゆる要素についても、全てがよきに流れるよう、見えないところで一生懸命働いていてくださいます。

ですから、「必ず、然るべきときが来る」、と信じて、今はここで出来る最善を尽くすよりほかないのです。

わたくし達は、願いが思った時期に叶わないと、つい、物事を(途中で)あきらめてしまいがちです。

でも、FUNKY MONKEY BABYSの「あとひとつ」のお歌ではないけれど、「泣きたいくらいの本当の夢」なら、絶対あきらめることなんて出来ないとわたくしは思います。

ならば、とことん、信じた道を貫くべし。

予定が遅れているのは、「否定」ではないのですから。

必ず、いつか、自分の出番がやってくると信じて、ひたすら努力を重ねてゆくしかないのです。

それに、これまた「あとひとつ」の歌詞ではありませんが、何でも簡単に叶ってしまったら面白くありませんよね。

(同歌詞より、「そう簡単じゃないからこそ夢はこんなに輝くんだと」)

何度も挫折そうになりながらも、それでもゴールを目指して最後までひたすら歩を進めたひとの喜びやいかばかりか。

ならば、必ずゴールに辿り着ける！ と信じて、信じる道をゆくのみです。

何事もその渦中に居るときは大変なものですが、それを乗り越えてしまうと、さらにその先には美しい世界が広がっているのだとわたくしは信じます。

台風が通り過ぎたら、美しい青空が眺められるように、過ぎてしまえば、大変だったことも、やがてはひとつの人生の経験として、学びや気づき＝魂の成長へと繋がってゆく。

そう思うとき、人生に無駄なものはひとつもないんだなあ、とつくづく思います。

どうか、今、何かに打ちひしがれていらっしゃる方がおられましたら、必ず、「わたしのとき」はやってくるんだと心から強く信じてください。

松田聖子さんは、かつて、インタビューで、“気持ちは大きなパワーを生むから、夢に向かって手の届くところから1コ1コ努力していけば、かならず、かなう。絶対、絶対、コレはホントなんですよおっ。”（原文ママ）っておっしゃっておられました。

これは、わたくしが高校生の頃の雑誌『セブンティーン』に載っていたインタビューなのですが（構成は故・四方淳子さん）、わたくしは、この聖子さんの言葉は真実だと思います。

（ただし、その夢が神様の御心にかなうなら、という条件つき、ですが・・・・）

「必ず、あなたのときはやって来ます！」と何度も繰り返されるジョエル師の力強いお説教を号泣しながら聞いていた頃から、早や4年の歳月が流れました。

わたくしは、今も、心から、「必ず、わたしのときは来る！」、そう信じております。

そして、この世を去るときは、大いなる満足感と共に、天へとかえってゆくことになるのだとも一心から信じております。

皆様も大切な夢なら、決してあきらめないでいらしてくださいませね。

神様のタイムスケジュールには、必ず、貴女が大空へと羽ばたく日が記されているのですから。愛と祈りをこめて。

God bless you!

13. わたくし達は皆、光のアンバサダー



わたくし達人間は皆、どうしてこの世に生まれてくるのでしょうか？

皆が皆、全てが全て・・・・というわけではないかもしれませんが、わたくしは、ひとがこの世に生まれてくるのは、天の御光（みひかり）をこの地球上におろすためだと信じております。

先日、思いがけなくご縁をいただいて、熊本県にある幣立（へいたて）神宮さまの宮司さまが書かれたご本を読ませていただきました。

（『青年地球誕生——いま蘇る幣立神宮——』春木秀映（はるき しゅうえい）・春木伸哉（はるき しんや）：著 明窓出版 1999年）

このご本で宮司さまが書いておられることはあまりに壮大過ぎて、普段、ニューソート系のキリスト教のお勉強を積み、「宇宙の創造主としての神様」やイエスさま、聖母マリアさまにお祈り申し上げておりますわたくしには、その全てをすんなり受け入れることはなかなか難しかったのですが、でも、このご本に書かれていることは、あのお宮さまに伝わる、ひとつの伝説、あるいは神話、ととらえさせていただくなら、理解することが出来ました。

宮司さまが書かれた壮大なストーリーの具体的な内容はさておき、結局のところ、宮司さまがあのご本でお伝えになりたかったのは、今こそ人類は、世界の平和と安寧のために、心を入れかえ、また、生き方を根底から変えなければならない、真の世界平和、いえ、宇宙平和の実現のために立ち上がらなければならない、といったことだと、わたくしは理解いたしております。

宮司さまがあまりにスケールの大きな方なので、凡人のわたくしには、どうしてもその壮大さに圧倒されてしまいがちなのですが、でも、要は、神様の御心を思い、資本主義、拡大主義にすっかり染まりきった社会のあり方を根本から変えてゆかなければ、わたくし達人類に未来はない、ということをおっしゃっておられるのですね。

それは、主に、環境面の問題でありまして、もっと地球のことを思い、美しい水の星、「命の親さま」である、この地球を大切にしていかなければ、わたくし達は過去に葬り去られた文明と同じ道をたどることになるだろう、と、宮司さまは繰り返し説いておられるのです。

（ご参考までに、精神科医の越智啓子（おち けいこ）先生は、ご本『人生の輝き 内なる光に導かれて生きる』の中で、そうしたことはないと書いておられます）

宗教界やスピリチュアルな世界の中には、宮司さまと同じように、今の地球に危機感を抱き、終末的な現状を少しでもよくしてゆくために、日々祈りを捧げ、愛を行動にかえて具現化していらっしゃる方が沢山おられます。

また、霊的世界に深く携わっておられない方々の中にも、確実に「賢者」はいらっしゃって、その方のご専門分野、あるいは日常生活そのものにおいて、「天に宝を積む」行為を淡々と続けておられることも事実です。

しかし、そうした尊いお志とたゆまぬご努力の一方で、一向に変わらぬ（ように見える）この世を思いますとき、かなしみを覚え、ときには憤りさえ感じられる方も、中には、少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか？

例えば、わたくしはもともと原発は危険なものだと感じておりました、高校生の頃など（1980年代後半）、お隣の福井県にある原発のトラブルが新聞の目立たぬところにひっそり載っていたりしますと、「滋賀県には琵琶湖があるのに！ もっとこういうトラブルは大きく報じやなあかんのやないのん？」などと母に訴えてたりしておりました。

そんなわたくしでしたが、やがて、社会人にもなると、自分のことでいっぱいになってしまって、いつしかそうした問題にあまり関心を持たなくなっていってしまったのです。

しかし、その後、2011年3月に起こった福島原発事故に、わたくし、大変ショックを受けまして、あの年はずっと、とにかく心穏やかにはいられませんでした。

よく夜に、これからのこの国のことを憂えては泣いておりましたもの。

そんなわたくしは今でも当然、反原発、なのですが、でも、原発事故以後のこの国の歩みを思いますとき、本当に暗澹たる気持ちになったりもします。

もう決まってしまったことですので、今更どうしようもありませんが、東京オリンピックも、わたくしは当然反対をしておりました。

オリンピック招致時の、あの安倍総理のスピーチは、普段、総理に好感を持っておりますわたくしでも、「あれはナイよなあ……（吐息）」といった感じで。

最近も除染の目標値を緩和されるというニュースを聞き、ますます心が重くなったりもしました。

（結局、それだけ除染が難しいということなのでしょうが）

しかし、こうした世の現状を憂えていてもなんにもなりません。

わたくしは社会活動家ではありませんし、何らかの反対活動に身を投じるつもりもありません。原発事故後、そうした流れ（反原発などの）の傍流も傍流に少し関わらせていただくようなことがございましたが、そのうち、どこか違和感を感じ、距離を置くようになりました。

わたくし個人としては、そうした流れに携わるのではなく、わたくしなりのアプローチで世の中をよくしてゆく方が自分にはあっている、と思っております。

具体的には、エレノア・ルーズベルトの言葉にありますように、“この世を嘆くよりも、自ら灯りをともせ“、ということです。

己の聖域を守りつつ、人生を慈しみ、楽しみながらも、わたくしは、今ここ、自分が置かれたところから、全世界に向かって、どんなにささやかでもいい、何か、光を放ってゆくことは出来ると思うのですね。

そして、また、まず身近な三人の方に、暖かな愛の波動をお伝えしてゆこう・・・・・・・・、ということもいつも考えていることです。

世界中の全てのひとを救うことは出来ないけれど、今日接するひとの中で、まず三人さんに、何か、暖かなものをお届けしてゆくことは出来る。

それはごくごくささやかなことで、例えば、電車で乗り合わせた小さなお子さんに微笑みかけたり、いつもお世話になっている地元の郵便局の職員さんに明るくご挨拶したり、体調を崩したらしい遠方のお友達にラインでちょこっとメッセージを送ってみたり・・・・・・・・、といったことでよいのです。

わたくしから少しでも何か「よきもの」（ポジティブなもの、暖かなもの、愛のエネルギー）を受け取ってくださった方が、今度はご自分の周囲の方々に「よきもの」をお渡しくださる、そうやって暖かな愛の環（わ）が広がってゆくなら、どんなに素敵だろう、そう思うのです。

わたくし達がこの世に居られる時間なんて、たかだか数十年、長くても、せいぜい百年ほどに過ぎません。

やがては、皆、光の世界にかえってゆくのですから、せめて、この世に居る間は、精一杯、この世に「よきもの」を残してまいりましょう。

押しつけや自己満足になってしまわないよう気をつけながら（自戒をこめて）、これからも日々、わたくしはささやかな光の花をここからたゆまず放ち続けてまいりたく思います。

この記事を読んでもくださる貴女にも天の愛と御光が届きますように。

ひとりでも多くの心ある女性の皆様方が、「光のアンバサダー」として輝いてくださることを心から祈りつつ・・・・・・・・。

愛をこめて。

14. 輝く黄金の道



わたくしがここ滋賀に再び（あくまでも、「一旦」）かえって来てから、くるしみ続けたことは、まさに、わたくしの存在を根底から脅かすほどの、本当にどうにもならない問題でした。

この秋（2014年の秋）でこちらに（あくまでも、「一旦」）かえって来てから、まる6年にもなってしまうわたくしは、今年こそ（かつてサイキックに目覚めた年のように）再びの人生変革を！ と意気込んでおります。

そして、その一方で、やっと、この問題について、「どうにもならないのだ」と観念せざるを得なかったのです。

これほどまでにわたくしをくるしめ続けるものに、わたくしはいつも翻弄され続けてまいりました。

何をどうやっても、絶対に好転することなどない。

この問題が、これまでどれほどわたくしからエネルギーを奪い続けてきたことでしょうか。

そんなだったから、この6年間、わたくしは再び夢の翼を得るところか、ただただ現状を耐えるだけで精一杯だったのです。

そんなわたくしにとって、「この世の美しきものたち」は、生きる上で、オアシスとも言うべき存在です。

今年の1月、今はもうなくなってしまったNHKさんのクイズ番組「連続クイズ ホールドオン！」に出させていただいたときも、わたくしは美術好きで、日本全国あちこちの美術館を飛び回っている、みたいにご紹介いただいたのですが、

わたくしは絵画や美術品、美しいインテリアや建築物なんかが本当に大好きなのです。

（20代の頃、建築やインテリアデザインの道に進もうかと思ったことも！）

どんなにいそがしくても、どうしても（これまたNHKさんの）「日曜美術館」を見てしまうのは、「美しすぎる（井浦）新さん」のお姿を拝見して、ため息をつくためではなく、あの番組で紹介される美しいものたちを見て、心をよいエネルギーで満たすため、なのです。

昨夜も、本当は見ている暇なんかないのに（またまたNHKさんの）土曜ドラマ「55歳からのハローライフ」をどうしても見たくて、迷いに迷って、結局見たのですが（第1回「キャンピングカー」 リリー・フランキーさん主演）、何がよかったって、ドラマのインテリアやお洋服のコーディネートがあまりにも素敵過ぎて、もうそれだけで本当に満ち足りた気分になりました。

まだ春の始め頃に撮影されたりしき昨日の回は、ファッションにもインテリアにも、布の暖かみ

がそこかしこに感じられて、本当に本当に素敵だったのです。

わたくしは常日頃から、ひとの愛情のこもった手間や手仕事を感じられる、暖かで美しい空間が大好きですので

（愛情をこめてきれいにお掃除された、整えられた空間・環境が、本当に本当に心の底から大好きなんです）、昨日の回は、そこかしこに、そうした気配が感じられて、それだけでとても心が満たされ、また、癒されたのでした。

そして、昨日の回は、とても静かで穏やかで、淡々とした暖かみのあるお話でしたので（戸田恵子さん演じる、絵画好きの奥さまがこれまたよかった！）、最後は泣いてしまい。

涙で心が洗い清められたからでしょうか、これから残りの人生は、本当に本当に暖かく優しいものにしてゆこう！！ って、心の底から固く誓ったのでした。

わたくしのこれまでの人生は、いつも駄目出しばかり入るようなストーリーが根底に組み込まれておりましたため、いつも緊張状態で、いつ何を言われるか？ とびくびく脅えてばかりでした。

わたくしがなにげなしに感じることや、ありのままの素直なわたくしが思うこと、言うことなんかも、いちいちけちをつけられたり。

そんなふうには、いつも「たたかいや争いのエネルギー」が満ち溢れていて、勝つか負けるか、正しいか正しくないかの枠組みから決して逃れることが出来なかったのです。

ありのままの「ほよよ～ん のほほ～ん」としたわたくしで居たら、たちまち土俵の外に追いやられるような、やすらぎとは程遠い霊的背景（カルマ）のもと、わたくしはずっと生きてきたのでした。

わたくしは確かに負けず嫌いで、おひとや物事に対して、すぐに白黒はつきりつけたがる、せせこましい、狭量な部分も持ってはいるけれど、でも、本当のわたくしはひょうきんで、いわゆる「天然」で、ぽわわ～んとしてて、どこかぬけているんです。

（でも、時間に遅れるのは嫌いだし、仕事なんかではとにかく完璧主義者なので、こんなことを言うと信じてもらえないかもしれませんが）

ある部分ではものすごく厳格なまでに神経質だけど、その一方で、おひとにびっくりされるくらい大雑把なところもありますし、ちゃらんぽらんなところもあるのですね。

とにかく、これまでの、いつも頑張って頑張って、たたかってたたかって、っていう、まるでパワーゲームな世界はもう金輪際ごめんだわ、そんなふうには昨夜は、もう切実に、心の底から思ったんです。

例えて言うなら、ふんふん♪ と鼻歌を歌いながら気持ちよくお散歩してたら、いきなり横から泥を投げつけられたり、お散歩を中止させられたり——、わたくしは、そんなまるで被害者のパターンを持って今回生まれてきたけれど、でも、もう絶対、そんなパターンはこれ以上引きずら

ない、昨夜はそう心の底から決めました。

で、暖かく優しい穏やかな人生を歩むって固く誓ったから、今日から、もうすっかりそうなったかのように振る舞うことにしたんです。

これまでの被害者、犠牲者のパターンというシナリオのもと、わたくしの人生劇場にキャストとして散々登場し続けてくれた方々が、再びステージに登場されても、もう惑わされません。翻弄されません。

かなしすぎる被害者、犠牲者としてのパターンはもう消し去ろうって決めたから。

今のわたくしは、「暖かく優しい穏やかなまいにちを生きる素敵なヒロイン」なのでから（笑）、

（わたくしにつらくあたられた）「かつての名優さん達」が再び舞台に登場しても、もう絡むことはないのです。

「あら？あなた、どなた？」てな具合で、わたくしはわたくしの——暖かくて優しい穏やかで静かな暮らし——を淡々と重ねてゆけば、それでいいのです。

かつて、以前、たまたま拝見したアメリカの動画で、ある（キリスト教の）伝道師の方が、「行きたい場所に行きたいなら、その場所にふさわしい自分になることが先決だ」、みたいなことをおっしゃておられました。

今のわたくしには札幌や「ぼ」のつく街での、暖かで穏やかな暮らし——が目標というか、夢ですから、ならば、今ここに居る段階から、既にそうした暮らしを送っているかのように振る舞えばよいのです。

今日も、今まで生きてきてまるで見たことのない、びっくりするような大きな虫（縞模様の細長い胴体を持つ蜂のような虫で、お尻から長い長い針のようなものを二本ぶら下げていて、ものすごく大きい、ぶんぶんものすごい音を立てて飛ぶ虫 → 後でネットで調べたら、どうも蜂の一種らしい。お尻から出ていた長い長い棒状のものは産卵管だとか）を発見して、慌てて殺虫剤撒き散らして、漸く殺したのだけど、虫が決定的にダメなわたくしは、いつもならギャーギャーギャーギャー言ってひとしきり騒ぐのだけれど……、でも、最近ことあるごとに「穏やかに、穏やかに」と言い聞かせていることもあってか、今日は「ギャー」一回分くらいで、なんとか平静を装いました。

今はまだ滋賀の自然豊か過ぎる田舎の古い家だけど、理想通りの大都会・札幌での静かで穏やかな暮らしを送っているわたし、とイメージして、そんなふうには振る舞ってみたくです。

もし、今、何か不本意なまいにちを送っていらっしゃる方がおられましたら、今ご自分がいらっしゃる道の先には理想の自分が待っている、と、どうか信じてください。

若かりし頃大好きだったエッセイ本『幸福のためのレシピ—あなたの人生が薔薇色に変わる』を書かれた早川暢子さん（あまりに森茉莉が好きすぎて（？））、今は早川茉莉さんとおっしゃるら

しい!)は、ご本の中で、あなたの歩いている道は黄金の道へと続いている、といったことを書いておられました。

そうなのです、わたくし達が今どんな道を歩いていようと、この先には輝く黄金の道が待っているのです。

必ずたどり着ける、と信じてあきらめずに歩き続ければ、やがては然るべきときに、必ず、輝く黄金の道が現れてくるはず。

わたくしも未だにここで足踏みしているような状況ですが、必ず、この先には札幌や、「ぼ」のつく街が待っている！ と信じたいです。

皆様もどうか夢を、思いを、願いを、あきらめずにいらしてくださいね。

輝く黄金の道が現れてくるまで、日々を慈しみながら、楽しみながら、これからもこの道をお互い歩き続けてまいりましょう。

God bless you!

15. ネガティブな「ドラマ」に巻き込まれない



わたくしは、もともと、生まれ持った性格というか、性質がとても過敏で、神経質で内向的な一面を持っております。良く言えば「細やか」で「よく気がつく」性格、なのですが、逆に言うなら、ちょっとしたことですぐに動揺してしまいがち。

それに輪をかけて、心理的な面から見ても、また、霊性の面から見ても、とにかく、物事に対する感受性が、一般的な方の何倍も鋭いので、他の方なら気になさらないような些細なことでも、大きく深く影響を受けてしまいがちです。

そんな性質・霊質を持っておりますわたくしは、これまで様々なことに「翻弄され」、振り回され、さんざんしんどい思いをしてまいりました。

まあ、このような特性を持っているがゆえに、自然と、幼い頃から霊性の道へと導かれたのですが、それでも、こうした特性は、今日までのわたくしの人生において、大きなマイナス面でもございました。

特に、わたくしがびっくりするような一平気でひとを傷つけるような方々、心に土足で入り込んでくるような方々の存在は、わたくしをひどくくるしめ、そのせいでここ数年すっかり人間不信になってしまっておりました。

ま、わたくしのような特質を持つ・持たないに関係なく、どなたでも、こうした方々のことを快く思わないとは思いますが。

でも、とにかく、こうした、平気でひとを傷つけても構わないような方々は、わたくしにとって、とても痛い存在、なのでした。

でも、スピリチュアル的なものの見方をするなら、こうした、平気でひとを傷つけるような方々、ひとの心に土足で入り込んでくるような方々こそ、実は「魂の先生」なのであり、わたくしを成長させるために居てくださるのですよね。

今のわたくしが在るのも、わたくしに暖かく接してくださった方々のみならず、そうでない方々も含め、これまでお出逢いした全ての方のご存在があつてのこと。

そう思いますとき、こうした、わたくしにとって痛い存在である方ほど、「有り難うございます」と手を合わさなければならないのです。

――そうは申しましても、やはり、ひとの心を平気で踏みにじるような方々には、出来れば、なるべく、お近づきにはなりたくないもの。

わたくしの尊敬する日本の数少ないスピリチュアリストさんのおひとりでいらっしゃる中野裕

弓（なかのひろみ）さんは、こうした方々も含め、なんか、自分とは合わないな・・・と思う方々のことは、「あったかく包んで放っておく」とよくおっしゃってられます。

ほか、これもまた中野さんがおっしゃってられることなのですが、「人の思いは人のもの」なのであり、自分ではどうすることも出来ないのですよね。

だから、なんだかぎくしゃくしてしまうような方には、（自分にとって無理のない範囲内で）失礼のないように接することとし、あとは出来るだけ冷静であるように努め、「あったかく包んで放っておく」のがいちばんよいのだと思います。

この世には、いつも何かストレスとなるようなドラマチックな出来事をわざわざ自ら「引き起こし」、それに関わることを、まるで楽しんでいらっしゃるかなのような方々がいらっしゃるのも事実です。

わたくしの敬愛なるジョエル師はそうした方々もたらす様々なことは、あなたの神の子としての人生にはなんら影響を及ぼさない、といった意味のことをいつもおっしゃいます。

また、先日見た、NHK Eテレの「SWITCHインタビュー 達人達（たち）」に出ておられたジャズピアニストの上原ひろみさん（2014年5月17日放送）は、「何かを言うてくるひとは必ず居る、でも、自分のスタイルを信じて、それをやり続けたひとだけが生き残るんだ」、みたいなことをおっしゃってられました。

要は自分を信じて、努力を続けろってこと、なのですよね。

おひとは関係ない。

信じる道をゆくのなら、どこまでも自分を信じて、自分のスタイルを貫け、と。

そうして生きるとき、おひとは関係ありません。

どこまで自分を信じられるか。

どこまで内なる神を信じられるか。

そこにかかっているのだと思います。

おひともたらす様々な「よしなしごと」に翻弄されず、つねに泰然と、また、安穩とあること、これが今のわたくしにとっていちばんの課題です。

何か（ネガティブな）「ドラマ」をもたらすような方々と上手に距離をとり、いかに己の神聖さを保つか。

ですから、こちらまでそうした方々とたたかおうとはなりません。

あくまでも、「あったかく包んで放ってお」いて、礼節を持って接しながらも、そうした方々もたらす「ドラマ」に巻き込まれてはならないし、翻弄されてはならないのです。

心理学的な面から見ても、また、霊性の観点から見ても、おひとと自分との間に明確な境界線をしっかりと保ち、自分にとっての心地よい範囲、距離を適切に保ちながら、日々心穏やかに生きてゆくよう心がけてゆきたいものです。

おひとの人生はあくまでもその方ご自身のもの。
わざわざ巻き込まれて、自分まで翻弄される必要はありません。

生きていくと様々なことに出逢います。

時に「出くわす」といった表現がぴたりとくることだってあります。

けれど、その全てに真っ正面からぶつかっていく必要はないし、ましてや、おひとをネガティブな「ドラマ」に巻き込んで、おひとのエネルギーを自分に向けてすることで、自らの存在価値を認識しようとなさる方々に、いつもいつもお付き合いさせていただく必要などありません。

(どうしても、関係上、向き合わなければならないこともあるでしょうが)

いちばん大切なのは、自らの心の平安です。

本当に必要なことは何かを注意深く考え、貴重な人生の時間を大切に、心穏やかに、慈しむように生きてゆきたいものです。

16. 光を求めて



こちらのご本は、わたくしが「夢の翼を得るために」再びここ滋賀に「一旦」かえってきて以後、わたくしに訪れた「人生始まって以来最大の試練」を通して学んだことを、皆様にシェアさせていただくために書き始めました。

けれど、この16項では、ここに「一旦」かえってきて以後の日々の中で学んだことではなく、わたくしのこれまでの人生全般を振り返ったときに、皆様に是非お伝えさせていただ

きたいな、と思うことを書かせていただければ、と思います。

わたくしは、もともと、とても明るく無邪気で天真爛漫 といった面を持ちながらも、その一方で、とても神経質で細かいことにウルサク、頑固でなかなか融通がきかない面も持っております。

(このことについては、ひとつ前の項でも書かせていただきましたよね)

お外では「いつも笑顔で」と心がけている一方で、ひとりになると、とても深く考え込んでしまう部分もあって、ああでもない、こうでもない、としょっちゅう思い悩んでいたりしております。

多分、わたくしの霊的なエネルギーを感じ取っていただける方にはご理解していただけると思うのですが、非常に明るい部分を持ちながらも、その反面、ものすごく暗い、かなしい、切ない部分も持ち合わせているのが、わたくしのという人間の特徴なのですね。

この非常に明るい一方で、ものすごく暗い、という、両極端な性質を持ち合わせている、わたくしの今回の人生における課題のひとつが「陰と陽のバランス」です。

お外では、ニコニコ明るいわたくしをご存じの方が、ふとしたときに、わたくしのこうした暗くきつい部分を垣間見られますと、とてもびっくりなさいます。

ま、それくらい、わたくしはバランスが悪い、両極端、だったりするのですね。

でも、でも、これでも、わたくしは、随分明るくなれたほうなんです。

2007年、サイキックに目覚めるまでの35年間の人生は、今振り返っても、心もとなく、いつもどこか寂しげで、本当に本当に なんと申しますか、とにかくかなしみのエネルギーが半端なかった、そんなふうに思います。

どこにも居場所がなく、周囲の人々との間に甚だしく違和感を感じ続けていたわたくしは、20代後半から33、4歳の頃まで、心のどこかでいつも死を思っていました。

とにかく、今回の人生、とてもじゃないけれど、最後まで生き抜こう！という気力がまるでなかったんです。

そんなわたくしが救われたのは、後厄にこてんぱてんにやられて、心底憔悴しきっていた頃、流れ着いたある職場で、とても心の暖かな上司の方にお出逢いすることが出来たからでした。

あるプロジェクトの立ち上げ要員として雇っていただいたわたくしは、直属の上司の方と二人、小さなオフィスで20ヶ月ほどの日々を過ごさせていただいたのです。

その間、何があっても、いつもわたくしを励まし、暖かく見守ってくださった、その上司の方のお陰で、わたくしは生まれて初めて、本当の意味でおひとの愛情というものを知り、そのお陰で、やっと、今回の人生、最後までちゃんと生きよう！ って思えるようになったのでした。

それ以後は、どんなにつらくても、どこまで落ちても、死のうと思うことはなくなりました。

そうしたとても幸せな出逢いを経てもなお、まだ、わたくしの心にはどこか満たされない部分があって、いつもつめたい木枯らしがぴゅーぴゅー吹いていたのですね。

幸せなオフィスでの生活が終わり、わたくしはそれから後の1年間、また坂道をごろごろとどこまでも転がり続けるような日々を送りまして。

やっとの思いでたどり着いた2006年の年末になってようやく新しい仕事が決まり、ほんと、ひと息つくことが出来たのでした。

それでも、幸せな出逢いを経た後の、再びの「坂道ごろごろ」が、当時のわたくしに相当こたえていたのは事実でした。

ちょうどその頃、何が起こったのかよく分からないまま、突然サイキックとして目覚めることとなり。

それからあれよあれよ……！ という間に人生が変わり、それから7か月後には、何をどうやっても絶対に抜け出せなかった実家を飛び出して箱根で働くこととなり、その勢いのまんま、わたくしは遂にはアメリカにまで飛んじやったのです。

ちょうど今から7年前の今頃、2007年の7月がわたくしにとって大きな分岐点でございました。

当時、実家を出ることになって、京都で働いて大津に住んで……と、新たなお仕事も、大体の住む場所もほぼ決まりつつあったのに、突然そのお仕事がキャンセルとなり。

その頃、わたくしは偶然駅で出逢ったあるお友達から、共通のお知り合いの方が関東に行かれたことを知り、「わたしもやっぱり、関東（に行く）！」ってなって。

それから数日の間に、それまで一度も訪れたことのなかった箱根での職を見つけ、その10日後にはここ滋賀をぴゅーっと飛び出していったのでした。

それからの日々は本当に本当に楽しい限りで。

今まで42年と6か月ばかり生きてきて、いちばん楽しく幸せだったのが、あの箱根での日々、なのです。

今も、皆さん・・・・・・・・・・ではありませんが、当時、箱根でご縁をいただいた何人かの方とは時々やり取りをさせていただいております。

わたくしには、ある夢が叶ったら、心のふるさとである箱根に帰ろう！！ という並々ならぬ思いがあります。

ですので、今もわたくしにとって箱根がとても大切な場所であることに変わりありません。

当時、あの森の中を歩いて通ったけもの道や、急勾配のホテル前の道、寮から見える三浦半島・・・・・・・・・・などなど、本当に懐かしい限り！ です。

でも、夢が叶うまでは絶対かえらない、と心に固く決めているので、今はただただここで頑張るだけ、です。

2007年、サイキックに目覚めるまで、わたくしの人生は、ずっと、どこか暗幕が降りたようなものでした。

今、振り返っても、あの年に起こったこと、経験したことは、わたくしにとってかけがえのない一生の宝です。

2007年という年がなかったら、今のわたくしは絶対にありません。

ほんと、まるで夢のような一年間でした。

それまでの35年間の人生は本当につらく、寂しく、孤独で、長い間わたくしは生きる希望さえなくて。

どうでもいいようなアホな恋愛ごとに首を突っ込んで、ひとりくるしい思いをして。

心も身体も弱く。

いつときは、霊媒体質からくる不調ゆえ、歩くのさえやっと、でした。

一体これから先、ほんと、どうやって生きていったらよいのか？

人並みの暮らしを送ることすら難しかったわたくしは、人生、ほんと、つらくてたまりませんでした。

けれど、こんなわたくしに、神様はとても素晴らしい贈り物を授けてくださったんです。

サイキックになるよう導いてくださったのもそうだし、何よりもサイキックに目覚めた年に経験させていただいた全てのこと。

それは、本当にまばゆい天の御光そのもの、でした。

そんなふうに素晴らしい天の御恵みを与えていただいたのは、ひとえに、わたくしが、幼い頃からずっと、信じる対象となる方に手を合わし、祈り続けてきたからだったのではないかと、今となっては思っております。

2007年で救われるまで、35年もかかったけれど、でも、ずっと大いなる方を頼みとし、神様を信じ、天の救いを求め、祈り、こい願い求め続けてきたから、だから、神様はわたくしにサイキックとして生きる第二の人生を与えてくださった。

サイキックに目覚めて以後、半年ほどの間は、わたくしの中のエネルギーが根底から変わったのでしょ、全身の激痛で3週間ほどの間、起き上がれなかったり、様々に大変な思いをいたしました。

でも、当時お世話になっていたヒーラーの先生は、わたくしがサイキックに目覚めたことによつて、文字通り「生まれ変わり」、これからは第二の人生を歩んでゆくのでしょ、とおっしゃつてくださいました。

当時は本当に何もかもが（それまで当たり前だったあらゆることが）しっくり来ず、この世で人間として生きていくこと自体、なんだか初めてみたいで、ほんと、不思議だったんです。

未だに、時々、この人間社会で、この次元で生きているのに、感覚がおかしくなる、というか、退化したように感じられることがあつて、この世でこの肉体をお借りして生きていることをふつと忘れそうになつたりします。

時間の概念、物理的な3次元の世界、というものに、どうも未だに慣れていないのですよね。そんなこんなで、ただ普通に日常生活を送るだけでも、なんだか、あたふたとしてしまうようなところがあります。

けれど、こうして神様に生まれ変わらせていただいたお陰で、わたくしは、間違いなく、この世で生きるステージが変わつたと、自分では思つております。

ま、もっとも、こうして生きるステージが変わつても、なお、ここでの最後の課題とも言うべき、ものすごーくきつい日々を重ねてまいりましたので、なかなか人生甘くないなあ、といった感じなのですが。

それでも、ここに「一旦」かえつてきてからのこの6年間、何度絶望に陥つても、それでも絶対にこの夢をあきらめられなかつたのは、何があつても絶対これで間違つていないという確信があつたのと、あの2007年、わたくしという全存在を通して感じ取つた、天の素晴らしいご啓示があつたから、でした。

あのとき、本当に素晴らしい光を垣間見させていただいて。

だから、何があつてもあきらめるわけにはいかなかつたし、

何度倒れても、その度に再び立ち上がつて、ここまで歩き続けてこられたのだと思ひます。

わたくし達がおりますこの人間界は、確かに、たくさんのかなしみや争い、みにくいこと、つらいこと、くるしいことが山ほどあります。

そんな過酷な世界で生きていくことに耐えきれず、自ら死を選ばれる方だつていらつしゃるのが、この世の現実です。

けれど、ずっと生きる希望がまるで持てなかつたこのわたくしが、後厄のあとにお出逢ひした素晴らしい上司の方のお陰で、この人生、最後までちゃんと生きよう！つて思えるようになったのも、そして、2007年、突然サイキックに目覚めて、「人生始まつて以来、最高に幸せな一年」を過ごさせていただき、そして、その年の12月、36歳になる頃には、今のこの夢、生涯をかけて叶えたいと言えりほどの夢を明らかにしていただくことが出来たのも、全て、全部、

わたくしというひとりの人間に起こったことであり、この世で実際に起こったことです。人間として生きること、そして、この人間が生きている世界は確かに厳しい面もあるけれど、でも、わたくしほどの重いカルマを背負ってこの世に生まれてきた人間でも、こうして神様に救っていただいた。

手前味噌で恐縮ですが、それでも、これって、ひとつの大きな証拠になると思うのです。

では、その証拠が示す内容、なのですが、それは、この世においても、光を求めて生きるならば、必ず、神様は、然るべきときにお救いくださる、ということです。

あんなにどこにも居場所がなく、絶えず心が痛く、やすらぎや安心なんて言葉とは程遠い35年間を生きてきたこのわたくしでも、救われたのですから！

どんな方にも必ず、天使や守護霊さんについていらっしゃって、どなたの心の中にも、必ず、良心＝神様の光は息づいている。

ならば、どんなにこの世で生きていくことが過酷に思えても、守ってくださる方と力を合わせて、自らの中に息づく神様の力を呼び起こし、少しずつでも努力を重ねて、あきらめずに生きてゆけば、そして、何度絶望を見ても、それでも、光を求めてゆくことをあきらめなければ、きっと、然るべきときに、神様はその方に光を授けてくださる。お救いくださる。

わたくしは、心からそう信じています。

かつてのわたくしのように、生きること何十年も苦しみ続け、生きる希望をなくしかけておられる方がいらっしゃったなら、わたくしは、その方の手を暖かくとって、「このわたくしが救われたのですから、きっと、大丈夫ですよ」と心から申し上げたいです。

それは、本当だと、真実だと、心から思うから。

光を求めてゆくなら、きっと、いつか、光は与えられるはずなんです。

どうか、この世にいらっしゃる、全てのさ迷える魂さんたちに神様の祝福とお導きがありますように。

みずうみの国から、愛と真心をこめて、そうお祈りいたしております。

17. きっと出来る！



振り返れば、わたくしの人生が「暗転」し始めたのは、小学校5年生の頃からでした。

クラスのお友達、同学年のみならず、ひとつ上の学年のお兄さん、お姉さん達からも、「いい子ぶりっこ」と言われるようになってしまい。

おまけに、あることで担任の先生を激怒させてしまい、それからは、すっかりその先生からも目をつけられるようになって

しまつて。

以来、わたくしは「社会」というものに対して、戦々恐々、すっかり縮み上がってしまったのでした。

ひとさまからご覧になったら、ただの言い訳に過ぎないのですが、でも、スピリチュアル的に見たら、確実に、この時期を境に、わたくしの人生は大きく変化していったのです。

それも悪い方に。

いつも緊張状態が解けず、とにかくどこに行っても、何に対しても過剰適応。

そんなだから、自分本来のエネルギーは、間違いなく、あの頃を境に大きく封印されてしまったはず。

以来、かれこれ今まで30年、わたくしは、いつもガス欠のような状態で、人生をやっとの思いで生きてきたのでした。

でも、こんな生き方を続けるのも、いよいよ、もう、本当に無理、みたいです。

今、自分の中で、「あの頃以前のわたし」に戻ろうとする大きな波がやってきておりまして、身体も心も、エネルギーレベルでもかなり変調をきたしております。

わたくしの「読み」では、このひと山を越えないと、「次」に行けない。

これから12月の誕生日までの日々が、また新たなチャレンジの日々となりそうです。

これまで、人生における創造力が圧倒的に足りなさ過ぎたわたくし。

しかし、そうならざるを得なかったのは、前述のような過程があつてのことであり、それも、もう30年も長い間、ずっとこんな状態で。

で、ひいこら言いながら、ここまでやっとの思いで生きてまいりましたので、この状態を改善し、「以前のわたし」に戻るのも、そう簡単なことではないのは、よくよく分かっております。

でも、とにかく、今のわたくしに必要なのは、

- ・ 恐れないこと
- ・ くよくよ悩まないこと
- ・ 神様がきつとよくしてくださると信じて、やすらぎのうちにあること
- ・ あきらめずに、努力を重ねてゆくこと
- ・ 自分をめいっぱい愛してあげること

そして、何よりも何よりも

- ・ 「出来る！」と信じること

なのだと思います。

ここ滋賀に「一旦」かえってきえてからの日々、わたくしは、めためたに打ちのめされる度に、なかなかそこから立ち上がることが出来ませんでした。

ひどいうつ状態に陥り、数日はベッドの上で震えながら過ごすしかなかったときもありました。

けれど、なんとか、なんとか、ここまで耐えて踏ん張ってきて、お陰さまで、少しは「耐性」がついたみたいです。

最近になって、やっと、ぼろぼろ泣き崩れるようなことがあっても、ひとしきり泣いて落ち着いたら、部屋に貼ってある、大きな太い文字で書いた紙を、きっ！とにらんでは、ひとり、大きく頷いたりしています。

その紙には、わたくしの夢の実現について、肯定的な文が書いてありまして、これまでなら、やられる度に、ひたすら、えーん！と泣くしかなかったのだけれど、でも、最近、えーん！と泣いた後、顔を上げて、「わたしになら絶対出来る！！」と持ちうる限りの根性を注ぎ込んで、その紙をきっ！とにらみながら、そうつぶやくのですね。

そうなる、不思議。

自然と、力が湧いてくるような気がするんですね。

これまではひとりわーわー泣くしかなかったけれど、今は「絶対負けるもんか！今に見てろ！！！！！」（言葉がきたなくてごめんなさい）って、奮起出来るようになった。これって、とっても大きなことだと思います。

まだまだ、ほんのわずかな進歩ではありますが、でも、ずっとやられるばかりで、ひとり孤独に泣いていたわたくしには、これでも大きな進歩 & 成長、なんです。

生まれつき、ものすごい泣き虫のわたくし、これからも相変わらず、たくさん大泣きしていくんだろうけれど、でも、「負けるもんか！！」って、きっ！って宙をにらんで、踏ん張って、なんとか、なんとか、夢を未来に繋げてゆきたいです。

18. 自分本来の力を取り戻す



わたくしが背負っているカルマはとても重く、また、くらくつめたく厳しいもので、そのせいで、この世に生を受けてからのこれまでの40数年の人生、わたくしは本当に長い間、ずっとくるしみ続けてまいりました。

今でこそ、サイキックに目覚め、ある程度、自らの霊的背景が分かるようになりましたので、なぜ、このような人生を歩

まざるを得なかったかも理解いたしておりますが、サイキックに目覚めるまでの35年間の人生においては、そんなことは、まるで分からず、ひとり、洗濯機の中でぐるぐる永遠に回されていたような状態でした、今振り返っても、よく、あの日々を生きてきたなあ、と感心するくらいです。

それくらい、わたくしの人生は、愛、優しさ、思いやり、暖かなもの、そういった「ほんものの豊かさ」からほど遠いものだったのですね。

そのせいで、わたくしの心には、いつも、つめたすぎて痛いほどの北風がびゅーびゅー吹いているような状態だったのです。

でも、本当にありがたいことに、わたくしは、2007年、サイキックに目覚め、自らの霊的背景を知ることとなり、また、その一方で、自らの魂のルーツ、魂の家族と呼べる方たちとの大切な絆を思い出すこととなりました。

そして、霊的な次元においては、おそらく、「もう一度生まれ変わった」はず、なのですね。

だから、それ以後、新たに吹き荒れた人生の嵐、人生始まって以来最大の試練の中においても、どんなことがあっても、絶対あきらめることはなかったのです。

それほどまでに、わたくしが2007年、神様に垣間見させていただいたものは、本当に本当に素晴らしすぎるほどのものだったのです。

今年は、わたくしがサイキックに目覚めてから、まる7年になります。

7年前、垣間見させていただいた素晴らしい世界を知ることを通じて、以来、わたくしは、自らの魂の本質を理解し、それまでとは比べ物にならないほどの自信を持つことが出来るようになりました。

(それでも、まだまだ足りないけれど)

また、2010年の1月より学び始めた、ジョエル師が説かれるところの(ニューソート系の)キリスト教のお勉強を積むことによって、神様への信仰心を深め、Divine Destinyを生きる素晴らしさを知ったこともあり、ここ4年ほどの間は、くるしい中でも、わたくしなりに、「神の国の

プリンセス」としての自信と誇り、尊厳を持って歩んできたつもりです。

けれど、ここ最近、再び、わたくしの目の前で明らかになってきた課題、それは、やはり、まだまだ、わたくしは、自らの本当の価値を理解していない、まだまだ自分を粗末に扱いすぎている、ということでした。

例えば、いつも自分がよいポジションにゆくことをよしとしない、自虐的な話をする、せっかく褒めていただいているのに、ものすごい勢いでそれを全否定する。

本当は誰よりも大事にしてほしい、ものすごく愛情に飢えているはずなのに、なのに、幼い頃からの悲しい性（さが）、こびりついたネガティブな精神は、そう簡単に改まるものではないようでした。

ここ最近、不思議なくらい、立て続けに、おひとに軽んじられているように思える出来事が続き、それで、うむーと考え込んでしまったのでした。

いつもおひとに尽くし、せっせと下働きをし、決して己が上座にゆくことをよしとしない。そんな生き方を完璧なまでに続けてきたわたくし。

なのに、その一方で、おひとからそうした扱いを受けることがとてもつらくかなしく、「もう、それだけは、金輪際、絶対、絶対、止めて！！」と全身全霊で叫ぶわたくしが居るのです。

わたくしの人生劇場に登場される方々に、嫌な扱いを受けるということは、イコール、そっくりそのまま、自分で自分をそのように扱っているということです。

おひとに大事にさせていただきたかったら、まず、自分で、自分を、まるでお姫さまのように大事に大事にしなきゃならない。

でも、わたくしは、いつも、自分を、お姫さまどころか、まるで下女のような扱いをし続けてまいりました。

自分自身が自らを下女のように扱っているのに、ひとさまにはお姫さまのように大事にしてください、だなんて、てんでおかしいですよね？

以前、他の項において書いたかもしれませんが、わたくしは、まだ人間として生き始めてそんなに時間が経っていない頃の、幾つめかの人生において、自らが信じる道を選択した結果、全てを一瞬にして失ってしまった苦い経験があるのです。

そのときの途方もないかなしみ、くるしみ、怒り、自責の念、そして、どうしてもどうしても自らを許せない思い、そうしたもろもろが、ずーっと、まるで、DNAに刻み込まれたかのように、今日までの数えきれないほどの人間としての人生に、大きな影をもたらし続けてきたのでした。

けれど、もう、その、太古の昔から脈々と引き継がれてきたカルマ、魂の大きな深い傷を、いよ

いよ解消してゆかなければならない。

そして、自らが持つ、本来の力を取り戻し、「人間として最後の人生」において、神様との大切な約束＝ Divine Destiny を必ず実現しなければならないのです。

ここまでの数え切れないほどの過去世において脈々と引き継がれてきたカルマを解消するには、これまでにないほど、全力で、真剣に、自らを愛する、愛し尽くすしか道はありません。自らを愛する、全身全霊で愛し尽くす、というのは、簡単なようで、とても難しいこと。特に、わたくしの場合、ものすごい恐怖を乗り越えて、自らの本当の価値を認め、その「本来のわたくし」に見合うだけのものを自らが受けとることを許し、そして、また、それに向かって手をのばしてゆかない限り、救いの道はないような気がいたします。

「船出は近い」――8月に入ったら、大きな覚悟と決意をもって、新たな人生の段階へと進んでゆかなければなりません。

そこで、わたくしは、これまでにないほどの葛藤に見舞われることになるやもしれません。

けれど、わたくしはサイキックです。

心の中の導きを信じて、勇気をもって、前に進むのがわたくしの生き方。

だから、どんなに怖くても、海へと船をこぎ出さなければならないのです。

人生は、つねに挑戦の連続。

特にわたくしの場合、『めちゃくちゃ「チャレンジャーすぎる」人生のシナリオ』を持って生まれた来たそうなので、

その挑戦度や、半端なかつたりするのですが。

でも、今回の人生で、本来の力を取り戻さない限り、わたくしは、天国にゆけません。

だから、どんなに怖くとも、自らの内なる声を信じて、来月以後の新たな道を歩んでゆきたく思います。

どうか、全てがよきに流れますように。

わたくしが、本当に自分を大切に作る生き方を、ちゃんと学んでゆけますように。

そして、それを、自らのものとする事が出来ますように。

いつも皆様にも愛とやすらぎがありますように。

そう心から祈ります。

19. きっと道はある



「夢の翼を得るために」、ここ滋賀に「一旦かえってきて」早や、もうすぐまる6年になります。最初は長くても3年の予定、でした。それが、あっという間に月日は流れ。わたくしも歳を重ね。今はもう、「2014年」です……………。

でも、この「予想外に、ものすごーくのびている、ここでの日々」も、「決して無駄ではない」、そうわたくしはかたくかたく信じています。

ここでの日々、わたくしがどんな思いで、これまで過ごしてきたことか……！

それを語り出すと、軽く3年くらい、ゆうにかかりそうなので、ここでは差し控えますが、でもね、ほんとに、ほんとに、ここでの日々は、もう「笑うしかないくらい」、わたくしにとって、過酷極まりないもので。

「よく自分でもここまで持ちこたえているよなー」、だなんて、のんきにひとつごのように思ったりもします。

けれど、もう、いい加減、今年は、ほんと、これ以上、のーんびり♪だなんて、してられないんですよ。

おひとからご覧になったら、今のわたくしは、その日暮らしをしているように見えるかもしれませんが……………が、これでも、自分なりに、一生懸命、なんです。

いつもニコニコ明るく（お外では）振る舞っているの、なかなか信じてもらえないかもしれませんが。

でも、ほんと、この夏、わたくし、璃いは、これまでにないほど、必死っっ！！ なんですよー。

そうやって、今に、エネルギーを注ぎ込み、必死でなんとかしよう！！ とすればするほど、気持ちは焦り、なかなか簡単には変わらない現実に対して、くるしくなり、暗くなり、つらくなることなんて、しょっちゅう、です。

でも、今のわたくしの置かれた立場、ロールプレイングゲームだったら、最後の大きな山場を越えるところ、だと思うのですよねー。

（お得意の「お気楽」（笑））

ゲームの中のわたくしは、大きく聳え立った岩山をなんとか越えようと、ちょこまかちょこまか、動き回って。

けれど、その岩山は変幻自在で、いかようにも形を変えるので、わたくしは、もう、へとへと、

ばてばて。

これまでだって、山を越えるのに、ありとあらゆる手段を尽くしてきたので、もう、正直、次の「カードがない」状態。

山を越えられないなら、地下にトンネルを掘る？

あるいは、山そのものを魔法で消しちゃう？

そんな、もう、本当に、追い詰められてしまった状態、なんです。

でも、こんなふうに、今の自分のことをネタに、明るく面白く書けちゃう余裕(?) だってある。

いやはや、あまりに追い詰められ過ぎて、たんに、頭がショーとしてしまったのかもしれませんが。

でもね、わたくしがいつも心から敬愛しているジョエル師がおっしゃるように、きっと、わたくしには道は見えなくても、神様は道をお持ちなはず、なんです。

以前、仲良くさせていただいていたあるお友達が、夏の朝、高いお山に連れていってくださったとき、わたくしに次のような話をしてくださいました。

(確か、美内すずえさんのご本に書かれていた話だと紹介してくれたように記憶しております)

彼女は、「向こうに行きたい、行きたい」と強く強く望むわたくしに、わたくし達人間には到底なし得ないことでも、神様がひょいっとおたま(お料理で使う、あのおたま)で、すくってくださったら、なんのことはない、簡単に出来てしまうようなことだってある、だから、いつ、そんな天恵にあずかれるか分からないけれど、神様の奇跡を信じて、わたくし達は日々出来ることを大切にさせていただくよりほかないのでは? といったようなことを話してくれました。

これまたいつだったか、いつもお世話になっている歯医者先生に診ていただいたとき、こちらにかえってからのわたくしのありようを長い時間お話しさせていただいたことがあったのですね。

(先生は、歯医者さんというよりも、まるでカウンセリングの先生のようなお方で、いつもひとりひとり、一時間くらいかけて、丁寧に診てくださるのです。そこには、単に歯を診てくださるのみならず、ひとりひとりのありよう、全体をとらえようとしてくださる先生の暖かなお気持ち、お志がございます)

そのとき、わたくしは、先生に、どれほどわたくしが足搔き、もがき、じたばたしっぱなしで、くるしんでいるかということ、そして、そうやってどれだけ足搔いても、どうにもこうにもならず、ほとほとまいりきってしまったこと、などをお話しさせていただいたのですが、先生は、そうやって、あの手この手をかえて、ああでもない、こうでもない、と、壁にがらがんぶ

つかりながら、必死でやっているうちに、いつか、きっと、ずっと通れる道が見つかるよ、といったことをおっしゃってくださったのでした。

今のわたくしは、ほんと、八方塞がりも八方塞がり（っていうか、ずっと、八方塞がり！）、もう、途方に暮れてしまっていたりします。

そんな中でも、ときに、思い出したように、「ひるむな！ 出来ることは全部やろう。あらゆる限りの手を尽くせ。うんぬんかんぬん・・・」といった長い言葉を紙に書いて、部屋にぺたぺた貼ったり、（わたくしのお部屋には、このような、モチベーションを維持するための言葉が、わんさか貼ってあります。貼り尽くしてあります）、なんとかして、ほんと、現状を乗り越えてゆこう、というか、突破しようと、これでも、未だに試行錯誤を繰り返していたりするのです。

先日も、現状打破のためのお参りにはどこがよいか？ とか、難関突破のためにお参りさせていただくなら、どこの神社さまがよいか？ など、夜遅くまで、検索してみたり。

（ちなみに、わたくしが居るところからなら、現状打破には長野県の戸隠神社さま、難関突破のためには、石川県にある安宅住吉神社さまがよろしいようです）

こんなふうに、もう、笑っちゃうくらい、って言うか、笑うしかないくらい、必死すぎるわたくし、なのですが、でも、きっと、こうやって、じたばたもがいて、足掻いて、なんとかして道を見つけよう...！ と努力を重ねていったら、ある日突然、きっと、神様が道を与えてくださる、現状を突破できる道が見つかる、そう心の底から信じています。

そのためには、神様頼みするばかりじゃなくって（そうは言っても、先日も、久しぶりに、神様宛のお手紙を書いたばかり）、自分で出来る限りの努力を重ねていくこと。

そうやって、自分で努力し、行動し続けてゆけば、きっと、ある日突然、沸点にたどり着いて、状況がガラッと変わる！ そうわたくしは信じて止みません。

あらゆる業界の、今をときめく方々も、皆さん、最初からスターだったわけではありません。わたくしが尊敬して止まない、サッカーのカズさんにも、10代の頃があったのだし、その頃、カズさんは、遠い異国のブラジルで下積み時代を過ごしてこられたのですもの。

みんな、最初は、とことん努力を重ね、ある点までたどり着いたら、ブレイクスルーが待っていて、でも、そこから、また、更なる努力をずっと続けてゆかなければ、第一線に立ち続けることは難しい。

同じ生きるなら、信じる道で、やりたいことをやれるだけ、思いきりやって、わたくしは生きてゆきたいです。

今は年老いた父母に迷惑かけっぱなしで、そのことで、ほんと、不甲斐なさとしりなさが胸が痛くなることも多いけれど、でも、きっと、その分、ちゃんとこの夢を軌道に乗せて、出来る限りの恩返しはしたい、そう思っております。

なかなか、人生、そう簡単にうまくゆかないことだらけ、だけれど、でも、それだからこそ、人生、生きる価値があるってもの、なのかもしれません。

どんなときも、弱い自分にだけは負けないように。

どこまでも続く空を見上げて、

思いを未来へと強く強く繋げてゆきたいです。

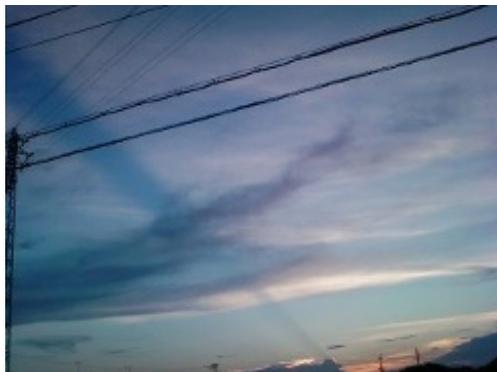
そして、どんなに少しずつでも、前へ前へ、と進み続けてゆきたいです。

どうか、いつも貴女に神様のご加護とお導きとお支えがありますように。

愛をこめて。

God bless you!

20. 困難に押し潰されない



時に、人生というのは、とんでもなく理不尽なことを叩きつけることがあります。

それも、「えっ！？どうして、今？」というような絶妙のタイミングで。

ハリウッド映画も真っ青の「奇想天外なストーリー」（！）、それも、人一倍「ドラマチックな筋書き」を書いて生まれてきたらしいわたくしの人生、以前みていただいた星占い師さんも思わず苦笑いなさるほどの「とんでもなさ」、「スリリングさ」らしいです。

——てなわけで、わたくしの人生、まるでジェットコースターが延々続いているかのような、そんな感じです。

でも、こんな人生（笑）、誰かをうらんでも、どうにもなりません。

なんせ、生まれる前に、散々神様と打ち合わせを重ねに重ね、練り上げたストーリーですからね。

それも、想像するに、きっと本人（このアタクシです！）が嬉々として、マゾヒスティックなまでに、「波瀾万丈」を好んで、そうした要素を、これでもか！ これでもか！ と沢山詰め込んだはず・・・・・・・・。

だから、誰もうらめない。

そう、全部「自己責任」なんです。

とは言え、こんなわたくしでも、やはり、自分の「人生の重荷」にひいこらひいこら言いまくってまいりまして、何度投げ出しそうになったことか。

あ、いや、「投げ出す」なんて言っても、実際に投げ出そうとすることはありませんよ。今は、もう。

でも、2004年に「人生の恩人」である暖かな上司の方にお出逢いするまでは、ほんと、消え入りそうになりながらも、なんとかなんとか生き延びてきた、って感じでしたので、それまでのわたくしは、ほんと、何度投げ出しそうになったことか。

今振り返っても、よく生き延びてきたなあ、と思うのが正直なところですよ。

で、今も、相変わらず、後生大事に「人生の重荷」を背負い続けているわけなのですが、もう、これは、わたくしにとって十字架みたいなもので、「どーしよーもない」んですよ。

ま、それでも、これから、次の春に向けて、ある目標に向けて頑張ろうとは思っています。

で、今も、相変わらず、後生大事に「人生の重荷」を背負い続けているわけなのですが、もう、これは、わたくしにとって十字架みたいなもので、「どーしよーもない」んですよ。

ま、それでも、これから、次の春に向けて、ある目標に向けて頑張ろうとは思っています。

だから、決してあきらめたわけじゃないけれど。

でも、やはり、この「重荷」は、本当にどーしーよーもない。

てなわけで、未だに、なんとか、それを背負い続けているのですね。

これまで、わたくしは、なんとかしてこの「重荷」をどうにかしようと、いろいろとあがき、もがき、たたかってまいりました。

でも、最近、それも、もう、いいかなって、思います。

この「もう、いいかな」っていうのは、決してあきらめたわけじゃなくって、もう、開き直り。

こういう運命を選んで生まれてきたのも自分なんだし、それに未だにくるしんでいるのも自分。

でも、これがわたくしの人生の全てじゃないっていうか・・・・・・・・。

勿論、その「渦中」にいるときは、未だに「発狂しそうにさえ」なりますよ。

こう見えて、もともとのすごく激しい性格の持ち主なので、ひとたび怒り狂うと、どうしようもなくなる。

攻撃されたときのダメージだって半端ない。

で、そうしたときは、ついつい、まるで、それらが「人生の大部分を占める」ことになってしまいがち、だったりするのだけれど、でも、本当のところはそうじゃないし、それに、よく言われるように「これからの未来」は、わたくしの選択いかんで、どうにでもなってゆくはず、なんですよね。

つらくなって、大きい空を眺められるところに、ひとり、やってくると、（こちらは滋賀の片田舎ですので、一面田んぼの、お空がとっても広いところがあるんです）、それまで心にあったものが、すいーっとお空に吸い込まれていって、なんだか、心が軽くなる。

そして、遠くの山々なんかを眺めているうちに、だんだん元気が出てくるわけです。

遠い山々を眺め、お空を見上げ、その上をゆく飛行機なんかを目で追っかけていると、早くここを出て、大空を飛んでゆこう！ って、新たな希望が生まれてくる。

そんなふうに、わたくしは、これまで、なんとか、なんとか、気を紛らわせながら、ここまでやってまいりました。

人生の困難や不幸、重荷なんかは、逃げることは出来ないかもしれないけれど、でも、逃げる事が可能なら逃げたらいいと思うし（時と場合によるけれど）、それに、そうしたものに真正面からぶつかって、玉砕することがよし、でもないんですよね。

上手に、騙し騙し、心をなんとかフラットに保ちながら、頑張るときは頑張る、でも、それ以外は休み休み、で、わたくしはいいと思うんです。

高い山だって、いきなりメインのコースを がしがし のぼろうとするとすぐに疲れて、体力を消耗

してしまうかもしれない。

でも、急いでお山をのぼらず、登山口でちょっと休んで待っていたら、思いがけないことに、ヘリコプターで山頂まで運んでいただけるようになるかもしれないじゃないですか！？

――まあ、そんなことは滅多にありませんが、でも、なんでもかんでも真正面からぶつかっていくのがよし、ではないと思うんです。

困難という名の壁だって、体当たりしたらそれで終わり、かもしれない。

けれど、なんとか横道を探す……というか、抜け道を探して、周囲をうろうろしているうちに、思わぬルートが見つかるかもしれないし、緩やかな脇道をゆっくりとでものぼってゆけば、気がつけば、いつの間にか、その壁自体が消えてなくなっているかもしれない。

なんでも、必死に、ど真剣に真正面から体当たりすることはないとわたくしは思うのですよ。

困難や不幸、重荷、そういったものが手強ければ手強いほど、長期戦になる。

ならば、真正面からぶつかって、力を消耗して、へなへたと動けなくなってしまうのではなく、ゆっくりと時間をかけて、ときに気を紛らわせながら、出来るだけ「普通の毎日」、ごくごく当たり前の日常を、可能な範囲内でいいから、保つように心がけて、日々のことを淡々とこなしながら、ゆっくりと時間をかけて乗り越えていったらいいと思うんです。

それにね、自分ひとりで頑張れなかったら、神様や仏様、イエス様やマリア様など、様々な聖なる方々のお力をお借りしたらよいと、わたくしは思うのです。

昔、まだまだ若かった頃のわたくしはストイック過ぎたのでしょ、自分以外の何かの力を借りようだなんて、そんなの甘い！ 出来るところまで、まずは、必死で自分で頑張れ！！ だなんて思っていました。

でも、自分自身、ここまで「大変なこと」が続くと、もう、とっくに限界を越えてしまっているから、言葉は悪いですが、つかえるものはなんでもつかえ！ てな、感じですよ。

あ、もちろん、なんでもかんでも頼りにせえ、というわけではありませんよ。

でも、ある程度自分で頑張っても、てこでも動かないほど、どうしようもないことだって、人生にはあるんです。

そういうときは、もう、真正面からそれに向き合い続けるなんて、体力も気力も消耗する一方。ならば、もう、ひたすら、頼れるお力は全部お借りして、（勿論、感謝を忘れてはいけません。お礼を忘れてもいけません）、ひたすら横道、抜け道を探し続けるより、ほかなく。

あとは、目の前の現実に押し潰されないよう、想像しうる限りの、薔薇色の未来を思い描き、自分は既にその未来に向かって歩き続けているのだと深く固く信じる。

もうそれしかないような気がいたします。

例えば、神社参りを重ねられる方っておられますよね？

わたくし達世代（昭和40年代半ば頃までのお生まれの方）なら、かつて一世を風靡した「大映（だいえい）ドラマ」によく出ておられた、女優の比企理恵さん、あの方は、確か、ご病気になられてから、神社さんへのお参りを重ねられたのではなかったかしら？

他にも、様々に神様のお力をいただきに、お参りをなさる方っておられますよね。

ああいったやり方もひとつの方法だと思います。

聖なる場所を訪れて、汚れを清め、神様のパワーをいただいて、また精進に励む。

そうしたことを重ねて行くうちに、だんだん、本来の道（聖なる生き方、本来歩むべき正道）へと繋がってゆくのではないのでしょうか？

ほか、大事なことは、とことん自分を愛し尽くすこと。

自分を丁寧に労り、自分のために時間をかけて、心身ともにケアしてあげる。

心や魂、身体が喜ぶ時間、趣味の時間や、楽しい時間、ほっこりと安らげる時間を意識してつくってゆく、ということが大事です。

わたくしは、この夏、中野裕弓（なかのひろみ）さんの「自分の心を愛で満たす10のメニュー」をやって、今は、上原愛加（うえはら あいか）さんの「プリンセスレッスン」をしていますし、この「プリレ」（というらしい）が終わったら、今度は、幸川玲巳（ゆきかわ れいみ）さんの「お姫様ごっこ」をしようと思っています。

これらは、全て、意識して、自分をもてなす、自分を大切に作る時間を作り出すもの。

こういう時間を意識してつくることで、ひたすら頑張る一方では得られない、よいエネルギーの循環が生み出されていくのですよね。

これって、とっても大事なことだと、わたくしも思います。

何もしなくても、人生は、みんな、それぞれ、自分に見合った課題があって、その大変さ、困難さはひとそれぞれ、です。

いつも明るく愉快的な〇〇さんだって、人知れず、言えない事情があるのかもしれない。

いつも穏やかでほっこり話しかけてくださる上司の〇〇課長だって、おうちに何か問題を抱えておられるのかもしれない。

みんなそれぞれ、小さいひと（子ども）は小さいひとなりに「大変なこと」があります。

でも、それで、自分の人生、真っ暗にしてしまう必要はないのですよね。

頑張るときは頑張る。

それ以外は、出来るだけ、淡々と、冷静に、落ち着いて、日々のことを重ね、泰然と在るように努める。

そうこうしているうちに、だんだん、自分自身の器が大きく、深く、広くなって行って、気がついたら、自然と問題を乗り越えているのかもしれない。

そういや、今、思い出しました。

わたくし、サイキックに目覚めて、夢のような日々が過ぎ、やがて、それが終わろうかとする頃、当時親しくさせていただいていた方に、「わたし、大きくて強くて深い、愛の器を持ったひとになります！」だなんて、涙ながらに宣言していたのでした。

だから、それからほどなくして（今に至る）「人生始まって以来、最大の試練」のスイッチが入ったのでしょ。

ああ、今更ながら、納得！

当の本人は、「なんで、こんな苦勞をせなあかんねん！」って、ときに、キーってなっていました。が、元々、自分でセットしてきたこと、だったんですよね。

やはり。

——ということですね、ま、人生いろいろありますけれど、問題に真正面からばーん！とぶつかって玉砕するばかりが能ではありませんよー、というお話でした。

ゆるゆる・・・でもいいじゃありませんか。

どうせ、そういった問題とかって、そう簡単には乗り越えられなかつたりするものです。

簡単に解決したら、それは「人生のレッスン」ではありませんからね。

ある程度時間がかかる長期戦なら、出来るだけ「普段の毎日」を淡々と過ごしながら、ゆっくりと時間をかけて、時に横道を探しながらも、くねくねと続く曲がりくねった道を、自分のペースで歩いてゆきましょう。

決して、困難や、そういったネガティブなものに押し潰されないように。

内なる（神が与えてくださる）無限力を信じて、神様や仏様、聖なる方々のお力を上手にお借りしながら、たった一度しかない人生、大切に歩んでゆきましょうね。

貴女にいつも神様の祝福がありますように。

God bless you!

愛をこめて。

21. どんなときも希望だけは捨てないで



わたくしの人生になくてはならないもの、それは、希望と自由、そして青空、です。

——なかでも、希望、これなくして、わたくしはよう生きてゆけません。

この世に希望があるから、だから、わたくしは生きてゆける

。

これだけは、これまでも、そして、これからも、未来永劫変

わることのない唯一無二の真実です。

わたくし——直観を何よりも重んじ、内なる神の声を最優先し、それが導くところのことを生きることを通じて、天の聖なるご計画をこの世に実現するために、人生をかけて働く意志を持つ——に言わせれば、希望とは、どこまでも天の勝利を信じることにほかなりません。

それは、神様の御意志、御心こそが、この全宇宙のあらゆるものの上をゆくものであると信じ、神様こそがこの世の最も高きところにおいでになり、この宇宙の全てを司っておられることを信じること、です。

これまでも度々書いてまいりましたが、わたくしは、ものすごく重いカルマ（闇）を背負って、今回の人生、生まれてまいりました。

それは、わたくしがこれまで、この世で何度も生まれかわりを重ねているうちに、だんだんと蓄積されていったのものなのですが、深い闇を持ち、解決困難な魂の課題を持つわたくしにとって、この世で、今回、人間として最後の人生を生きることは、とてもとても難易度の高いことでした。

だから、これまで何度も、この世の悪、醜いもの、汚れたものに負けそうになったし、自らを破滅に追い込もうとさえ考えたことも一度や二度ではありませんでした。

そんなふうにごりごりのところで踏ん張りながらも、なんとかなんとか生きてきて、で、やっと、2007年の1月、その前の年の暮れに35歳の誕生日を迎えてほどなくして、わたくしは、サイキックとして生きる第二の人生を神様に与えていただいたのでした。

それからのわたくしは、それまでの暗くうら寂しい人生がまるで嘘のように、とても明るいところへ導いていただくこととなり、生まれて初めて、これほどまでに幸せな日々はない、というほどの、本当に幸せな一年を過ごさせていただくことが出来ました。

未だに、あの2007年の幸せを越えることはありません。

それほどまでに、本当に美しく豊かな、かけがえのない日々を、わたくしはありがたくも過ごさせていただいたのでした。

その夢のような日々の中で、わたくしがつかの間、垣間見させていただいたのは、素晴らしい天上の世界、でした。

きらきらと美しく明るい光が絶え間なく降り注いでいる、まさにサンクチュアリ。

それらは全てわたくしの魂の目を見たもの・こと・世界でしたが、あの貴重な経験を通じて、わたくしは、なおいっそう、神様LOVE！！ になってしまいました。

だって、それこそ、脳内麻薬的な（！？）、これ以上ないというほどの、まさに至福の体験でしたもの。

信仰を通じて、あれほどまでの歓喜を体験させていただけるとは。

夢にも思いませんでした。

あの一年間、絶え間なく天の愛をたっぷりと存分に注いでいただいた結果、わたくしは、それまでの35年間で積もりに積もったあらゆるネガティブなものを一掃され、だから、生まれ変わることが出来たのです。

当時は、教会にお祈りに何う度に、うれしくて、ありがたすぎて、涙が止まりませんでした。

それこそ、長い間、延々、ひとりで至福にひたり、恍惚とした状態で、神様の御前におりました。

ずっと愛に飢え、ひとり孤独に震えて生きてきたわたくしにとって、あの一年間は神様からいただいた過分なる御恵みだったのです。

あの一年間で天の素晴らしい愛のエネルギーを全身で浴び尽したわたくしが、「もう、この世に置いていただいている間は、ただひたすら、神様の御為に働かせていただきます！」、となったのは、ごくごく自然な流れと言えるでしょう。

どんな手段を使っても、この世のありとあらゆる富を積んでも、あれほどまでの幸福に満たされるという体験はなかなか出来ないと思います。

何も自慢するわけではありませんが、わたくしが思うに、わたくしが経験した壮大なる愛のエネルギーの滝は、それほどまでものすごいものだったのです。

だから、あれほどの体験をすると、もう、自然と、神様に心が向かうほかないのです。

身体中の涙を流しても、まだ足りない。

それほどまでに喜びは尽きない。

感動が尽きない。

天の愛のエネルギーの、言葉に出来ないほどの素晴らしさを、2007年、わたくしはまさに全身全霊で感じ取っていたのです。

そんなまるで夢のような一年を過ごさせていただいたことも、今となっては、もう遠い彼方の夢みたいになってしまいました。

勿論、あの一年間で感じ取ったものは、確実に、今もわたくしの中に息づいていて、今のわたくしを支え続けてくれているとは思いますが。

逆に言えば、あのとき、徹底して、あれほどまでの愛のエネルギーを受け続けなければ、それから後に始まった「人生始まって以来、最大の試練」を耐え抜くことは、とてもじゃないけれど、無理だったかもしれません。

話が「希望」からずいぶん横にそれてしまいましたが、希望とは、すなわち、天の素晴らしいエネルギー＝神様を信じることにほかならない、とわたくしは思います。

もっとも、この世は、様々な醜いもの、邪悪なもの、よこしまなものがあふれています。

でも、それらがすべてではないし、ましてや、それらがこの世を支配するものではないと固く信じること。

それこそが希望の真髄なのではないでしょうか？

そして、希望の根幹をなすのは、神様の聖なるエネルギーであり、それこそが、全宇宙を支配するものであって、全ては、やがて、どんなに時間がかかっても、必ず、神様の御心にかなうように変化してゆくものである、と信じること、です。

どんなにどす黒い膿が吹き出ようとも、そして、その醜い汚れた膿がこの世を覆い尽くすかのように見えたとしても、必ず、やがては自浄作用が働き、天の法則に支配され、全てが整ってゆくと信じること。

どんな絶望的な瞬間も、全ては変化の一部であり、過程であると信じること。

絶え間ない変化の中で、醜いもの、邪悪なもの、よこしまなものに、人々が誘惑され、支配され、占領されることのなきよう、この世に置いていただいている間は、精一杯、自らの存在を通じて、神様の御光を世の人々に伝え続けてゆくこと。

それこそが、まさに、希望を信じ、希望に生きる、ということなのだと思います。

昔から、日本（というか、いわゆる大和（やまと）の国）は「言霊のさきはふ（さきわう）国」と言われてまいりました。

目に見えない気に敏感な方なら、「希望」という文字を見るだけで、この言葉が持つ素晴らしいエネルギーを感じ取れるのではないかと思います。

いつだったか、なんだか、今日は節目の日になる・・・・・・という日の朝、新聞を開けたら、希望という言葉が目に飛び込んできて、ああ、今一度、神様はわたくしに、希望の本当の意味を知るようにおっしゃっておられるのだわ、と感じたことがございました。

希望というものは、まさに、神様の聖なる御光そのものであり、輝く朝日のエネルギーそのもの

闇を消し、全てを光の魔法でよりよきものへと変えてゆく、そんな不思議、かつ、とても素晴らしいもの、なのです。

ですから、もし、今、貴女がどんな困難の最中にいらっしゃるのだとしても、どうか、希望だけは捨てないでくださいませね。

イエス様がはりつけにされ、お亡くなりになり、お墓に埋葬された後、天にのぼられたように、物事が終わりに見えようとも、その先にはどんな奇跡が待っているかはわたくし達人間にはわからないのです。

わたくし達人間の狭い見で敗北だと思えることにさえ、神のご計画があって、天の法則が息づいていて、後々、そこからどんな素晴らしい未来がひらけるかはわからないのです。

亡骸となられたイエス様が、後々、天にのぼられるなど、誰が想像しえたでしょうか？

それほどまでに神様の御業は素晴らしいものであり、人間の次元など、とうに超えたもの、なのです。

わたくし達ひとりひとりの中には、イエス様を天にあげられた神様の御力が備わっているのだとか。

ですから、わたくし達も、どんな奇跡を起こせるかはわからないのです。

ちっぽけな人間の狭い見で、物事を考えてはならないのです。

どんなときも天の勝利を信じ、ベストを尽しましょう。

人事尽くして天命を待つ。

結果については、神様にお任せしましょう。

どんな素晴らしい希望の、未来の若芽が育つのかは、最後までわかりません。

どうか、天の勝利を信じ、永遠の神様の御心を信じましょうね。

そうすれば、きっと、どんなときにも、必ず、活路が見つかるはずです。

いつも貴女に神様のご加護とお導きがありますように。

愛と祈りと真心をこめて。

God bless you!

22. 時には思いきった方向転換を



サイキックとして本格的に活動を始めてからというもの、このお仕事に真摯に向き合おうとすればするほど、もともと頑固一徹というか、妙にストイックなところがあるわたくしは、このお仕事を本気とするのなら、絶対に、このお仕事一本でやってゆこう、そんな固い誓いのようなものが芽生えてゆきました。

以来、ずっとそれに従ってやってきたのですが、自分自身の変容のときと重なり、人生のありとあらゆる面がことごとく行き詰まっていったわたくしは、当然、お仕事も、やがてうまくゆかなくなり、まさに「どん詰まり」状態がずっと続いておりました。

でも、頑なに、わたくしは、「どうしても、このお仕事一本で！」だなんて思い込んで、てこでも動きませんでした。

それは、まるで、炎を使う荒行をやっていて、でも、火が燃え広がってしまって、もう手遅れになっているのに、それでも、その場にとどまって、お経を延々唱えているようなありさまで。そのままいたら、御行（おぎょう）どころではなく、もう焼け死んじゃうのに、これが我が道ですー！！ などと言って、でも、その一方で、あちち！あちち！と悲鳴をあげているような状態でありました。

今、振り返っても、なんでもっと

早く手を打たなかったんだらう、と苦笑するよりほかありません。

どうしてあんなにも頑なだったのか、今となっては、もう、「???'」なのですが、でも、当時のわたくしには、それなりの理由があったのでしょうか。

でも、あちち！となりながらも、耐えている、というのは、やはり、どこかおかしかった。もっと早く方向転換して、一時的にでも、違う方法を取ってみる、という勇気をどうして持てなかったのか？

その後、とうとう、にっちもさっちもゆかなくなり、結局、わたくしは2013年のお正月明けから、まる4年ぶりにお外で働くことになったのですが、今思うと、こうして今までお外で働かせていただいたことが、決してマイナスになっているなどとは到底思えません。

もちろん、この滋賀に「一旦」かえってきたときは、この仕事一本でやっていって、一日も早くここを出よう！ って思っていて、その思いに今も変わりはないけれど、でも、今まで、1年半以上、お外で働かせていただいていたことは、確かに「回り道」かもしれないけれど、そのお陰で様々な貴重な出逢いや経験を積みかせていただいている。

だから、決して、なにひとつ無駄にはなっていない、そういう確信があります。

何か、ひとつ、思いがあって、その実現のために一生懸命になっているときにいちばん怖いのは、知らず知らずのうちに視野が狭くなって、正確な状況判断が出来なくなることはないか？とわたくしは思います。

勿論、わたくしにとって、今の夢の道こそが、神様の道、と信じて止まないから、そして、そう信じ続けることをやめようとは今も全く思っていないから、だから、昨年、戸籍の名前まで変えました、その固い決心、信心はそれはそれでよいとして、でも、その思いがあまりに高じて、自分がどうしようもないところまで落ちているのに、現実から目をそらし、自らの思想信条にこだわり続けて、自分のみならず周囲までもろとも谷底へとごろごろ落ちてゆくのは、やはりおかしい、と思います。

スピリチュアル的に見れば、ゴール（人生の究極の目的）さえ見失わなければ、結局、最後は行き着くところは同じなのだから、一時的に、期限を区切って、思いきって方向転換することもあり、なのではないでしょうか？

人生のどんな経験にも無駄はないと言います。

どんどんと扉を叩き続けても、主が起きてこないのなら、一時的に、ちょっと違う扉を開けてみて、時期（時機）が来るのを待ってみてはいかがでしょう？

そうしている間に、また、状況は変わるかもしれないし、以前よりもずっとすいっと扉が開くようになっていていると思いますよ？

人生はなかなか思う筋書き通りに進まないけれど、時には思いきった方向転換もあり、です。そうして、また、その過程で経験することが貴重な人生の智慧となって、後々、本道に戻ったときに、どんなに力となってくれるかはわかりません。

あきらめさえしなければ、貴女の本道は消えることはありませんし、いつか必ず、きっと戻れます。

ですから、どうしても状況が好転しないようなときは、一時的にでも何か他のことを試みてみてください。

きっと、新たな風が貴女を優しく包んでくれるはずです。

くじけず、頑張りましょうね。

前向きでいれば、きっと道はひらけます。

23. 人生を豊かにするのは貴女次第



人生、生きていれば、つらいこともかなしいこともあります。
でも、そんな様々なことが起こる人生において、自らに元気やパワーをくれるのは、他ならぬ、好きなもの・こと、趣味といったものです。
貴女はどんな趣味をお持ちですか？

わたくし・・・・・・・・・・と言えば、20代半ば頃まで、生活に音楽は欠かせないものでした。でも、いつの頃からか、中学時代から芽生え始めた絵心（決して、描く方の絵心ではなく、観賞するほうの絵心）がいつしかそれにとってかわり、今ではいちばんの趣味は美術鑑賞になってしまいました。

あ、その前に、読書はずっと変わらず、いちばんの位置をキープし続けておりますが。他にもお散歩、空を見上げること、ドライブ（昔は湖岸道路をかつ飛ばし（？）たり、よく福井の海を見に行ったりした）、写真をとること、美しい建物や風景を見ること、星空を見ることなんかも好きです。

そして、最近新たに加わった、ライフワークのひとつとしたいスポーツも。これについては、もともと運動がとっても苦手なわたくしには大きなハードルだったりするのですが、でも、これは一生の趣味にしよう、いえ、70歳まで現役を実現するためにも（そして、70歳ですばーん！ と表舞台を去る）細々とでもいいから絶対続けよう、そう決めています。

このスポーツ（というほどのものではない）、とにかくストレス発散にはとってもいいんですよ。身体を動かすことがこんなにも精神の健康にいいだなんて、ずっとインドア派、超文化系のわたくしには、全く思いもよらないことでした。

よく、お仕事なんかで行き詰まって、アイデアが浮かばないようなときでも、お気に入りのNHK Eテレの「日曜美術館」を見るだけで、さーっと心が洗われて、新たなエネルギーがむくむくとわき起こってきたり、大好きな星空を眺めているだけで、それこそ、全身全霊が清められているいくような・・・・・・・・そんな気がいたします。

スピリチュアル的に言うなら、こうした趣味の効用って、エネルギー的に見たら、ものすごいと思うんですね。これは、好きな俳優さんや歌手の方に心ときめかせることも同じだと思います。

現に、わたくしは、この夏、ずいぶんサッカーの内田篤人選手からエネルギーをもらいましたもの。

(勝手に、ですけどね)

とにかく、生きていくということは、それだけで大変なこともたくさんあるのだから、故・宇野千代(うのちよ)先生流に言うなら「幸福をはりめぐらせて生きる」ことは、大切な人生の智慧と言えるのではないのでしょうか？

つらいことが多い人生だからこそ、趣味を持ち、そこからエネルギーを得て、明日への活力へと繋げてゆく。

趣味とまでいなくても、日常の些細なことでも、なんでも、興味をもって、好奇心をもって眺めると、なんだかとっても楽しいですよ。

先日、北陸のある神社さまにお参りにお伺いした際、時間があつたので、地元の郷土資料館的なところを訪れてみたのですが、なんでも前向きな興味・関心をもって接すると、とっても面白いことがわかり。

お陰でとても充実した時間を過ごさせていただくことが出来ました。

目にすること、耳にすること、そのすべてに、様々な人生の楽しみや智慧に繋がることは隠れているはず。

なんでも面白がれるかどうか、ではないのでしょうか？

そうして日常の些細なことにも心を配り、興味を持ち、心豊かに出来るだけ楽しく過ごせるよう心がけてゆけば、そうしてはりめぐらせた幸福が、更なる幸福をきっと呼んでくれることと思います。

人生を豊かにするのも自分次第。

貴女の心がけひとつ、です。

24. 時代の風に触れる



自らの仕事に真摯に取り組むようになって以後、わたくしは主に自宅で過ごすことが多くなりました。

OL時代みたいにどこかにお勤めするわけでもなく。

あらゆる面で余裕がなかったわたくしは、なかなかお出掛けすること自体も減ってしまい、おまけに、一時は、テレビを見ることさえ禁じておりましたので、なかなか「時代の風」

というものを感じにくくなっておりました。

徐々にテレビを「解禁」した後、画面上に登場する人々の「今らしさ」に戸惑ったこともあったほど、なかなか、まるで巣籠もりのような時期を長い間過ごしていたのですよね。

でも、それでは、やはり、何かが欠けてしまいます。

かつての大ヒットドラマ「踊る大捜査線」ではないけれど、「事件は現場で起きている」というか、何事も、やはり、その時代時代の風、というものがあって、それは、この21世紀、ものすごいスピードで変わっていています。

もともと、どちらかと言えば、田舎よりも都会が好き、街だからこそ存在する美しいものや目新しいもの、文化的な香りがとんでもなく好きなわたくしは、やはり、そうしたものにつねに触れていないと、なんだかしぼんでしまうような気がいたします。

都会の文化的な香りが好きと言えど、人混みがとても苦手なため、街をひとりゆくのはあまり好きではない（なんだか矛盾していますが・・・）わたくしだけれど、でも、やはり、その時々だからこそ存在するもの、時代の風を感じるためにも、時には街に出て、ひとに逢い、様々なものを見、触れ、感じなければ、と思うのです。

それは、なぜなら、わたくしという人間も今に属しているのであり、今はつねに変化し続けていているからです。

なんでも新しいものもいいとは限らないし、どちらかという、きれいなものが好きな割には、ファッションや美容情報に疎く（最近だからこそ、やっと、きれいなものを着たいという意欲が10年ぶりくらいに復活してまいりましたが）、街のきれいなお姉さんに圧倒され、面食らうほどの情けなさぶりを発揮していたりするのですが、でも、ひととして生きている以上、その時々だからこそ存在するエネルギーに触れ、心をつねに新しく保っておかなければ、って思うのです。

これは、特に、わたくしのようにビジネスを自分でやっている人間にはとても大切なことなのではないでしょうか？

そうしたものに触れてこそ見えてくるものがあるし、すぐにそれがわからなくても、好き嫌いは

別として、つねにその時代時代に存在するものには何らかの意味があるのですし、そうしたものに触れ、感じ、新鮮な精神を保っておくことはとても大事だと思うのです。

スピリチュアル的に言うと、その時代の気に触れる、とでも言いませんか。

そんなわたくしの数少ない行き先として、例えば、大阪の阪急うめだ本店はなかなか心地よい場所です。

阪急、いつもそれなりにおひとが多かったりするのですが、でも、なんか、好きなんですよ。

きれいなものがたくさんあるし、わたくしにはなぜか阪急の気が合うみたい。

滅多にお買い物を楽しむわけでもなく、ただきれいなもの、美しいものを見にいかせていただくことがほとんどのわたくしですが、でも、やはり、阪急、好きです。

(いつか上顧客になれますように！)

この世で生きている限り、好むと好まざるに関わらず、やはり、時代は移ろってゆくもの。

その変化には、それこそ個々人、様々な思いがあるのですが、でも、そうしたものに流されないように在りながらも、どこか、流されつつ、そうした中で自らの立ち位置を上手に見極めながら、時代の波に乗り続けてゆけたら、と思います。

そうして生きるのも、また楽しいものだと思います。

25. わたくしが欲しいのはスカーレットの強さ



結局、人生、精神力が全てだと思います。

わたくしは、大学生の頃から、可愛らしいおばあちゃまが何よりも憧れでございまして（若くてきれいなひとよりも）、ずっと、そんなふうになれたら、って思ってまいりました。そして、ずっと、わたくしにとって、永遠の憧れの女性は秋篠宮妃紀子さまでいらっしやいまして、それは初めて紀子さまがテレビにご登場なさった、わたくしが17歳、高校3年生

の夏休みから、何も変わっておりません。

でも、やはり、可愛らしさだけでは生きてゆけません。

例えて言うなら、『風と共に去りぬ』のスカーレット・オハラ。彼女のような強さが、今、わたくしがいちばん欲しいものです。

そんなわたくしは、いつしか、可愛らしいおばあちゃまよりも、エリザベス女王陛下のようなお年寄りになれたら、って思い描くようになりました。

あくまでもイメージ、ですが。

どうも、可愛らしいだけの路線では物足りなくなってきたようです。

もっとも、もともと可愛らしい感じが好き、と言えど、紀子さまも大事になさっておられたという「外柔内剛」の精神を重んじておりまして、「見かけはうさぎ、中身はいのしし」を地で行っていたし、今だってそうなのですが、でも、やはり、最近、特に、スカーレットのような強さを！！ と思う傾向がより強くなってまいりました。

人生、そうでないととてもじゃないけどやってゆけない、ってことが、やっと分かってきたのだと思います。

日本の「カワイイ！」の文化では、とにかく、女性も可愛らしい方が好まれる傾向が強いように思います。

これは、もう、日本の文化と言ってもよい………というか、だから、あんなにもアイドルさん達だって、どんどん可愛くなっていっているのですよね。

わたくしから見たら、皆さん、それはそれは、もう、お人形さんみたいです。

日本の「カワイイ！」の文化では、とにかく、女性も皆可愛らしく愛らしい方が好まれる傾向が強いように思います。

でも、お隣の韓国なんかでは、ちょっと、また違う。

可愛いよりも、どちらかというと、もうちょっと成熟した………というか、大人っぽい

というか、cool!な感じがよいのでしょうか。

日本の「カワイイ！」の文化は、ほんと、日本独特なものなのでしょうね。

わたくしの狭い見と、知識においてお話しすることを許していただけるなら、いわゆる「世界基準」を目指すなら、到底、「カワイイ！」だけではやってゆけないような気がいたします。

前にも、わたくしのブログで、ドリュー・バリモア演じるシンデレラ（役名はダニエルと言う）がとにかく勇猛果敢で、王子様に石だって投げる、といったことを書きましたが（映画 "Ever After" 1998年、アメリカ）、なにもそこまでゆかなくとも、そう、最近では、ディズニーのプリンセス達だって、皆、自立していて、生き生きとしていませんか？

単に「可愛いだけ」というのは、どこか未成熟で、やはり、どうしても男性的な視点から見た幼さや愛らしさを重んじている……というのを否めないと思うのです。

そうではなく、「私の選んだ人を見て下さって……」とおっしゃった、島津貴子さん（今上陛下のごきょうだいの末っ子さん）のように言えるくらいにならないと。

わたくしは、どうしてもそう思うのですね。

これから、日本は、どんどん変わってゆくことでしょう。

というか、変わらざるを得ない。

今は、昭和的な古い価値観もまだまだ残っていますが、これから、今の高齢者の方々が世を去ってゆかれたなら、どんどん、また新しい価値観・文化へと変わってゆくはずですよ。

そうなったときに、「カワイイ！」は可愛いでよいのだけれど、「カワイイ！+マチュア（成熟した大人の女性としての知性、魅力、品格）」が重要視される世の中になっていけばいいなあ、とわたくしは思うのです。

いつまでも男のひとが世の中をリードするのではなく、男女共に助け合って、もっと家庭を大事にして、その上で仕事もきちんとやって、みんなが健康で生き生きと輝いて暮らせる社会。

そういう社会をつくってゆくためには、「カワイイ！」だけじゃなく、もっと成熟した大人の女性がたくさん必要になってくると思うのです。

そういう意味でも（逆説的かもしれませんが）、わたくしはますます女子大って必要になってくると思うのですけれどね。

うーん。

違うかなあ？

自らで考え、判断し、自発的な選択を重ね、自ら進んで行動できる自立した女性。

王子様に石を投げるほどの豪快さは必要ないけれど、困難にめげず、敢然と立ち向かう、ドリュー演じるダニエルのような女性ももっと必要ですよ。

そして、また、スカーレットのような、何がなんでも生きてやるわよー！！といった、芯の強さ

と行動力も必要です。

なんでも欧米がよいとは言わないし、今更、アメリカ万歳！ でもない。

わたくしは自らが大和民族であり、日本人であることを心から誇りに思っています。

でも、確実に影響を受けてきた、日本以外の国の文化やものの考え方（わたくしの場合は、主にアメリカになるのでしょうか）の中にも、たくさんよいヒントは山ほどあると思っています。

スカーレットほどの女傑にはなれなくても、王子様を背負って困難を切り抜けるダニエルほどの強さはなくても、でも、弱いなりに、強い精神は持ちたい。

そして、いつも変化に柔軟に対応し、いつも前だけを見て、生きてゆけるだけの強さは絶対に持ちたいです。

そして、また、旧態依然とした状態を好み、変化に対応出来ないような状態には決してなりたくありません。

そうならないためにも、心身共に鍛え、いつも健康にありたいものです。

そうしてこそ、わたくしの夢も叶えてゆけると信じるから。

まだまだ、精進、精進、です。

26. 自分にとって、いちばんの親友になる



わたくしがこれまで生きてきた中で、いちばんつらかったのは、なんと言っても、「わたしの話を聴いてもらえない」ことでした。

これは、もう、カルマ的と言ってもいいくらい、これまでのわたくしの人生の様々な場面についてまわってきたことで、自分の声に耳を傾けてもらえないことのつらさは、それはそ

れはもう、痛いほど身にしみております。

とりあってもらえない、バカにされる、難癖をつけられる、無視される。

これほどかなしいことがありますでしょうか。

だから、わたくしは、どんなときも、出来るだけ、自分に暖かく寄り添って、誰にも裁かれない静かな環境で、自分のありのままの正直な声に耳を傾けるよう、心がけております。

そうは言っても、そんなふう出来るようになったのはごく最近のことで、いつもダメ出しばかりされてきたわたくしは、自分との間でも、まずダメ出し、否定から入ってしまっていました。

ありのままの正直な気持ち、素直な感情に耳を傾けようとせず、まず、ぴしゃり！ と冷や水を浴びせるようなことを、今まで四十年以上、平気で、ずっと自らにし続けてきたんです。

その仕打ちがどれほどわたくしをくるしめたことか。

結果、わたくしはどこにも居場所がなく、もともと激しい感情が、居場所を求めて走り狂い、いつも疲弊しきっていたのでした。

今から10年くらい前までかな？、その頃まではとにかく不安定極まりなく、何かちょっと心が揺れるようなことがあると、片っ端から、自分を支え、まるごと認め、是認してくれるひとを必死で探すようなありさまでした。

そんなわけで、精神的にも、目に見えないエネルギー的にも、どこにも居場所がなかったんです。

もっとも、それまでに、ルイーズ・L・ヘイ女史のご本には出逢っていたし、中野裕弓（なかのひろみ）さんのご本も知っていて、何度か口ミさん（中野さんのこと）のご講演会にもせっせと足を運んではいたけれど。

でも、全然、なんにも、根本のところではわかっていなかった。

つらい恋愛を繰り返したり、身体も心も、目に見えないエネルギーレベルでもとにかく不安定極まりなく、いつもつらくて仕方ありませんでした。

でも、あれから10年以上経って、いろいろと・・・七転八倒どころか、百転百一倒みたいなことをさんざんやり尽くしてきて、やっと、今では自分自身が自分にとってのいちばんの親友になろうって、そう思えるようになったんです。

これって、幸川玲巳（ゆきかわ れいみ）さんがおっしゃるところの「お姫さまごっこ」の“エア執事”みたいなもの、ですよ？（笑）

要は、何があろうと、自分に暖かく寄り添って、心をちゃんともてなしてあげる・・・とか、優しく包み込んであげて、いつも「大丈夫だよ、味方だよ」、って、前向きな優しい言葉を自分にかけてあげること。

誰がなんと言おうと、絶対に自分を責めないこと。

安心していただける暖かな空間を用意してあげること。

どんな感情も否定せず、根気よく、丁寧に付き合っただけのこと。

そういうことなんです。

もちろんね、なんでもかんでも、甘やかすってこととは違いますよ。

そこはね、賢明な母親のように、自らの成長を信じて、根気強く、繰り返し繰り返し、あきらめることなく、自分と向き合っただけかなければなりません。

また、どんなときも忍耐強く、辛抱強く、暖かく見守ってあげることでもあります。

でも、絶対頭ごなしに怒ったりしない。

とにかく、そう、人格を否定しない。

よくある怒り方、事実と感情をごっちゃませにして、とにかく感情の赴くまま、相手の人格まで否定する勢いで怒る、そんなことは絶対にしません。

怒ると叱るはまた別のものだし。

ま、そこらへんが難しいのだけれど、でも、何か、改めるべきことでも、絶対に人格までは否定せず、まず、自分をリスペクトして、その上で、何をどう改めるべきなのか、論理的に、事実だけを淡々と述べる。

で、今度からはこうしようねって、優しく諭す。

そういう向き合い方、かな。

とにかく、絶対、ぎゃーぎゃーと相手を責め立てるようなことはしない。

アホとかバカとかも、絶対に、冗談でも言わない。

賢明な母親は、大切な我が子に対して、絶対、そんな乱暴な口はきかないんです。

どんなときも、何があっても、絶対に、自分を見捨てない。

いつも自分にとってのいちばんの応援団にいる。

絶対に自分を粗末に扱わない。

いつも明るく暖かく優しく、丁寧に接してあげる。

笑顔を忘れない。

希望ある前向きな言葉を使う。

頑張ったときは、心からの愛と思いやりを持って、いたわってあげる。

こういった、自分で自分に与える愛情が少しずつ積み重ねていったなら、やがては、自然と、生きる力が徐々にでもたまってゆくはずですし、そうした貯金が、いざ！ というときに、自分を大きく支えてくれる根っこになってくれるのです。

自分が自分の味方であれば、ひとりでも全然楽しいですよ。

いつも基本、ほとんどひとり行動のわたくしですが、滅多にさびしいと思うことはありません・・・といったら嘘になりますが、でも、それでも、それなりに楽しいです。

むしろ、ひとりのほうが断然好きかも。

・・・と言うか、確実に、わたくしは、おひとよりも、断然、圧倒的に、ひとりの時間が必要な人間であることは間違いないです。

今までのわたくしは、そうしたひとりの時間を、ひたすら反省、ダメ出しなどに使ってまいりました。

でも、それで、人格が改まったか？ と言えば、そうでもなく。

根本のところ、愛のエネルギーが圧倒的に足りなかったから、そもそも、反省なんぞしても、心の深いところでは、「だって、仕方ないんだもーん。あっかんべー」だなんて、平気で思っていたのかもしれない。

でも、最近、以前よりも丁寧に自分と向き合うようになって、インナーチャイルドも、ちょっとは「おりこうさん」になってきてくれたような気がします。

まだまだおてんばで、わがままなところも多々ございますが。

でこぼこだらけでもいい、矛盾だらけでもいい、それでも、前を向いて、少しずつでも人生、向上させようと思う気持ちがあったなら、それでいいのではないのでしょうか？

開き直す訳じゃないけれど、今のわたくしは、前よりも、うんと、自分が好きです。

まだまだ至らないところだらけ、ですが。

でも、その、まだまだな部分も含めて、日々、頑張っって一生懸命生きている自分を心からいとおしく、また大切に思います。

こんなふうに思えるようになったのも、様々な素晴らしい先生方の御教えのお陰です。

40過ぎて、やっと、少しだけだけれど、自分を受け入れられるようになってきました。

まだまだ、自分との付き合いは一生続くけれど、でも、これからは、もっともっと、自分をさらに深く丁寧に愛せるようになりたいです。

そうすれば、きっと、自然と、周りの方々のことも大切に出来るようになって、今よりももっと

人生は輝いてゆくことでしょう！

どうか、皆様も、どんなときも、ご自分に暖かく寄り添ってあげてくださいね。
どんな声にも優しく耳を傾け続けてあげてくださいね。
そうしてゆくうちに、やがて、自分自身との間の信頼がさらに深まってまいります。
そうすると、心の力は増すし、自信だってどんどんついてゆくはずです。

この広い宇宙でたったひとりの自分です。

至らない部分も含めて、まるごと、全部受け止めてあげられるようになりましょう。

自分が自分を愛せずして、いったい誰が自分を愛してくださるのでしょうか？

「まずは自分から」（これは、もうずいぶん昔に、ロミさんにご本に書いていただいたお言葉）
です。

自分にとってのいちばんの親友、応援団になりましょうね。

きっと、そうすれば、もっと生きやすくなれるはずです。

貴女にいつも豊かな愛がありますように。

貴女が天のエネルギーが満ち満ちていますように。

God bless you!

愛をこめて。

27. 祈り、こいねがい、求めるならば



人生の試練において、いちばんつらいのは、一体いつまでこの状態が続くんだろう? と思えて仕方ないときではないでしょうか?

ある程度、何か、期限が見えていることなら、まだ耐えられるし、頑張ることだって出来る。

でも、この状態は一体いつまで続くの? と、まるで先が見えないようなときって、ほんと、半端ないんですよね。

もう、ものすごい絶望感に襲われる。

それも、ほんと、全く、どうしようもないようなときに、さらにキツイことが起こったりすると、もう、立ち直れないんじゃないかって思ったり。

挙げ句の果てには、よからぬ考えが頭をよぎったり。

人間、追い詰められると、誰だって狂気一歩寸前のところまで行ってしまう可能性は十分あるとわたくしは思います。

でも、たとえ未来永劫続くように思われることだって、絶対、そんなことはないんですよね。すべては必ず変化している。

そう、万物流転、です。

変化せずにいられるものなど、この世にはありえない。

(あるとしたら、多分、神様の愛だけです)

全てが、どんなに少しずつでも、どんなに小さな形ででも、必ず、変わっていかざるを得ないんです。

だから、絶対、永遠に「今」の状況が続くことなどありえない。

必ず、わたくし達は皆、平等に年老いて、皆、平等にこの世を去る。

そして、自分がこの世を去ったあとも、延々、ずっと、万物は変化し続けてゆくんです。

問題なのは、ときに、自らの時間軸を越えてまで、延々、今の状態が続くように思えて仕方ないようなときです。

自分の力ではどうしようもないことが、人生の大半の時間を占めてしまうように思えてくると、ひとは途方もない無力感や絶望に襲われてしまうんですよね。

そうなってくると、先程書いたように、狂気一歩手前のところまで追い込まれてしまう。

そうしたときの途方もないくるしみ、それこそ、自分の中がもう、焼けただれてしまうかと思え

るほどのくるしみというのは、経験した者でないと到分らないと思います。

でも、幸いなことに、わたくし達は、決してひとりで生きているわけではありません。

自分ひとりで頑張ろうとすればするほど、限界を感じてしまって、ものすごく追い込まれるし、本当にどうしようもなくなってしまいます。

だけど、もし、自分の中に、神様がいらしてくださって、その神様が力を貸してくださる、導いてくださると知っていたら、どうでしょうか？

なんでもひとりで背負うことはありません。

内なる神様と共に、一日一日、出来る範囲内のことを、ひとつひとつ積み重ねてゆけばいい。

そう、人生、何もひとりで頑張ることはないのです。

ひととして生きるには、この人生、ときに途方もないことに見舞われもします。

でも、神の子として生きるなら、どうでしょうか？

——確かに、神の子として生きたとしても、人生から困難や試練が消えてなくなるわけではありません。

でも、自らの内に神様がいらしてくださって、その神様がどんなときも守ってくださる、力を与えてくださる、道を明らかにしてくださる、導いてくださると知っていたなら？

そう信じていたなら？

同じ坂道をゆくにしても、全然、そのつらさは違うのではないのでしょうか？

どうしようもないとき、途方に暮れるときは、是非、神様にお祈りしましょう。

いえ、別に「神様」でなくても構いません。

貴女にとっての信仰対象となる方なら、どなたでも結構です。

貴女が信じ、頼みとなさる方に、どうか、お祈りなさってください。

お祈りの仕方も、ご自分なりの方法で、全然結構です。

なんでもかんでも貴女ひとりで背負うことはありません。

お祈りなさることで、きっと、心に平安が訪れることとなりましょう。

そうは言っても、ただ祈るだけでは、状況は改善しないことも多いです。

そういう場合、貴女に必要なのは、ただお祈りなさるだけでなく、祈りの結果、もたらされた「気づき」を実行してゆかれることです。

貴女がお祈りなさった方（神様や仏様など）は、必ず、貴女に、様々な形で、今後どうしていったらいいのか、そのヒントを、然るべきときに然るべき方法で与えてくださいます。

そのサイン（ヒント、何かの手がかり）に気づかれたなら、どんなにそれが突拍子がないこと

でも、勇気をもって、実行していただきたいのです。

祈る→サインをいただく＝気づき→気づいたことを実行する→実行して、初めて、なんらかの変化が訪れる、これが大事なサイクルです。

祈ったら、祈りっぱなしではいけません。

祈った結果、与えられたヒントを貴女が実行してゆかなければ、何か大きな変化は具体的に起こらないでしょう。

あくまでも自己責任で（とは言え、貴女を守ってくださる方がついていてくださるので、大丈夫です！）、そして、主体的、かつ、能動的に、貴女が自ら動こうとなさらない限り、おそらく、状況はなかなか変わってゆかないでしょう。

逆に言えば、与えていただいたヒント、気づきに基づいて、どんなに小さなことでも、貴女が勇気をもって、実行なさるなら、必ずや、状況は（ゆっくりとでも）変化してゆきましょう。

わたくし達がこの世で与えられた時間には限りがあります。

その限られた時間は、長いようで短いものです。

人間、生きていれば、誰もが一度や二度は無理難題に襲われ、自らを非力に思えて仕方ないこともありましょう。

確かに、人生には、どうしようもなく動けない時期、というのがありますが、でも、それは決して、永遠に続くわけではありません。

貴女が、ご自分にとっての信仰対象となる方に祈り、こいねがい、求めるならば、必ずや、なんらかのヒントをいただきましょう。

そうして、ヒントを得られたら、勇気をもって実行なさってください。

貴女が動かされて初めて、事態は動いてゆくのです。

好転してゆくのです。

どんなに絶望的に思える状況でも、貴女を守ってくださる方とご一緒なら、きっと大丈夫です。

そうしたときほど信仰が試されます。

勇気を出して、どうか、信じる方を頼みとなさってくださいね。

大丈夫。

きっと、必ず、貴女は乗り越えてゆけます。

大丈夫です。

28. 内なる want を生きる



大学生の頃、他大学への編入を考えていたわたくし（実際に編入試験を受けて、落ちましたが）は、当時、大阪にあった（先ほど調べたら、今もありました！）、大学図書館RENA（レナ）さんというところから、様々な情報を得ておりました。

当時（1990年代前半）は、まだまだインターネットなんてものは世に出ておらず、こうした機関が発信してくださる情報がとても貴重だったんです。

だから、時々、ニュースレターのようなものを送っていただいたりして、何かとRENAさんを頼みとしておりました。

あれは、わたくしが大学を卒業し、大学院への入学を目指していた頃のこと、だったでしょうか？

とにかく、まだわたくし20代前半の頃のことだかと思います。

そのRENAさん主催の、社会人として大学や院等に編入、もしくは、ご入学された方々のお話を聴く機会があって、わたくしはいそいそと大阪まで出かけたのでした。

その日は、ちょうど、3名の方がお話をなさったのですが、その中のおひとり、ある女性の方が、しきりと、ご自身の体験談の中で、「内なる want」という言葉を使われたのですね。

当時から「内なる神こそがいちばん！」と信じて止まなかったわたくしは、とても、その「内なる want」という言葉が、胸に響いたのでした。

もともと、10代の頃から、既に、わたくしも「内なる want」に基づいて生きていたから、だから、この言葉が胸に響いたのでしょう。

以来、わたくしも、この「内なる want」という言葉をよく使うようになりました。

わたくしが、今に至る夢の道を歩き始めたのは、ごくごく些細なことがきっかけ、でした。

なんとはなしに行ってみようと赴いた場所に、夢への扉がばばーん！ と開けていたんです。

それも、前日、つい、なんとなくめんどくさくなって、もう行かないでおこーかなーだなんて思っていた場所に！

でも、やっぱり、行ってよかった。

あの日、あの場所に行かなかったら、わたくし、今のような人生を歩んでいませんでした。

でも、その運命の分かれ道が訪れたのは、ごくごく些細なことがきっかけって、書きましたよね？

それも、前日、ついめんどくさくなって、行くのをやめようかとさえ思ったほどの。

でもね、その「些細なこと」も、よくよく考えたら、本当は深いところで全部繋がっているん

です。

それはわたくしの人間としての根元に関わる部分。

わたくしの深層意識というか、心の深いところから、なんとはなしにふわーっと浮かんできた、「あ！これ、面白そう！やってみよっかな？」という思い=内なる want が、今に至る運命の Big Wave をつれてきたんです。

人生、何がきっかけでどんでん返しが起こるか、ほんと、わかりません。

先日参加させていただいたあるビジネスのお勉強会で、会の終了後、講師の方にちょっとご挨拶させていただく機会がありました。

そのとき、わたくしは、先生に、今、自分が悩んでいることなどを手短かに申し上げたのですね。そしたら、先生は、ずばり、自分を信じることを、自分の中に答えがあるから、それをとことん追求なさったらいいのです、といったことをおっしゃってくださったのです。

必要なものは全部自分の中にある。

ビジネスについて、個性化がどうのこうのとか言うけれど、結局、突き詰めれば、自分の中にあるものしか出てこないのだから、自分が何をやりたいのか、どういうことが出来るのかを明確にして、それをとことん追求するしかない。

それは、わたくしがいつもブログを楽しみに拝見している、コンサルタントの渡辺亜侑美（わたなべ あゆみ）さんも常々書いておられることです。

結局は、とことん、自分と向き合っ、自分の中の "YES!" を探してゆくしかないんですよね。そこにしか答えはない。

自分の中に脈々と流れる創造の泉、宇宙の無限の豊穡の流れを信じるしかないし、そこを頼みとするしかないんです。

そして、それこそが、天の御心に繋がる唯一の手段なんです。

自らの内なる want に基づいて生きるということは、結局は、神に与えられた道、God-given Destiny や Divine Destiny を生きるということと同義なんですよね。

自らの内的欲求（決して、単なるわがままや、この世的な私利私欲にまみれた「欲」ではない）に従って生きることが、結局は神の道を生きることになるんです。

それって、なんとシンプルで素晴らしいことなのでしょう！

貴女の中に全てがあります。

貴女の中に答えがあります。

他の誰かや何かを見回しても、なんにも見つかりません。

見つかったと思うなら、それは、きっと、貴女の中にあるものを、他の誰かを通して再発見して

いるだけ、なんです。

自分の中にあるものしか、ひとは見えないから。

だから、とことん、自分と向き合うしかない。

ひとという鏡をときに使いながら。

それが王道だし、それこそが真実の道なんです。

貴女の中に流れる無限の豊かさ、宇宙の創造性を信じてください。

わたくしは、いつも、自らの中に神が居ますって言いますよね？

それって、結局はこういうこと、なんです。

わたくし達の中には、無限の豊かさ、宇宙の意思、宇宙を育む永遠の知性、創造性、愛、エネルギーが流れている。

それに繋がって生きてゆくことが神の御心にかなうことだし、それこそが貴女も、そして、貴女の周囲の方々にとっても、最良の道、なんです。

全ては貴女の中にあります。

偉大なるご自分をどうか信じてらしてくださいね。

そして、貴女にとっての内なる want を生きてください。

そうすれば、幸せなゴールへと続く扉を開けたも同然です。

祝福の鐘が貴女の中で鳴り響くでしょう。

天使の守護のもと、最善最良の道を歩んでください。

貴女にいつも神のご加護とお導きがありますように。

God bless you!!

29. 流した涙は無駄にはならない



ここ滋賀に「一旦」かえってきて、この8月31日で、まる6年の歳月が流れました。

当初は長くても3年の予定でいたのに、その倍の時間を越えてしまっ

た。このことに、これまで、散々打ちのめされ続けてきて、自分が情けなく、恥ずかしくて、いたたまれない気持ちになっ

りしたこともあったけど、でも、ここでわたくしが今日までひとり頑張ってきたことは、神様がちゃんとご存じです。

他の方がどうのこうのおっしゃることではない。

神様はちゃんとわたくしの努力も、この6年で味わってきた様々な苦痛も、そしてそれらに対して、わたくしがどんな思いで必死に耐えてきたかも全部ご存じなはずだから、だから、わたくしは何も後悔はしていません。

ただ前を向いて、今出来ることを一生懸命するだけです。

これまでの6年間を振りかえるなら、わたくしは、ほんと、よく泣きました。

もともと、多分、学校一の泣き虫といってもいいくらい、よく泣く子どもだったわたくしは、大人になってからも涙腺が、他の方々に比べて極端に緩すぎて、何かあれば、すぐに涙が溢れてきてしまいます。

それは、ただ涙もろいだけで、涙腺が緩いだけなのです。

ほんと。

でもね、これまで、特に、20代の頃のわたくしのモットーは「泣きながらでも前に進む」だったし、学卒後働いていた塾では、当時の責任者の方に、よくその前向きさを褒めていただいております。

落ちこぼれで、おひとの何倍も努力して、それでもおぼつかなかったし、極度の泣き虫だったけれど、これでも、一応、根性だけは、というか、芯は強い方なんです。

だから、ここに（あくまでも「一旦」）かえってきてからの6年間も、何度も何度も、数えきれないほど泣いたけれど、でも、わたくしには夢があるから、だから、必死でここまで歩いてきました。

ここまで夢を信じてあきらめずに歩いてきただけでも十分偉いじゃんねえ？……って、密かに、自分では思っております。

でもね、こんなにも泣いて、そう、この6年間は、おそらく、これまでの人生でいちばんよく泣いたような気がいたします。

入社拒否に追い込まれるほど、悩みに悩んだ頃も、全然社会人としての基本がなくなって、先輩方に総スカンだったOL時代も、きつーい恋愛を繰り返していたアホ極まりないほどに無謀だった頃も、持病の痛みにひとりくるしみ、どうしようもなかったあの秋も、それぞれにつらかったし、人生最大の失恋をしたときは、もう、それこそ1か月以上ひきこもって延々泣いていたし、いくつも、いくつも、散々だった時期はあるけれど、でも、それでも、こっちに（しつこいようだけど、あくまでも「一旦」）かえってきてからのこの6年間は、今振り返っても、本当に本当にきつかったです。

よくここまで来たなあとしみじみ思います。

誰にもなんにも言えなくて、「いのちの電話」だけが救いだった時期もありました。

お先真っ暗で、途方に暮れて、ベッドに沈むしかない夜だってありました。

ちゃんとそれなりの年齢にふさわしい生活なんて、もうとっくの昔に送れなくしまっていて、恥ずかしくていたたまれない思いをしたことだって、二度や三度どころではありません。

全ては、自業自得、わたくしが悪いのです。

わたくしの至らなさが引き起こしたこと。

でも、でも、あまりにきつくて、何度も泣いて。

本当に孤独でどうしようもありませんでした。

この記事を書いている今だって、極端に何かが改善したわけではありません。

未だに、いつときの完全な引きこもり生活の余波というか、後遺症で、正直、くるしんでいます。

でも、それでも、文字通り、どうしようもなかった頃に比べたら、これでもずいぶん元気になりました。

この夏からは、この秋に待っている、人生始まって以来最大のチャレンジに向けて、準備をしてきて。

その準備の過程で、多少自信がついたのか、なんだか雰囲気も変わったみたいです。

今日久しぶりにお逢いしたある方から、そんなお褒めの(?)言葉をいただきました。

自分でもよくここまで回復したなあ、だなんて、うれしく思います。

ここにかえってきてからの日々、本当にどうなることかと思ったけれど、そして、今だって、正直、これからどうなるだろう?っていうのは相変わらず、だったりするのだけれど、でも、今は、確実に、昔と比べて、力があります。

それは、きっと、神様や、その他、わたくしをお守りくださっている方々、そして、これまでわたくしを支え、励まし、見守ってきてくださった全ての方々のお陰です。

今は、とにかく、秋の大きなチャレンジを成功させることに集中しています。

それがうまくいったら、きっと、ものすごく大きな自信に繋がると思うし、何よりも、わたくし

は今度こそ、根底から人生を変えるために、この大きなチャレンジを決意したので。
だから、何があっても、絶対、このことは成功させたいのです。
一意専心。
とにかく、ベストを尽くしてまいります。

これまでわたくしがここにかえってきから流した涙は、決して無駄にはならない、それだけは固く固く信じています。
そして、この先、途方もない幸せがわたくしを待っていてくれるのだとも。
夜明けは近い。そう思うのです。
ただの希望的観測かもしれませんが。
でも、なんとなく、ほのかな明かりが見えるのです。
薔薇色の未来、かどうか、そこまでは分からないけれど。
でも、確実に、明るい何か、わたくしを待っていてくれる。
そんな予感があるのです。

それは、きっと、これまで散々流してきた涙が運んでくれる幸せなのだと、わたくしは心から信じています。
だって、あんなにくるしんできたんですもの。
だから、その分、それに見合った素晴らしい幸せが、きっとやってきてくれる！、そう心の底から信じているんです。
そして、これから、穏やかで平和な未来が待っている。
そして、わたくしはその優しい日々の中で、ここで孤軍奮闘した日々をなつかしく思い出します。
いつの日か、どんな苦労も決して無駄にはならないって、聴衆の方々の前で、笑顔でお話し申し上げる日はきっと来る、そう信じているのです。

どうか、今、おつらい環境にいらっしゃる方も、そして、今、丁度、まさに涙を流しながら、こちらの記事を読んでくださる貴女も、どうか、神様だけは、貴女の全てをご存じでいてくださることを信じてくださいね。
神様はよいお方です。
優しい愛のお方です。
神様は、きっと、貴女の涙も、努力も、くるしみも、かなしみも、全部全部ご存じです。
そして、いつか、必ず、それらに見合っただけの幸せを、成功を、喜びを、与えてくださいます。
。

貴女が流した涙は、決して無駄にはなりません。
貴女が神様を信じ、神様と共に歩もうとなさるなら、決して、神様は悪いようにはなさいません

。

この世で最も高きところにいらっしゃる神様が、必ず、貴女をよき流れへと導いてくださることを信じて、お心安らかにいらしてくださいね。

必ず、必ず、貴女は救われますから。

神様の最高のお力を、どうか信じてらしてくださいね。

信じる者は救われます。

希望を捨てないでくださいね。

愛をこめて。

God bless you...

30. 信仰は心の安らぎ スピリチュアルな智慧は人生を支える杖



今日は朝から雨の中、久しぶりに目のお医者さまのところへお伺いしてまいりました。

わたくしの眼科通院歴はものすごく長く、小学5年生の頃から、やれ、近視や、アレルギー性の結膜炎や、と何かとお世話になり。

中学3年生でコンタクトレンズを作ってから、3ヶ月に一度の定期検診をほとんど欠かさず。

でも、この春、いつもの定期検診にお伺いしてからは、しばらく診ていただけなかったのが、今日、やっと5か月ぶりに、先生のところへお伺いしてきたのです。

診察室に入り、最近の傾向として、ふと鏡を見ると、びっくりするくらい、そう、まるでうさぎさんみたいに目が真っ赤になっていることがあることをお伝えすると、先生、目をご覧になって、「あー」とひとこと。

今見ても、既に赤くなってるね、とおっしゃる。

はい・・・と頷いたのもつかの間、先生は次にこうおっしゃいました。

今のレンズが合っていないのかもね。

え？ とわたくし。

先生がおっしゃるには、もうこのレンズが目には合わないのかも。古いしねえ。ソフトレンズに変えたら？ と。

これまで30年間、ずーっと酸素透過性のハードコンタクトレンズだけを使い続けてきたわたくしには、ソフトと聞くだけで、拒否反応。

は・・・い・・・と返事も鈍くなり。

先生の診察のあと、クリニックにいらしゃるコンタクト屋さんのお話を聞いても、最初からその気がないので、気もそぞろ。

使い捨てなら、ランニングコストはこのくらいですね、などとせっかくいろいろと詳しくおっしゃってくださったのに、コンタクトレンズを変える＝出費がかさむ、と、まず思ってしまう、その時点でアウト。

おまけにランニングコストが今のレンズに比べてものすごくかかってしまうじゃあ、あ～りませんかっ!?

・・・と、だんだん心はブルーに。

お会計を済ませて、クリニックをあとにする頃には、すっかりため息まじりになってしまいました。

そもそも、この秋はいろいろと出費がかさんで・・・・・・というところへ、コンタクトレンズを変えましょう！ とのお話。

一生懸命、頭の中で電卓を叩くも、仕方ない、当面、めがねでいくしかないかあ、と。

せっかく昨年秋からコンタクトを再開したばかりなのに！・・・・・・、あ、でも、もともと、このレンズ、古かったしねえ、などと、思いはぐるぐる。

小雨降る中、帰り道を急ぎながらも、頭はフル回転で、どうにかして安価にコンタクトレンズを続けることが出来ないかを考え続け。

うーむ・・・・・・となってしまったのです。

ですが、うちに帰ってから、はた、と気づいたことがあります。

と、申しますのも、（話は突然変わりますが）、このところ、どうしても、高齢者の方の様々な問題に関心がゆきがちなわたくし（親がだんだん歳をとってまいりましたので）、中でも、最近、とみに思うようになったのが、年齢を重ねても、可能な限り、変化への対応能力は身につけておきたいなあ、ということなのです。

で、今回のことも、単にわたくしは、お金がどうのこうの、という以上に、コンタクトレンズをソフトに変えること自体に抵抗を感じてしまっているのでは？ と思ったのでゴザイマス。

前述のとおり、確かに、この秋はいろいろと入り用で、だから、この夏も頑張って働いてきたわけです。

毎月の収支は予算を決めてやりくりしておりますので、そこに新たにコンタクトレンズのランニングコストが、それも今のわたくしにとっては決してお安くはないお値段の、が入ってくると、他を削るか、頑張っ、稼ぎをよくするしかないんですよ。

だから、そのことで、むー！（困、というより、どちらかという、怒）となるのは、どうしても自然な心の動きと申しましょうか、そうになってしまうのは、致し方ない部分があるのですが、でも、これも、何か、ひとつの節目なのかもしれない、それに、コンタクトレンズをソフトに変えなきゃいけない、という、このひとつの変化も、何か（大袈裟かもしれないけれど）神様が意図されたことかもしれないよ？ と思ったのです。

わたくしは、コンタクトレンズのランニングコストが今に比べて（わたくしにとっては）格段に上がることに抵抗を示したけれど、でも、尊敬するルイーザ・L・ヘイ女史は、ご著書『ライフヒーリング』の中で、請求書は、そのひとが支払える能力があることを見込んで作成されるものであり、そうして自分を信頼してくれることに感謝しましょうね、てなことを書いておかれたよなあ、なんてことも思い出しまして。

確かに、今まで30年近く、ずーっと酸素透過性のハードコンタクトレンズで来たわたくしには

、今更この年齢で、新たにソフトレンズに言われても、いくらハードのほうが固くて痛かろうが、もう、ハードに慣れきっているのです、どうしても、ハードの方が安心出来るんですね。でも、それは、きっと、ただ単に変化することが嫌という部分が非常に大きいのでしょう。

いつも聴いているNHKのラジオ第1のプログラムが大幅に改編された昨年の春、新しい番組にことごとく拒否反応を示し、けちょんけちょんに言っていたように（苦笑）、人間、何事も変化に弱いというか、変化に抵抗してしまいがち、なんですよ。

歳を重ねても、変化を受け入れられないようにはなりたくない！ と、つい最近、ものすごく強く思ったばかりだったのに、たかがコンタクトレンズで、ここまで激しく抵抗を感じるとは。

もしかしたら、この変化も、神様が与えてくださったひとつの流れで、これを受け入れたら、すんなり、月々のランニングコストだってちゃんと用意出来るかもしれないのに、最初からつっぱねるなんて、度量が小さいなあ、そんなふうに思ったのでした。

例えば――いつもの、わたくし得意の妄想ですが――、今回、こうして使い捨てるソフトコンタクトレンズに変えることによって、今後も、わたくしは、定期的に目のお医者さまには通わないといけなくなります。

今後、希望通りに札幌にお引っ越ししたとして、今度は、向こうで、今度から新しく使うメーカーさんのレンズを取り扱っておられるクリニックを見つけなければいけません。

そうして見つけたところで、何か、運命を左右するような素敵な出逢いがあるとか！

今、書いたようなことに思いが至ったのは、帰り道、ふと、神様のことを思い出したからです。そして、神様の目からご覧になったら、今のわたくしの現状はどうなのかしら？と思ったのですね。

わたくしひとり、ちっぽけな人間としての器量だけで物事を見るのではなく、神様の視点からご覧になられたら、この変化も、何か然るべき意味があって、訪れたのかもしれない。

わたくしひとりでは支払いがどうのこうの・・・などと、つつい後ろ向きに考えてしまいがちだけれど、無限の供給、無限の豊かさに繋がっていることを信じるなら、大丈夫なのでは？

それに、ルイーザさんも、支払い能力があるから、請求書も発行されるのだとおっしゃった、ならば、そのように見込んでくださった世の流れに感謝するのが、豊かなひとのマインドなのでは？ などと思ったのでした。

わたくしの場合、今回は、これまで使っていた酸素透過性のハードコンタクトレンズが使えなく

なりそうで、で、新しく、生まれて初めて、使い捨てのソフトレンズに変えましょうか？ という流れがやってきた、そんなごくごくささやかな事案ではございましたが、こんなささやかな出来事でも、いろいろと、信仰が心にやすらぎを与えてくれるものであり、スピリチュアルな智慧は人生を支えてくれるものである、ということ、改めてしみじみと感じたのでした。

何をこんなことぐらいで、こんなにも大層に、延々と文章を綴るの？ と思いにいられたかもしれませんが（笑）、これが今日のわたくしの大切なひとつの気づきです。

皆様にシェアさせていただきますね。

31. 神様のお力をいただく



わたくしのスピリチュアリストとしての立ち位置は、あくまでも、スコットランドにあるスピリチュアル共同体「フィンドホーン」の創設者のおひとりである、故・アイリーン・キャディ女史の流れを組むものでして、わたくしの信仰の根幹は「ニューソート」です。

2010年からは、ずっと、ニューソート系のキリスト教会である、テキサス州ヒューストンにある、レイクウッド・チャーチの主任牧師様、ジョエル・オスティーン師の御教えに学んでおりますし、これまでわたくしが大きな影響を受けてきたのは、主に、アメリカのスピリチュアルな御教えでした。

普段、ニューソート系のキリスト教の学びを積んでおりますわたくし、何かあれば、キリスト教で言うところの神様やイエス様、聖母マリア様にお祈り申し上げますのですが、かといって、日本のお寺さんや神社さんにお参りしないかと言えば、そうでは決してありません。

30代に入ってから、折に触れ、伊勢神宮さまに足を運んでまいりましたし、特に、サイキックに目覚めてからは、その回数が増えました。

他にも、お導きをいただいた神社さんやお寺さんには、出来るだけお参りに伺うようにしております。

そうは言っても、こんなことを書くと、ほんと、罰当たりなのですが、わたくしは、もともと、日本の神々様については、とんと疎く、あまり興味関心がございません。

うる覚えな知識で恐縮ですが、もともと、おひとであった方々をおまつりしたことが多いのであろう、日本の神道は、唯一神を基本とするキリスト教とはまるでタイプが異なり、そのへんがどうしても、わたくしは、なぜか、腑に落ちないのですね。

これは、きっと、霊的な背景が、わたくしはどちらかということ、日本的ではないからなのだろうな、と、自分では思っております。

そうは申しまして、特に、ここ数年の、人生始まって以来、最大のピンチにおきましては、もう、とりもなおさず、ご縁をいただいた神様には、片っ端から、お参りしたり、その神社さんに関するご本を読んだりして、細々とではございますが、自分なりに学びを積んでまいりました。

昨年の暮れも、それまで、まるで興味関心のなかった、白山の姫神さまのお導きをいただくことになり。

この春、念願叶って、石川県白山市の白山比咩神社さまにお参りに伺いしてからは、もう、す

っかり、白山の姫神さまのとりこです。

これまで、お山なんて絶対に登ろうだなんて思わなかったこのわたくしが、身体を鍛えて、いつか、そう遠くない未来に、白山の奥宮（白山のお山の上にある）にお参りに伺おう、だなんて、思っていたりするのですから、飛んだ変わりよう、ですよ。

その他にも、つい最近、ご縁をいただいた、北陸のとある神社さま、そして、この2月に、ほんと、もうすぎる思いでお参りさせていただいた、伊勢の猿田彦神社さま、そして、あの、熊本の幣立（へいたて）神宮さま・・・・・・と少ないながらも、わたくしは、ここのところ、日本の神々様にご縁がございます。

これまで、人並みにしかお参りに伺ったことなかったのに、つい、お呼びがかかると、いそいそと馳せ参ってしまうのですよね。

最近は、そうして呼ばれてお参りさせていただくことが、だんだん、ひとつの楽しみになってまいりました。

基本、わたくしは、いつも、そうしてお呼びがかかった場所には、ひとりでお参りに伺うことにしております。

お参りする先では、呼んでいただいたことに心からの感謝を申し上げ、そして、また、行きの中道の無事をお守りくださったことの感謝を申し上げます。

その上で、何か、お力をお借りしたいことがあれば、心をこめて、謙虚にお願いさせていただくのです。

こうしてお参りを重ねてゆくうちに、わたくし、あることに気がつきました。

というのも――既に、世のパワースポットブームに沿って、様々な場所にお参りに行っておられる方なら体感しておられることなのでしょうが、こうした場所にお伺いすると、その後、必ずといっていいほど、自分自身が清められ、新たな力をお授けいただき、後の生活が緩やかにでも変わっていつているのです。

わたくしは、聖なる場所、聖地にお伺いさせていただくことを「パワースポット巡り」だなんて、よう、そんな軽々しい表現、出来ませんわ！、それに、そんな安易な気持ちで、そうした聖なる場所に赴くなんぞ、もってのほかだわ！ などと眉をひそめていた人間だったのですが（そうした霊的な場所に赴くには、心身を清め、己を律し、心を整えた上でお参りさせていただくべきであって、決してレジャー感覚で訪れるべきではないという考えなのです）、今年、お医者様であり、素晴らしいスピリチュアリストさんでもいらっしゃる、明石麻里先生のご本『スピリチュアルヘルス宣言』を読ませていただいて、その考えが変わったのでした。

というか、根本のところの思いは変わりませんが、明石先生が、世界各地の様々な聖地を巡礼さ

れて、その度にご自身が変わってゆかれたことを知り、それまで躊躇していた、いわゆる世に言うところの「パワースポット巡り」のスイッチが入ったのです。

決して浮わついた気持ちではなく、真摯な気持ちで、全身全霊をこめて、謙虚に、聖地と向き合い、そうした場所を巡ることによって、様々なお力を受けて変化してゆかれたという、明石先生の、地に足のついたスピリチュアルな道の歩まれ方が、わたくしの心にとっても響いたのでした。

ですから、何か、どうしようもないような状況におられる、ここ数年のわたくしのような境遇におられる方は、是非、聖地を様々に訪れてみられればよいと思うのです。

それは、ごくごく近所のお宮さんでもよろしいかと思えます。

(わたくし個人的には、ちゃんと宮司さんがその場にいつもいらっしゃる神社さんがよろしいかと思えますが)

どこか、近くの神社さんへ、おつたちと15日にお参りするとよろしいのでしたっけ？

それも出来るだけ、午前中に。

心をこめて、お参りを重ねてゆけば、きっと、何かが変わると思えます。

わたくしが、どこか、そうした神社さんに寄せていただいて、後、いつも感じるのは、それまでであった穢れが落ちたのではないかということ、心が正され、しゃんとするというか、落ち着いて、揺るがなくなる、そして、新たな道へと楽に進んでゆきやすくなる、ということでしょうか。

とにかく、確実に、何か、神様からお力をいただいているのだと思えます。

そうでなければ、神社さんにお参りにゆく度に、こんなに楽になるというか、変わるはずがありませんもの。

わたくしの場合、どうして白山の姫神さまとのご縁をいただくことになったのか、まるで分からないのですが、でも、きっと、何か、向こうの世界の方々の間で、わたくしはそうすべきだ、というご沙汰があったのでしょうか。

先日も北陸のとある神社さまにお参りに伺いました際、白山の方を眺めては、なんだか心ワクワクで嬉しくて仕方ありませんでした。

昨年末まで、まるで興味関心もなかったのに、今じゃ、白山さまさま！ といった感じで、白山の姫神さまのことが大好きなのですから、人間、どう変わるかわかりませんね。

とにかく、何か、道が見えないとおっしゃる方、どうしていいかわからない、とにかく、現状を

少しでもよくしたい、と切羽詰まっておられる方に、わたくしは、どこかの神社さまにお参りにゆかれることを強くおすすめします。

お寺さんでもいいのですが、わたくし的には、やはり、神社さんのほうがおすすめかな。

お参りの方法というか、流儀というか、そういったものには様々な情報がありますので、ご自分で一度お調べになられて、その中で、ご自分にとってじっくりこられる方法ととられたらよろしいかとわたくしは思います。

例えば、月に2回、おつたちと15日にお参りを、と書いてあったとしても、おつたちしか行けないわ、とか、月の第3土曜しか行けないわ、というような場合、そこらへんは、多少自分なりの方法にアレンジしても、よいのでは？ とわたくしは思うのですよね。

神様を拝する気持ちさえあれば、多少の変更、というか、自分なりのスタイルをとることを、神様も許してくださるのではないかしら？

でも、どうか、これだけは忘れないでくださいね、それは、お礼参りをなさること。

何か、お願いさせていただいて、しばらく時間が経ったなら、っその後の経過や結果がどうであれ、必ず、お礼参りはなさってください。

このことさえ忘れなければ、わたくしは、基本、自分なりの神様とのお付き合いのやり方（参拝に伺う頻度などを自分なりのスタイルにさせていただくこと）でよろしいのでは？と思います。そこらへんは、かなり、ゆる～いです。

幸い、日本にはやおろずの神がいらっしゃるのですから、どなたか、ご自分に合った神様とのご縁がおありになるとよろしいですね。

わたくしは、基本、いつも、伊勢の天照大神さまと、白山の姫神さまを心で拝しておりますが、皆さんそれぞれに、ご自分に合った神様がいらっしゃることかと思いますので、お好きな、そして、ご縁のある神様を大事になさってください。

そうすれば、きっと、神様は貴女にお力を授けてくださることでしょう。

貴女にいつも聖なる世界の方々のご加護とお導きがありますように。

そうわたくしも心からお祈りいたしております。

愛をこめて。

32. 人生は一度きり 後悔だけはしないように



昔々、まだまだわたくしが「結婚」というものに夢見る夢子ちゃんだった頃、沢田知可子さんの「幸せになろう」というお歌が流行ったことがありました。

なぜか、ことのほか、このお歌に心惹かれたわたくしは、当時、このお歌をよく聴く or 歌っては、誠に自分勝手な妄想劇を繰り広げておりました。

あれから月日が流れ、一度ご結婚されて、再びシングルに戻られたお友達も多い今となっては、「幸せになろう」は自分自身に言い聞かせる言葉と心得ております。

る言葉と心得ております。

結婚相手の方が、自分を幸せにしてくれる？

そんなの、ありえな—い！（笑）

幸せは自分でつかむものです。

っていうか、自分がお相手の方を幸せにさせていただきます！ ぐらゐの度量がないといけないのではないのでしょうか？

（と、これまた、知らないくせにエラソーなことを言う）

ここのところ、様々におひととお話ししていて、よく思うのが、「あら？ あなたも（わたしと一緒に）なかなかご自分を幸せにすることをお許しになれないのねっ」ってことです。

これはもう、カルマと言っていいと思うのですが（とは言え、なんでもかんでもカルマのせいにするのもよくないのですが）、なんで、こんな大変な人生を歩むかな？という方によくお出逢いするのですね。

そういう方は、きっと、今回生まれてこられるにあたって、非常に厳しい人生を自ら設定してこられたのだと、わたくしは思うのです。

そういう方の魂の傾向というか、性質は、とても厳しく、超自立の方で、なおかつ、とってもチャレンジャーで、そして、とっても忍耐強いんですよね。

だから、「あんた、何もそこまでせんでもええやんか……？」と思わず駆け寄ってしまわざるを得ないような人生のストーリーを設定してこられる。

どこまでもどこまでも厳しい………んですよね。

そういう方のお話をお伺いすると、わたくしもそうした魂がゆえのご苦勞が少しは（？）分かりますので、「そりゃ、大変ですよねぇ………」といったお話になってしまうのです。

でも、でも・・・・・・・・・・ですね、わたくしは、カルマというのは、今、現在生きている現世で、修正することは可能だと思うのです。

「こんな人生（=こんな魂のパターン）は、もう、嫌っっ！！」と思えば、それまで後生大事に抱えてきたカルマというか、生き方のパターン、魂のパターンをリセットすることは可能だと思うのです。

そうそう簡単なものではないけれど。

でも、きっと、「生き方を変えたい！ 人生を変えたい！！」と心の底から願うなら、それは可能だとわたくしは思うのです。

そのためには、ご自分の本当の霊質、魂の質を知ることからです。

カルマとか、いろいろその他もろもろの ややこしいものを全部取っ払って、貴女というご存在が、もともとどういった魂のルーツを持ち、どういった魂の歴史を歩んでこられたのか、今回どうしてこの世に生まれてこられたのか？

そうしたストーリーを紐解くと、そこに待っているものがどうであれ、きっと、皆さん、ご自分のかけがえのなさ、尊さに気づかれると思うんですよね。

そうして、今、現在の境遇がどうであれ、ご自分の本質に少しでも近づかれたなら、必ず、それからは、ご自分を愛する方向に向いてゆかれると思うのです。

そうなると、自然と、人生、よくしよう、よくなりたい、幸せになろう！ って、なっってこれると思うんですよね。

もっとも、そうは言っても、ご自分の魂をぐるぐるに覆ってしまっている様々なもの、エゴとか、この世的な知恵とか、人間としての常識とか、現代日本文化の悪しき習慣とか、そうしたものとご自分が同化してしまっておられるから、魂の声に耳を傾けようとなさっても、最初はなかなか難しいかもしれない。

でも、一度、方向が変われば、あとは勝手に必ず、そちらの方向へと転がっていくことになりますから（ご本人があきらめない限り or 抵抗されない限り）、自然と、ゆきつ戻りつでも、きっとよくなってゆかれるはずなんです。

変化の過程にどこまでついてゆけるか、そして、様々な波を乗り越えてゆかれるかどうかは、ご本人さん次第ですが。

でも、きっとね、一度扉を開けたなら、きっと世界は、人生は、変わってゆくはず、なんです。

わたくしは、2008年の8月31日の夜、ここに「一旦」かえってきて、それから今日まで、当初の予想を遥かに上回るなが一い、長すぎる雌伏のときを過ごしてこざるを得ませんでした。今もってそれは続いていて、ときに、「きーっ！！（怒）」となりながらも、なんとかなんとかか、持ちこたえております。

でもね、こんなわたくしでも、今年になって、これでも、少しずつ元気になってきていて、この秋には、人生始まって以来、初めての、大きなチャレンジに取り組むことにいたしました。

もっとも、この流れは、去年の7月1日、「これは、わたしの人生や。もう、これ以上、誰かや何かを脅えて生きるのは、金輪際やめよう。もう、そんなの、ほんまにごめんや。ほやから、これからは、絶対後悔せんよう、やりたいことは全部やろう！！」って決めて、以後、様々なことにチャレンジを続けてきた、その流れにあるものなのですが、でも、ほんと、この秋のチャレンジは、これまでやったことがないことなので、わたくし的にはハードルが高いんですよ。

でも、絶対成し遂げよう！！　そして、達成して、自信をつけて、今度こそ、人生、根底から変えよう！！　って固く決めているから、だから、頑張っています。

ほんと、無謀極まりないけれど。

秋のチャレンジは、あくまでも通過点です。

わたくしは、もう、こんな人生、絶対嫌！！　って心底思ったから、今、必死で、人生を根底から変えようと、あがきもがきつつ、日々、自分なりに努力していています。

その努力はどうして？

なんのため？

——もちろん、自分で自分を幸せにしてあげるため。

自分だけは絶対裏切らないもの。

努力も（霊的に見たなら）絶対、裏切らない。

だから、わたくしはわたくしのために、一生懸命努力するって決めたんです。

たった一度きりの人生、文句言いながらたらたら生きていくのだけは絶対にごめんだから。

たった一度しかない人生、妥協してあきらめて生きていきたくないから。

だから、一生懸命やるだけ、なんです。

こんなふうにも努力しても、結果はわかりません。

それは神様の領域。

わたくし達人間が結果を左右しようだなんて、それは驕りというものです。

でも、やるだけのことやらないと、絶対後悔するって、それだけは、わたくし、もう、身にしみているんですよ。

天国の門に立ったとき、自分の人生の落とし前をつけるのは、自分しかいない。

他の誰かや何かのせいにするなんて、絶対出来ないんです。

わたくしは、おそらく、これまでの過去世か、前世で、ことのほか、後悔したのでしょう。だから、二度と、あんな思いはしたくないって、それこそ骨の髄までしみてるんです。だから、今回の人生のモットーは「後悔だけはしたくない！」なんですね。

幸せになろう、と決心したなら、きっとその時点で、貴女を応援するバックアップ体制が、靈的に整うはずですよ。

あとは、どこまで自分が頑張れるか。

ここで引き寄せの法則なんてあてにしてもいけませんよ。

一生懸命生きているひとは、神様の御恵みにあずかり、自然と磁石みたいになってゆくから、「引き寄せ～」だなんて思わなくても、神様から、必要なものやことやおひとを、必要なときに必要なだけ、ちゃんと与えていただけるんです。

「引き寄せ」うんぬんは、あくまでも手段であって、目的にしてはいけません。

わたくし達の人生の目的は、自分らしく、出来るだけのことをやって、悔いなく生きること。そこにさえ、ちゃんとフォーカスしていたら、「引き寄せ～」だなんて思わなくても、自然と強力な磁場が発生するんです。

靈的な領域では。

この世で生きるにあたって大事なことは、どこまで魂の声に耳を傾けられるか、そして、勇気を持って、その声が導くところのことを実行してゆけるか、だと思います。人生は長いようで短い。幸せになりたいなら、絶対、わたしは幸せになる！！ と心の底から宣言して、ハラをくくって、あとは努力を重ねて行くだけです。

貴女を幸せにしてあげられるのは、ほかでもない貴女ご自身だけ。

ならば、悔いなく、精一杯生きましょう。

まずは、世の成功者と言われる方々が、どのような生き方をなさっておられるのか、そこに目を向けてみられるとよろしいでしょう。

何事も最初は真似からです。

すんなりうまくゆかなくても、めげずに試行錯誤を重ねてゆけば、やがて形になってゆきますから、根気よくまいりましょうね。

あきらめたらダメですよ。

天国の門に立ったときに後悔だけはしないように。

神様が与えてくださった全てに感謝しながら、素晴らしい方々をお手本に、精一杯、自らの人生の走行距離をどこまでもどこまでものばしてまいりましょう。

貴女にいつも神様の祝福とご加護がありますように。お支えがありますように。

God bless you!!

33. 風はまたきつと吹くから 波は必ず、また訪れるから



わたくしの人生、最高のピークが、2007年、サイキックに目覚めた年だったことは、これまで何度も書いてまいりました。

でも、あの、あまりに幸せすぎた夢のような一年を経験してからのわたくしは、もう、これから後の人生、あのときほどの幸せはやってこないのではないか？、そう思い、暗く沈みそうになることも多々ありました。

今となっては、決して、そんなことはない、と、心の深いところでわかっております。

でも、素晴らしすぎる一年を過ごした後、その翌年からの転がり落ちようが半端なかったから、もう、わたくし、本当に怖くなってしまったんですよね。

一体どこまでごろごろと転がり落ちればよいのか？

このまま、それこそ地獄に落ちて、もう二度と這い上がってこられないんじゃないか？

そんな恐怖にうち震えた夜もありました。

かつて、半年間だけでしたが、真面目に、ひたすら、正真正銘の「引きこもり生活」を実行したこともありましたので、あのときが底だったとして、そこからここまで這い上がってくるのは、とても大変でした。

未だにその後遺症、甚だしいし。

今のわたくしが在るのは、夢があるからにほかなりません。

夢がなかったら、とっくに、人生、あきらめていたと思います。

もし、夢がなかったら、廃人みたいになって、ただ存在しているだけだったのではないか？、と。

「我が人生始まって以来、最高の一年！！」を過ごし、「夢への翼」を得ようと、2008年の8月31日の夜、こちらにあくまでも「一旦」かえってきたわたくし（意気揚々とかえってきた）を待っていたのは、想像だにできなかった苦渋の日々でした。

その前の1年間があまりに素晴らしすぎたため、その落差は本当にきついいもので、わたくしは、サイキックに目覚めるまでの前半生も「散々」だったのだけれど、前半生、35年間の「散々」を山と積んでもかなわないほどの試練に、それから見舞われ続けることになったのでした。

その途方もない試練の日々でいちばん身についたもの、と言え、わたくしがいつも「ゾンビ力（ぞんびりょく）」と申しているものです。

それは何かと言うと、倒れても倒れても、ゾンビの如く、しぶとく、再び立ち上がってくること

！

それだけは、ほんと、身につきましたねえ。

今も相変わらず泣き虫で弱虫で、どうしようもないけれど、でも、倒れても、倒れても、その度に起き上がるしぶとさとあきらめの悪さだけは、とっても鍛えられましたよお。

鉄を何度も何度も叩いてつくってゆくように、がんがん叩かれっぱなしで、お陰で、これでも芯は強くなりました。

「ゾンビカ」について、わたくし、相当自負しております！

でもね、今でこそ、こんなふうに「ゾンビカ」だなんて、自分のことを面白おかしく話せるようになりましたが、それは、やはり、ある程度時間の流れがあったからだと思うのです。

2009年の11月下旬から2010年の6月1日の朝まで、ただひたすら引きこもり生活をやっていたときは、とてもじゃないけれど、ほんと、なんにも考えられませんでした。

それからしばらく、いえ、数年間はずっとそうでした。

ようやく、今年の夏になって、奮起した、というか、「後悔せんよう、思いっきり生きよう！！」って思えるようになって、それから、戸籍の名前を変えたり、新聞に投書したり、テレビ番組に出たり、様々にやってまいりましたが、そう思えるようになるまでの、紆余曲折……というか、ひたすら、モグラさんみたいに暗い土の中をもぐもぐ掘っていく(?)日々は、まるで光明なんてなく。

ただひたすら、2007年に垣間見させていただいた天上世界の美しさと、敬愛なる牧師様、ジョエル師のお説教だけが、生きる支えでございました。

散々すぎるほどの日々を数年間送ったお陰で、例えば、「人並みの生活」なんて、いつの間にか忘れてしまって、未だに十分立ち直れていないけれど、でも、これでも、ほんと、元気になれたほうなんです。

今、頑張っている、秋に向けての大きなチャレンジだって、そんなの、昔のわたくしなら、夢のまた夢、でしたもの。

ここまで回復出来ただけでも本当にありがたい、文字通り「有り難い」、わたくしはそう心から思っているんです。

人生には、ときに、途方もない試練が襲いかかって、おひとによっては、生きているのもやっと、ということがあるかもしれません。

ど真剣な引きこもり生活を半年間だけでしたがやっていたとき、わたくしにはまるで先が見えませんでした。

あれから4年しか経っていないのに、今、振り返っても、あまり、あの頃の記憶がないんですよね。

あまりにつらすぎたから、削除されてしまったのかしら？

でも、あのときがあったから、今、こんなに頑張れる、ってこともあると思うんです。あれほどのどん底を経験したから、だから、今、こうして、まだまだ人並みには程遠いけれど、それでも、まだ、少しでもましな生活を送れていること、それだけでも、ほんと、有り難いことだって……………。

だから、もし、今、途方もなくおつらい境遇におられる方がいらっしゃったなら、「きっとまたいつか時が巡って、また風が吹きますよ。波がやって来ますよ」って、わたくしは心から申し上げたいです。

実際、「それがいつなの!？」と聞かれたら、サイキックとしてみさせていたかない限り、お答えするのは難しいけれど、でも、きっと、きっと、あきらめなければ、いつか、また、時が変わって、状況も変わってゆくと思うんです。

あきらめさえしなければ。

引きこもり生活のどん底のわたくしを支えてくれたのは、夢へのかげがえのない思い（何があっても絶対揺るがない、強烈な思い）と、ジョエル師が教えてくださった、神様の愛の素晴らしさ、でした。

この間、当時涙ながらに何度も何度も聴いていた、ジョエル師のお説教を改めて聴いてみたのですが、あのときの思いがよみがえってきて、涙が止まりませんでした。

手前味噌で恐縮だけど、「璃い、よくあのつらかった日々を乗り越えてきたね」、そう心から思います。

「よく頑張ったね、よく耐えてきたね、よくここまでやってきたね」、って。

この思いは、誰がなんと言おうと、わたくしだけのもの。

わたくしにとっての大切な勲章です。

人生、いろんなことがあるけれど、どんな谷底に落ちても、きっと、また、いつか這い上がってこられる日が来ます。

もし、何らかの不可抗力で、それが現世で叶わなくても、きっと、神様が、霊的な次元まで含めて、何らかのよき措置を必ずとってくださるはずです。

この世だけがすべてではありませんからね。

神様は、信じる者を決して見放されはしません。決してお見捨てにはなりません。

そのことは、聖書でちゃんと書いてあって、ジョエル師によれば、そのことについて書かれているところのみが、聖書の中で3回も繰り返されているのだそうです。

それほどまでに神様は固くお約束してくださっている。

だから、絶対大丈夫。

必ず神様がお救いくださるはずなんです。

この世において変化しないものなど、何もありません。

どんなにゆっくりでも、確実に、すべてが変わっていつているんです。

ですから、今、何か、途方もないおくるしみの中にいらっしゃる方も、必ず、やがては状況が変化してゆきます。

全ては神様の御手のうちにあります。

神様はこの世で最も高きところにいらっしゃるお方です。

神様は全てをよくなさいます。

神様が全てを支配なさっています。

ですから、きっと大丈夫。

きつとうまくゆきます。

神様に守られていることを信じて、あきらめないでらしてくださいね。

貴女が待ち望む風が、いつか、必ずやってくると信じてください。

貴女を新しい境遇へと運ぶ波が訪れることを信じてください。

貴女にいつも神様のお支えがありますように。

愛をこめて。

God bless you!

34. 魂からの願い



わたくしは、2007年の1月4日の朝、目が覚めたら突然サイキックになっていたわけですが、実は、その前から、それらしきことはちらほらありました。

大好きな憧れの紀子さまのご成婚が間近となった頃のこと。当時、わたくしはなんとなく物書きさんに憧れていたのですが、その頃、なんとなく「いいなあ♪」と心に浮かんでいたペンネームが、なぜか、「秋篠」というお名前だったの

です。

それからほどなくして、大学の授業をまる一日しっかり休んで、朝からテレビにかじりついて拝見した礼宮（あやのみや）さま（ご成婚前の文仁親王殿下のお名前）と紀子さまのご成婚の一連の行事。

その後、宮家のお名前が「秋篠宮さま」となられたと聞いて、わたくしはとてもびっくりしたのです。

おそれ多くも、宮さまのお名前の件をひとつの例として挙げさせていただきましたが、サイキックに目覚める前から、なぜか、こうした「不思議なこと」や「びっくりするような偶然の一致」はちらほらございました。

ま、このようなことは、この世で生きておられる方なら、皆様、多かれ少なかれおありになることですから、特筆すべきことでもないのかもしれませんが。

でも、どこか、なぜか、わたくしのこれまでの人生には、確実に、あるひとつの「流れ」が存在しているのです。

それは、年を重ねるごとに、波間に見え隠れしていたような状態で。

でも、若かりし頃のわたくしには、「それ」がなんなのか、まだ全然わかるはずもなく。

その後、サイキックに目覚めたわたくしの目の前に、それまでなんとなく見え隠れしていたものが、ある日突然、一挙にその姿を現すこととなったのです。

それは、まるで、ばっ！ と暗幕を一瞬にして取り払われたかのような衝撃で。

その向こうに見えた途方もないヴィジョンに、わたくしは感動しっ放しで、感激に打ち震えながら、ただただひれ伏すよりほかなかったのです。

今振り返ると、それまで見え隠れしていたもの、それら全てが全部辻褄が合うのです。

サイキックに目覚めるまでの前半生はわたくしにとって、とてもとてもさびしく、かなしみに満ちたものでございましたが、でも、ある日突然、それまでばらばらだったパズルのピースが全部一瞬にしてはまったかのようなのですね。

それは、本当にものすごい衝撃で、わたくしは途方もなく圧倒されて、だから、自らの生き方を

根底から変えざるを得なかったのです。

しかし、そうして、暗幕が取り払われ、その向こうに見えた途徹もなくまばゆいものは、それから間もなく一瞬にして消え去ってしまい。

わたくしは、それでも、そのまばゆさと同じ光を必死で自分の内に探しながら、なんとかなんとか、ここまで言うような思いでまいりました。

でも、先程、今宵の輝く美しいお月さまを見上げ、わたくしはふと気づいたのです。

それは、わたくしは、やはり、己を偽っているのではないかと。ということでした。

魂からの願いを封印し、なかったことにして、本来歩むべき道から、それようとそれようとしてきたのではないかと。

夢を信じ、この夢に人生をかけ、必死で努力してきた。

わたくしはわたくしなりに、出来ることを、これまでも一生懸命やってきた。

それはおそらく十中八九間違いないでしょう。

でも、何か足りない。

それは、わたくしの本当の思い、本当の願い、何度否定しても、魂の底から湧き起こってくる願い。

結局、わたくしは、そうしたものを、よう自分で受け止めきれないのではないかと。そう気づいたのです。

表面的には一一、どんな困難にもめげることなく、これでも必死で明るく振る舞いながら、その時々出来ることを重ねてまいりました。

どんなにどす黒い醜い感情を抱いていても、せめて、今日のように教会にお祈りに伺ったときだけでも、聖なる心で居られるよう努めてきたつもりです。

でも、ふとしたときに、どうしようもなく涙が流れて止まらなくなるのです。

これはわたくしの本当に深い深いところから湧き起こる、途方もないかなしみで、これだけは一旦蓋を開けてしまったら、なかなか、わたくしでもどうしようもなくなる。

それを、必死でわたくしは隠し、蓋をし、なかったものにしようとしてきたのですね。

だから、ふとしたときに、ものすごくかなしくなる。

涙が止まらないわけです。

現実のところ、もう、今更泣いてもどうしようもないし、どうにもならないから、わたくしは、ずっとその思いを否定してまいりました。

でも、先程、あまりに美しいお月さまを見ていて、もうこれ以上、これらをなかったことにすることは出来ない、そうはっきりと悟ったのです。

これ以上、この思い、このこと、この感情を否定し続けたら、わたくしはもう、本当に、動けな

くなってしまう。

今、このときを逃したら、おそらく、もう一生無理になってしまうのではないか？

そう強く感じたのでした。

よく考えたら、わたくしがずっとここに不本意ながら留まり続けているのも、そして、本当に笑っちゃうくらい何も、何一つ、これといって芳しい進展がないのも、元はと言えば、おそらく、わたくしが、自らの本当の思い、正直なありのままの思い、魂の底からの願いを、ずっと自分で否定してきたからなのでしょう。

本当は行くべきところも、何をなすべきかも、ちゃんと分かっているのです。

だって、それを知るために、わたくしは、かつて、一時とは言え、自らの殻を破って、動き出したのですから。

でも、あまりにうまくいかなさすぎて。

それどころか、誠に不本意なことになってしまって。

だから、わたくしは、自分を消したくらい落ち込みました。

反省しました。

本当に、生まれて以来、あんなに反省したことはないというくらい。

いかに自分が幼かったか、甘えていたか、勘違いしていたか、皆様にご迷惑ばかりかけ通しだったか、散々思い知りました。

ひとさまの思いなど、何一つ分かっていなかった。

己がいかに至らない人間で、周囲の方々にどれほどかなしい思いをさせ、失望させてきたかも。

痛いほど、身にしみるほどに感じました。

だから、怖くなって、一步も動けなくなってしまって。

以来、ずっと、わたくしは、自らの本当の思いを封印してしまっただけです。

だから、ここに留まらざるを得なかった。

ここに自らを留め続けてきたのは、このわたくし。

他の誰かや何か、ましてや運命が悪い、だなんてことは絶対にない。

すべて、わたくしが自らを動けなくしてしまっただけです。

動いたら、また全てを失う。

それだけが怖くて。

だから、怖くて動けなくなってしまっていました。

動きたいと言いつつ、動けなくしていたのはこの自分。

そんな誠に矛盾に満ちた、がんじがらめになっていたわたくしの頑なな心を、中秋の名月、澄んだ美しい珠のようなお月さまの優しい光が、ふっと溶かしてくれました。

お月さまのお陰で、わたくしは、心の奥底に沈め込んでいた「本当の思い」にやっと気づいたん

です。

わたくしが今いちばんに何をすべきか、どこにゆくべきか、それが全部、今、目の前に答えが出ました。

本当は全部分かっていたのに、分からないふりをし続けてきたんです。

だから、ものすごくくるしかったし、どんなに素晴らしい先生にも、救ってもらうことなど出来なかった。

なんという矛盾の中に居たのでしょうか。

優しいお月さまの光の魔法で、これまでわたくしを縛り続けていたものが今、完全に解かれました。

これで、やっと、わたくしは自らの輝く内面の光に出逢うことが出来ました。

あとは、この光が導いてくれるままに、素直に、歩いてゆくだけ。

魂の底からの願いは、決して消えることはなかったのです。

何度否定しても、何度なかったことにしようとしても、魂の思いは、どれだけの時間をかけてでも、いつも、まるでブーメランのように、必ず、自分のもとにかえってきます。

それに気づかないふりをしたら、自分がくるしくなる一方で。

だから、わたくしみたいに、何年間も、どん詰まりになってしまいます。

この先、どうなるかは分かりません。

でも、これだけ、延々、全くあきらめることなく、ずっとわたくしの中で一生懸命叫び続けていた声を、これ以上無視することは、もう出来ないようです。

それほどまでの叫びも聞こえないようにし続けていたなんて、一体どれほどの大きな重石を乗せていたのでしょうか？

だから、自らの創造性も全くといっていいほど封印され続けてきなのでしょう。

この6年間、まるでことが動かなかったのも、今となっては納得、です。

全てはわたくしの頑固な抵抗精神が原因だったなんて！

とんだお笑い草、ですね。

――ひとは何のために生きるのか？

それは、ひとそれぞれ、だと思えます。

世のため、ひとのため生きようとなさる方もおられるだろうし、わたくしみたいに何を置いても自分の夢、という方もいらっしゃるだろうし、いえいえ、わたしは何よりも家のことを最優先に生きます、とおっしゃる方もおられれば、いえいえ、わたしはとことん好き放題に自由に生きて決めてきたんです！ と、おっしゃる方もおられることでしょう。

魂の声、その内容がどのようなものであれ、それを否定することなど、所詮、出来ないのだと思います。

たとえ、それが、いくら他の方々から理解されないものだとしても。

やはり、内なるものだけは、決してなかったもの・ことには出来ないのですね。

むしろ、それを否定してしまうと、全てがうまくゆかなくなってしまう。

そりゃあそうですね、生きる源である創造性は、内からいづるもの。

でも、魂の声を封印したのでは、肝心の生命力まで封印されてしまう。

だから、わたくしみたいに6年間もどん詰まりになる。

そりゃ、くるしいはずです。

わたくしは、もう一度、原点＝サイキックに目覚めたときに戻って、どうして、わたくしが、今回の人生、このようになったのか、そこに立ち返ろうと思います。

そこに立ち返れば、きっと、新たな道が見えてくるはず。

7年前に戻って、やり直します。

まず、この秋は、毎日のように教会に通って、神様のよりおそばで生きてまいろうと思っております。

今までより尚一層、心を神様に寄せれば、きっと、神様がこれからの道をお示しくくださることでしょう。

そのお導きを信じたいです。

何はともあれ、魂の声など、決して否定することなど出来ないのです。

否定すればするほどくるしくなる。

それだけです。

ならば、どんなに怖くとも、無謀でも、まるでアホみたいでも、挑戦してゆくしかありません。

——この先は断崖絶壁？それとも、それとも・・・・・・？

それは、実際に飛んでみないとわかりません。

飛んでみるしかありません。

はてさて、わたくしはこの先どうなるのでしょうか？

前々から、この9月から、運命が急カーブを描いて変わってゆく、とは聞いていたけれど（＝内なる声のお導きによって）、なんだか、この秋は、ほんと、とんでもないこと（よい方の！）が待っていそうです。

心しておかなければ。

そして、これまで以上に、己がなすべきこと——サイキックとしてのお役目も、しっかりと果たしてゆかなければなりません。

しばらく、派遣のお仕事との二足のわらじが続きますが、派遣のお仕事を優先しつつ、出来る範囲内で、サイキックとしてのお役目もきちんと果たしてまいりますね。

どうか、今宵、皆々様が、優しいお月さまの光に守られて、お心やすらかにあられますように。
愛と祈りをこめて。

アーメン。

35. 運命を導くもの



ひとにはそれぞれ、運命の羅針盤があって、多かれ少なかれ、それにひとは導かれて、この世での人生を生きてゆくのだと思います。

今回の人生、わたくしの場合、最大のテーマが、「自分を取り戻す」。

では、それはどんな自分か？、というと、神の子としての、本来きらきら光り輝いている、魂の本質の部分のことです。

わたくしは、今回の人生、夢を実現し、神様や唯一無二の霊的存在とのお約束を立派に果たすことによって、それを叶えようとしているのです。

先の項（「34. 魂からの願い」）でも書きましたが、わたくしの場合、そうした運命が導くところのものは、時々、人生の波間に見え隠れはしておりました。

サイキックに目覚めたのは、2007年、35歳になってすぐ（その前の年の暮れ、2006年の12月で35歳になっておりました）のことだったけれど、それまでも、なんとなくだけれど、自分のことについては案外分かっていて、いつも己が何をなすべきか、それだけは割合はっきりと分かっていたのですよね。

だから、お友達の多くが歩まれる道からどんなに外れていようが、わたくしには、心の深いところで揺るがないものがあって。

むしろ、自分の道を歩むこと、そっちにものすごく強いこだわりをもっておりました。

大学生の頃からは、「わたしはわたし」というのが揺るぎなくあって、それだけは今も変わっていないです。

これも、先に書いた項と内容が重なりますが、わたくしは、そうした、わたくしを導くものがなんなのか、サイキックに目覚めるまでは、あまりよく分かっておりませんでした。

いつも心に強烈に湧き起こる何かに突き動かされ続けてきたけれど、それがなんなのか、皆目検討がつかず。

ただ、どうも、何か流れがあることだけは分かっています。

波の間に間に見え隠れする、その手がかりだけを必死で追い求めて、35歳でサイキックに目覚め、第二の人生を与えていただけるまで、生きてまいりました。

そして、これもまたまた、先の項と内容が重なりますが――、サイキックに目覚め、それまでずっと降りていた人生の暗幕が突然上がり、その向こうにあるものが見えたとき、わたくしは、ものすごく圧倒されたんです。

それは、それまでの自分では想像だにしなかった世界で。

以来、わたくしはそれまでとは全く違った規模で、それからの人生を歩むことになったのでした。

それは、まるで、森の中をちよろちよろ流れる小さな小川が、いきなり大河に姿を変えたかのようだったのです。

でも、それは、かなりの背伸び、というか、ものすごい大転換で、だから、今日までの6年間、わたくしはひたすら神様に、己の器をうーんと大きく深く広げるよう、これでもかー！ これでもかー！ と鍛え続けられたのですね。

まだまだ、ほんとに至らないところだらけで、お恥ずかしい限りなのですが（相変わらず「ぶっ飛んで」いるし……）。

でも、これでも、ずいぶん、以前よりは成長出来たほうなのです。

それもこれも全て、サイキックとして与えていただいた第二の人生にふさわしい器になるべくしてのこと。

そんなわけで、わたくしは、それはそれは、もう、火を噴くかと思うほどに、内面が焼け焦げるほどにくるしみ続けてきたわけなのですが、靈的に言うなら、これほどのくるしみも、全て、全て、神様からの貴重な御恵みだったのです。

（と、一応、お利口さんなことを書いてみる（笑））

でも、これほどまでのくるしみを与えていただいたのも、全てはわたくしが神様と散々練り上げてきた計画に過ぎず、ここまでこんなにくるしむことも、わたくしの魂の深いところでは全部織り込み済み、魂の深いところでは、なぜこんなふうにならざるを得なかったのか、全部全部ちゃんと分かっているのですね。

それは、冒頭に書いた、今回の人生における、わたくしにとっての最優先となるテーマ＝神様や大切な存在である靈魂と約束した夢を叶えて生きることを通じて、神の子としての、靈的な健全なる自尊心を取り戻すためにほかならないのです。

これまでも何度か書いてまいりましたが、わたくしは、人間として生き始めた、まだまだ若い魂年齢の頃、途方もない大失敗をやらしました。

それは、よかれと思ってとった選択によって、自らの全てを失ったのみならず、自らにとって大事だった人々も、一族もろとも滅亡させてしまったようなのです。

それに、その犠牲は一族ではとどまらず、当時わたくしが支配していた地域に住む人々も、そう

でした。

そのことで、わたくしはものすごい魂の傷を背負ってしまって。
以来、本来自らが持つ力を封印させざるを得なかったのですね。

わたくしが「これ！」と選んだことによって、すべてを失ってしまった、それも自らのものを失うのみならず、一族、引いては支配下にあった人々さえ大勢殺してしまった、そのことで、悔やんでも悔やみきれないほどのくるしみと、自責の念を負ってしまった。

それからというもの、わたくしは、大抵なんらかのハンデを負って生きる人生を繰り返してまいりました。

中でも、今回の、人間として最後の人生に深く関わりのある、今から二つ前の人生では、才能を持ち、家族に恵まれ、幸せに暮らしながらも、病弱だったため、愛するひとの人生を台無しにしてしまいました。

そのことが、ことのほか大きな痛みとなって今も残っていて。

それで、今回の人生、ずっと、自らが幸せに生きることを許してこられなかったんだと思います。

でも、サイキックとして目覚めて7年が過ぎ、これまでの様々なわたくしの魂のストーリーを見てきて、今後、残りの時間をどうやって生きてゆけばいいのか、大分分かるようになってまいりました。

その答えをくれたのが、わたくしを導くもの、そう、魂のルーツ、だったんです。

そこを紐解けば、様々なことが見えてくる。

わたくしの場合は、全てを失い、悔やんでも悔やみきれなかった、魂が若かりし頃の過去世と、二つ前の過去世が、今回の人生に大きく関わっていることは、前述のとおりです。

そして、そこから今に繋がるメッセージを、様々な形で、向こうの世界の方々から、今日までいただいています。

そうして人生の羅針盤を読み解いてゆくと、自然と、今後、自分がどうやって生きていったらよいかが見えてくるのです。

そうして見えてくるものは、おそらく間違いなく、そして、本物で、揺るぎないものです。

ただ、それが分かって、見えていても、いつまでも自分が受け止めきれなければ、船は進んでゆかない。

ともすると、わたくしみたいに6年もの間、座礁したまんまになってしまう。

そうなってくると、ほんと、どつぼもどつぼ。

うんともすんとも動かなくなってしまう。

だからこそ、運命を導くものに、勇気を持って"YES!"と言い、思い切って、そちらの方向に進んでゆかなければならないのですね。

わたくしの場合、一度、そっちに歩き出したのに、途中で大きな穴に落ちこちちゃったもんだから、また引き返してしまった意気地無しです。

ま、その穴も、最初からちゃんと織り込み済み、というか、最初からちゃんと設定してあったのですけれどもね。

とにかく、結局のところ、スピリチュアルに生きる、とは、心の声に耳を傾け、そこから導き出される運命の海図、運命の羅針盤をもとに、少しずつ、少しずつ、手探りながらも進んでゆくほかないのです。

その先の流れは、まず一步踏み出して、初めて、その次が見えてくるものであって、全部一気には分からないのですよね。

中には、わたくしみたいに、歩き始めて、すぐに、手痛い思いをして、怖くなって縮み上がってしまい、また振り出しに戻って、何年も動けなくなってしまう方もおられましょう。

でも、それではいつまで経っても、時間がとっとと流れる一方で、何も変わらないのです。

一度大きな穴に落ちこちたのだとしても、それでも変わらず、心がそちらを示すのなら、もう一度、勇気をもって、その道を歩き出してゆかなければ。

結局のところは、それがいちばんの王道なのです。

わたくし達は皆それぞれに人生の課題、テーマがあって、それに沿った人生のシナリオを、見事なほどに練り上げて、生まれてきています。

人生に生じる出来事は、全部、自分が仕組んだこと。

だから、もし、貴女が今の人生を変えたいと思われるなら、神様と共に、生まれる前のご自分のもとにつかつかと寄ってゆかれて、どうすればよいのか尋ねられたらそれでよろしいのです。

その方法として、お祈りや、瞑想、内観など、様々な方法があるのです。

結局は、自ら（ハイアーセルフ）との対話。

そこにしか答えはありません。

運命を導くのは、結局は、生まれてくる前の自分、神の子としての自分、自らの魂の本質、なんです。

そして、その魂の本質の奥をどんどん探求してゆくと、やがては神様のまばゆい光にゆき着くんです。

わたくしが2007年、サイキックに目覚めたとき、一瞬だけ神様に垣間見させていただいたのは、この夢の道を生きれば、神様の光に立ち返れるよ、ということでした。

それほどまでにまばゆいものを見させていただいたから。

だから、わたくしは、自然と、そうなるずっと以前（中学生の頃）から、「璃」（きらきらひかる光の珠という意味）という字に心引かれるようになり、30歳の頃からは実際に「璃」という文字を使った、「りい」という名前を名乗り始めたのだと思います。

人生は本当に上手く出来ていて、何一つ無駄なことはないし、全部全部、必要なものは、全部繋がっているんです。

そして、それは、たとえどんなに遠く離れていても、全てお互いに呼応しあっていて、ある日突然、その運命がクロスするんですよね。

だから、素晴らしい出逢いがあったりなんかして。

ほんと、人生って、見事なまでに上手くできているんです。

敬愛なる中野裕弓（なかのひろみ）さんは、以前、”人生は絶対あなたを潰さないから”、といったことをおっしゃっておられました。

そして、この夏、改めて処女作を読み返させていただいて、いたく感動した上原愛加（うえはらあいか）さんも、そのご本の中で、”「絶対に、大丈夫！」と強く信じ込むのです。”と書いておられます。

この混迷極まりない現代を生きてゆくにあたって必要なのは、ロミさん（中野さんのこと）がおっしゃるように、人生は絶対自分を潰さない、と信じ、愛加さんがおっしゃるように、「絶対に、大丈夫！」と信じることではないでしょうか？

そして、内なる神の声に耳を傾け、そこから導かれるところのことを勇気をもって、実践、実行し続けてゆくことではないか？、とわたくしは思います。

わたくし達は皆、神様から、その命の炎を分けていただいた、光の御子であり、聖なる分け御魂（わけみたま）です。

ですから、わたくし達の中にはそれぞれ、神様がいらしてくださって、その神様がわたくし達ひとりびとりをちゃんとお守りくださっているのですね。

この世的にはどうであろうと、霊的な目で見れば、必ず、守られているし、導かれてゆく。だから、きっと大丈夫なんです。

そして、やがてお約束のときに、この世を離れ、光の世界にかえってゆくことになるのですが、そのときに、貴女を暖かく迎えてくださるのは、魂の家族と呼ばれる方々です。

わたくしも、天国の門をくぐり、その向こうで待っていてくださるはずの、わたくしの魂の片割れさんに再びお逢い出来る、その瞬間だけのために、今、この世でひとり生きています。

実は、わたくしの願いは、本当にそれだけなんです。

どんなにつらいことがあっても、決してこの道を降りることが出来ないのは、ただひとつ、それだけのため、なのです。

わたくしの全てを導くのは、その大切な唯一無二の魂の存在、なんです。

その魂がいろいろと、この世で様々にわたくしを導いてくださるから、だから、わたくしはひとりでもこの世で生きてゆける。

ただ、天国の門をくぐったとき、やっと再びお出逢い出来る

魂の片割れさんに恥ずかしくないように生きようって、その思いだけがあるから、だから、どんなにくるしくともあきらめることなど出来ないんです。

天国で待っていてくださる方のために、この世で一生懸命生きるだなんて、滑稽でしょうか？

でも、わたくしにとって、今、生きる意味はそこにしかありません。

お空の向こうで見守っていてくださるその魂さんに恥ずかしくないよう、わたくしはこの世で精一杯生きるだけ。

それだけがわたくしが生きている意味、なんです。

どうか、この本を読んでくださった貴女に素晴らしい出逢いがありますよう、そして、神様の祝福がいつもありますことを心からお祈りいたしております。

闇の中におられるときは、光がありますように。

どうか、どんなときも、神様に守られていること、愛されていることだけは忘れないでくださいね。

心からの愛と真心と感謝をこめて。

God bless you!

番外編：何がわたくしを人生最大の試練から救い、支え、守ったか——自らの霊的価値を知ることの大切さ



人生、幸せに生きられれば、それに越したことがないし、幸せに生きようとするならば、それに見合った心構えや生き方を身につける必要がある。

ここのところ、以前にも増して、そうしたものの大切さに気づくようになり、あらゆる場所において、出来るだけ、ポジティブに、明るく前向きな内容を、と思うのだが、それでも、やはり、わたくしには、困難に耐え、それをなんとかか

して乗り越えようとする方々の力になりたい、という思いが非常に強い。

それは、今日までの42年と10ヶ月の人生において、わたくしがさんざんくるしみ、迷い、嘆きかなしみつつも、光を見つけようと必死だったから。

だから、どうしても、わたくしと同じように、人生において悩み、くるしみ、傷つきながらも、それでも光明を見出だそうと努力し続ける方々のために、わたくしは、今日も言葉を綴るのである。

振り返れば、わたくしの今日までの人生は、「ただ当たり前、ありのままの自分で居ることが許されない状態」とのたたかいであった。

時に、自らの霊的カルマの重さ、頑として揺るがない、ものすごく、とてつもなくネガティブなものに、どれだけ翻弄され続けてきたことか。

それらの全てが、生まれる前、神との間に契約し、自ら設定してきたものであったとしても、あまりにも、あまりにも過酷すぎた。

ゆえに、わたくしは、30代の前半まで、ずっと、心のどこかで死を思い、本気でこの人生を生きてこれなかったのだと思う。

自分で言うのもなんだが、ある意味、途方もない、強すぎる力を持つがゆえの、この霊的な拘束、重荷、十字架は、これでもか！これでもか！と、わたくしをさんざん傷つけ、痛め、圧倒し、破壊寸前まで何度も行った。

それでも、ありがたいことに、未だ、わたくしはこの世に生かされ、神の恩寵のもと、導かれ、守られている。

この境地にたどり着くまでの、まさに、血を吐くような思いをして、なんとかなんとか「文字通り」生き延びてきたこと、この経験が、今後、わたくしとご縁をもってくださいる全ての方々のお役に立つなら、これほど幸せなことはない。

思うに、途方もない困難、重すぎる試練というのは、何も、わたくしだけの問題ではない。

それは、多かれ少なかれ、そして、その程度の差こそあれ、誰の人生にも存在するものだ。

そして、残念ながら、それらの全てが、まあ、無事におさまる、というものでもない。

人生は時にとても過酷なものであり、なんで、そうなるの！？ というような展開が往々にして起こるものだ。

そして、それらに翻弄され続けたまま、人生を終えてしまうことだって、ごくごく当たり前、普通のことなのだ。

だから、皆が皆、人生の最後を万々歳！ で終えてゆくとは、わたくしにはとてもじゃないけれど、言えやしない。

皆、そうして、ほとんどのひとが、次の人生、次の霊的次元に、今回の人生で成し遂げられなかった課題を背負って、生まれ変わってゆく。

それがごくごく自然な流れ、と言っては、あまりだろうか？

皆が安泰に無事に、思うように、この人生を生きられるとは限らない。

それでも、わたくしたち、人間は、可能な限り、自らが思うようにこの人生を生きたいと心から願う。

そして、そのためにものすごい努力を費やす。

どこまで出来るかはわからないけれど、でも、後悔だけはしないように、出来るだけのことはやって、この世を去りたい。

それが、わたくしの今回の人生における、最大のテーマであり、心から渴望して止まないものだ。

それがゆえ、今回の人生、これまでにないほどの重荷を自ら設定し、わたくしは「途方もない困難に挑戦し続ける人生」を生きているのだろう。

どこまでもチャレンジャーな魂、と言ってしまえば、それまでだが、こうして困難や試練に挑み続けるのが、どうやら、わたくしの今回、人間として最後の人生において、根底に流れ続けるテーマらしい。

これまで、わたくしは、「ただ、ありのままの自分自身で居る」という、人間としてごくごく基本的な、そして、霊的な基本的人権とも呼べる、それ自体がまるで許されてこなかった。

どこにいても、何をしていたいても、いつも最下位、下方に見られ、蔑まれ、疎まれ、軽んじられ続けてきた。

それがゆえ、味わった筆舌に尽くしがたいくるしみは、未だ、わたくしの奥底で、マグマのような怒りとなって渦巻いている。

それゆえ、人間が持つ最も醜い、そして恐ろしい感情だって、実際抱いたし（それを何らかの実際の行動に結びつけようとは夢にも思わないが）、そのことで、本当にひどくくるしめられた。

今回の人生で、これまでのあらゆる過去世でさんざん経験し尽くしてきたであろう、あらゆる憎悪をもってしても、ここまでの醜い感情は抱かなかったであろう、というほどまでに、それはわたくしをことごとく打ちのめし、くるしめ、魂の耐え難い痛みとなって、恐ろしいほどまでに、げっそりと衰えさせた。

誰にも言えない、このくるしみは、おそらく、今後もわたくしが一生背負い続けてゆかなければ

ならないものなのだろう。

それほどまでのくるしみを味わってもなお、わたくしが、スピリチュアリストとして、そして、神を信じる者として、おこがましくも、また、恐れながらも、神の愛、御言葉、聖なる世界の知恵を説くのは、ただ、そうして生きることこそが、わたくしが今回この世に遣わされた使命だからである。

何度も、尼僧やシスターになろうかと迷いながらも、あくまでも今回の人生においては、市井において聖なる道を説きなさい、という神から与えられた使命があるから、全くの異端、と自ら思い、戸惑い、躊躇いながらも、こうして、ここ日本で、このような活動を、細々とながらも続けてきたのだ。

そのせいで、負わなくてもよい苦勞や、これまた途方もない試練に見舞われ続けてきたけれど、何をおいても、こうして生きることこそが、わたくしにとっての生きる生命線であり、最も魂が望み、そして、最も喜ぶことであるのだから、仕方がない。

誰がなんと言おうと、わたくしはこの使命を立派に果たし続けてゆかなければならないのである。

こうした命を帯びながらも、今日までのわたくしの人生は、ことごとく破壊的であり、いつも乾いた砂混じりの風が吹き荒れる中、たったひとつの微かな光を求め続けてきたようなものであった。

どれだけ蔑まれ、軽んじられ、馬鹿にされ、ひとが持つ感情のあらゆるネガティブなものの吐き出し口、憂さ晴らしのための格好の壁として、叩かれ、疎まれ、憎まれ続けても、それでも、今日まで気を狂わすことなく、わたくしがわたくしでありえたのは、ひとえに、魂の本質をずっと探し求め続け、ついには、それを知ることが出来たからである。

先程にも書いたように、人生における困難、試練、そのすべてを見事にクリアー出来る、ということはないとわたくしは思っている。

例えば、重い病に打ち勝ち、その後、長い人生を得られるという奇跡的なパターンは、やはり少ないのだろうし、皆が皆助かるわけでもない。

また、今日までわたくしが抱えてきたような、途方もない、ものすごくネガティブなカルマを、今回与えられた人生で無事全て解消出来るか？ と言えば、それもまたとても難易度の高い問題である。

おそらく、ほとんどの魂が、何らかの後悔や、やり残した課題を背負って、次の靈的次元へと生まれ変わってゆくのだ。

それが自然と言えれば自然でもあるし、皆が皆、今回の人生で悟りを開き、「成仏する」必要もない、といえ、ないのである。

それでも、靈的に見れば、わたくしたち人間は皆、どこまでも天の高みを目指して成長し続けてゆく存在であり、それは決して下方に下ることはない。

ましてや、普通の、平均程度の健全さを保っている魂なら、その程度の差こそあれ、ほとんどの魂が、聖なるものを希求し、光の親元、親さまである、神＝宇宙の実相、宇宙の全てを司る最高神に帰依しようとするのではないか？

ただ、それがあまりにも簡単ではないため、それぞれに苦悩し、やがては必要なプロセスを経て、気づきを得、やっと成長してゆくのである。

そして、そのプロセスこそが、今回の人生において、最も重要なことなのである。

ここからは、そうした苦悩、困難、試練のときにおいて、何がもっとも大切か、ということについて述べてゆきたい。

前述のとおり、こうしたもののすべてを皆が皆、立派に克服できると、わたくしは思っていない。

なぜなら、人間は素晴らしい存在ではあるが、未熟であり、どこまでも学び続ける存在であるから。

完璧を目指しても、決して完璧にはなれないのが人間、なのである。

しかし、そうしてあがき続ける中にこそ、のびしろがあるのであり、そこにこそ、人生の光、人生において最も輝く瞬間というのがあるのだ。

ならば、そうした聖なるものを求め、そこにたどり着こうとする精神にとって、最も大きな支えとなるものは、一体なんなのか？

そこについて触れるのが、この記事が主眼とすべきものである。

わたくしは、それは、神の子としての自らの実相を知ること、そして、そこに対して素直に抱く、魂の底から自然と湧き上がる自尊心ではないかと思っている。

もちろん、神（＝大いなる者）への信仰心や、希望、人々の愛、思いやり、暖かさ、勤勉さや粘り強さ、なども、もちろん、言うまでもなく大切なのだが、それより、何よりも、自らを信じること、それも、なんの根拠もないけれど、わたしにならきっとできる、わたしは素晴らしい人生を歩むに値する、という霊的自己への揺るがない自信、信頼、自尊心があつてこそ、ひとはどんな困難にも耐え、それらを乗り越えようとしてゆけるのではないか？

思えば、わたくしの人生、これまでさんざん、「醜いアヒルの子」であり、まるで「ドアマット」のような存在であり続けた。

自らが属するそれぞれの小さな社会の中で、いつも最下層に置かれ、まるでそれが当たり前のように扱われ、踏みつけられ続けてきた。

それがゆえに、多くの人々のネガティブなものの掃き溜めとなったり、ストレスを解消するドアマットのような存在であったのだ。

このことが、どれほど、わたくしの人生に大きな暗い影を投げかけ、そのせいでどれほどくるしめられ続けてきたことか。

中でも、わたくしの言葉に耳を傾けてもらえない、いつも軽んじられ、疎まれ、ストレスの捌け

口にされること、それがどれほどわたくしを打ちのめし、完璧なまでに破壊し尽くしてきたことか。

だから、うつにもなったし、引きこもりにもなったし、社会との関わりを持つことが本当に未恐ろしく、怖く、未だにその後遺症を完全なまでに引きずっている。

いつかはひとも自分も全く信じられなくなり、気が狂いそうになっては、いつも、いのちの電話などに助けを求め、なんとか精神の均衡を保ってきた。

こと、夢への翼を得るために、ここ滋賀に再び、あくまでも一旦かえってきてからの、この6年間の地を這うようなくるしみは、本当に本当に重すぎた。

ゆえに、わたくしは、絶望の谷底でひとりずっとくるしみ、時折見える微かな天の光に救いを求めるよりほかなかったのである。

今、もし、6年前、あの2008年の夏に戻れるなら、全力で、わたくしはここにかえってくることを止めるだろう。

いや、もし、あのとき、あのまま関東にでも踏み留まる選択をしたとしても、どっちみち、シチュエーションこそ違えど、同じようなくるしみが待っていたのかもしれないが。

いずれにせよ、この6年ほどの日々は、わたくしにとって、これまでの人生において、ここまでの、とっていいほどの最難関の道、だったのである。

それほどまでのくるしみを、なんとか、なんとか、文字通り、なんとか乗り越え、今、わたくしが曲がりなりにもこうして、この文章を綴ることができるのは、ただただ、2007年、ほんのつかの間でも、自らの霊的ルーツを知り、そのあまりの眩しさ、光、輝きに霊的に触れる、という貴重な経験を与えられていたからだ。

それがなかったら、おそらく、わたくしは今、ここに生きていない。

2007年、ほんのつかの間でも、自らがどういった霊的背景を持ち、どういった魂のふるさとに生まれ、なぜ、今回このような人生を歩むことになったのか、その全て（現時点で知る必要のある全て）を知ることが出来たから、だから、わたくしは、どんなにくるしいことがあっても、どんなに打ちのめされても、どんなに絶望を味わい尽くしても、それでも、自らとこの夢（ポストンで霊的なリーダーシップについての研究を極め、教育を通して、世の中に還元してゆくこと）を絶対にあきらめられないのだ。

そして、そこに誇りと自信があるから、だから、絶対にこの道を降りることなど出来ないし、どんなに至らなくても、自らをあきらめることが出来ないのだ。

誰がなんと言おうと、わたくしの価値は、神がお決めになる。

たとえ、ひとから罵られ、蔑まれ、疎まれ、世界中を敵に回したとしても、それでも、わたくしは、神がわたくしに語られる聖なる御言葉を信じる。

そして、魂の家族、魂の片割れ——、懐かしい、あの魂のふるさとで今もわたくしを見守り、励まし、導き続けてくださっている霊的存在たちの期待を裏切ることなど、決して出来ないのだ。

たとえ、それが妄想と笑われようと、あまりに尊大すぎるとこけにされようと、わたくしは一向

に構わない。

わたくしの中にこそ、わたくしにとっての靈的ヴィジョン、靈的本質があるのであり、それは、神とわたくしの直接的な交流の中でしか分かり得ないことであり、語られないことだから。所詮、人間のレベルで、ある個人と神との直接的な結びつきのその本質と全てが理解出来ることなど、決してないのだ。

出来る者が在るとすれば、それはマスターや天使くらいのものである。

どうか、これまでのわたくしのように、今、塗炭のくるしみを味わい、挫折し、絶望の中、ひたすら悲嘆にくれる方がいらっしゃるなら、わたくしは、どうか、祈ってください、とただひたすらに乞い願う。

あまりに疲れ果て、心も体もぎりぎりで、祈る力すら残っていないかもしれないが、でも、必ず、神は、どんな祈りにも耳を傾けてくださる。

それに対するおこたえが、人間が望むものではないかもしれないが。

しかし、神は、いつも、本質は聖なる神の子であるわたくしたちを見守り、導いていてくださる

。

支え、励まし、許し、どこまでもどこまでも一緒にいてくださる、愛し尽くしていてくださるのだ。

これほどまでに力強い御恵みがあるろうか？

これほどまでに揺るがない聖なる真実があるろうか？

神は、あなたの語りかけに必ず耳を傾け、そして、遅かれ早かれ、必ず、それにこたえてくださいます。

そのこたえが、あなたが求めるとおりのものではないかもしれないけれど。

また、あなたが、自らの靈的本質について知りたいと願うなら、必ず、神はその祈りにこたえてくださるでしょう。

そして、あなたに、神の子としての本質を思い出させ、それによって揺るがない靈的自信、靈的自尊心を与えてくださり、その誇りによって、あなたは、これまでとはうって変わった次元で生きてゆかれることとなるでしょう。

今のわたくしを支えているのは、この世での全てのことを終え、天国の門に立ったとき、そこに迎えに来てくださるであろう、自らの魂の片割れである靈的存在に対して恥ずかしくないようにちゃんと生きなければ、という揺るがぬ思い、そして、また、その暖かな出迎えに対して、満面の笑みと、全身全靈の愛をもって向き合えるよう、ただただこの人間として最後の人生を精一杯生きたい、生き抜きたい、その思いだけです。

わたくしは幸運にも、自らの魂の片割れである靈的存在に、靈的な交流を通じて、出逢うことができました。

その存在から永遠に愛されていることを知り、また、導かれ、守られているがゆえに、今の天命

に出逢うことが出来たのです。

こうした全ては、あくまでも、霊的な次元における出来事であり、ふれあいであり、奇跡でありましたが、わたくしにはそれで十分でした。

この世での人間としての姿を見ることは叶わないけれど、でも、それでも、そうした霊的存在がいてくださる、いつも、どこにいても、何をしても、こんなにも醜く、落ちこぼれたわたくしに万全なまでの愛を、完璧なまでの愛を与え続け、いつも見守り、励ましていてくださること、そのことがどれほ

どわたくしを救い、洗い清め、高みへと導いてくださったことか。

だから、2007年、わたくしは、あれほど嬉し涙を流したことがない、というほど、しょっちゅう感極まっては泣いていたのでした。

わたくしは、魂の片割れである霊的存在を通して、自らの霊的本質を知り、霊的な、そして確固たる自尊心を手に入れることが出来た、だから、その後、6年に渡って続くこととなった、人生始めて以来最大の試練をなんとか乗り越えてこられたのだと思います。

誰にも言えない、本当に、この世のあらゆる醜さ、愚かさ、破壊力をもってしても、これほどまでの憎しみを覚えることはない、といった、あまりに過ぎる、ひどい感情をなんとかここまでおさえることが出来たのも、全て、そのかけがえのない霊的存在がわたくしを守ってくくださったから、でした。

かけがえのない、唯一無二の霊的存在が、向こうの世界にいらしてくださるから、そこから永遠の、とてつもない強力な愛のエネルギーを受け続けているから、だから、わたくしはなんとかここまでやってこられたのです。

どうか、今、くるしみの最中にいらっしゃる方、神を求めてください。

必ず、神はあなたを助け、守り、導いてくださることでしょう。

そして、あなたが、この世に生まれる前に、記憶の彼方に置いてきた、あなたの霊的本質、霊的記憶、霊的な自尊心を、再び、あなたに与えてくださることでしょう。

あなたがどれほどかけがえのない、素晴らしい存在であるか、それを思い出されたなら、そして、それを霊的な次元で再び知ることとなられたら、どれほどあなたはエネルギーを回復され、生まれ変わったようになれることか。

その全てを経験してきたわたくしが言うのですから、間違いない。

絶対、これは、唯一の救いです。

ひとが皆、この世において、自らの霊的本質を思い出すため、そのためにイエスさまはこの世に現れてくださったのであり、お釈迦さまや、その他全てのあらゆる聖なる御魂が、この世に降りてこられ、聖なる言葉を語り、奇跡を起こし、末代にまで語られるほどに、様々な御恵みを残していつてくださったのです。

どうか、あなたの心の、いえ、魂の語りかけに耳を傾けてください。

祈り、内なる導きに従うことから、神の子としての新たな人生は始まります。

あなたが求めさえすれば、今すぐにでもそれは可能なのです。

どうか、この混迷極まりない現世において、聖なる神の子として生きる道があることを知ってください。

そして、それを求めてください。

あきらめないでください。

あなたには、あなただけに与えられた、素晴らしい神の道、天の道があるのです。

そして、あなたにはそれを歩むだけの権利と資格がある。

さあ、今こそ、天に向かって開かれた窓を開けて、新たな人生のストーリーを始めてください。

やがて、きっと、あなたは、この世の輝く希望となりえましょう。

いつもあなたに希望と聖なる愛がありますように。

神のご加護と思し召しがありますように。

心からの愛と祈りと感謝をこめて。

In Jesus name, Amen.



過去に2冊電子本をつくったものの、今となってはそれら「貴重な2冊」もなくしてしまったわたくしが、改めて、また、こうした電子本を作ろう、と思ったのは、わたくしにとって、書くこと、そしてお話しさせていただくことが、サイキックとしてひとさまをみさせていただくことと同じくらい、とてもとても大切なこと、だったから、でした。

そもそも、アメリカのモチヴェーション・スピーカーと呼ばれる方々にとっても憧れておりますわたくしは、今、スピリチュアリストとして、まだまだほんのひよっこながらも、そうした方々と同じ線上を歩き始めております。

まだまだ小さな、地面にひょっこり顔を出したばかりの芽のような、なにぶん、ほんのささやかなこと、ではございますが、でも、こうして、曲がりなりにも、ここに、この電子本を作ることが出来ましたこと、心からありがたく思っております。

「はじめに」にも書きましたが、そもそも、このご本は、わたくしがここ滋賀に「あくまでも一旦」かえってきてからの「あまりに過酷な日々」をとおして学んだ様々なことを皆様にシェアさせていただくために書かせていただきました。

2007年、突然サイキックに目覚め、素晴らしい夢の扉が、目の前にばばーん！ と開けたはずが、2008年から今年2014年までにいたるまでのこの6年間は、わたくしにとってまさに「想定外」の日々でございました。

あんなに素晴らしいことがあったのだから、もう、二度と落ちることはない、そう信じ切っていたのに、いやいや、神様は果てしなく地の底までわたくしをごろごろと落されましてですね、で、そこからどうやって這い上がってくるのか、それをご覧になりたかったようでございます（笑）

お蔭さまで随分強くなりましたし、大層鍛えられもしました。

ちょっとやそっとのことではめげなくもなりました。

何度倒れても、その度に起き上がり。

まるで起き上がりこぼし、そのものでございます（笑）

（わたくしは、こうして、何度倒れても起き上がってくる力を「不屈のゾンビ力（りょく）」と呼んでおりますが（笑））

当然、サイキックとしても、より深いところまでみさせていただけるようになったと自負しております。

この6年間はわたくしにとって「生涯始まって以来、最大の試練、最大の困難」で、もう、それ

はそれはこてんぱてんにやられ尽くしました。

けれど、そうしたわたくしを支え、励まし、導いてくれたのは、この本に書いたような様々なスピリチュアルな知恵であり、素晴らしい先人達の御教えでございました。

なかでも、わたくしが生涯の師と仰ぐ先生、そして、アメリカ最大のメガ・チャーチの主任牧師様でいらっしゃるジョエル師の御存在は、わたくしにとって本当にかげがえのないものです。

こうした素晴らしい方々、そして、家族、お友達、お知り合いの方々のお支え、暖かなお気持ちがあったから、おひとの何倍も泣き虫で、ことごとく打たれ弱いわたくしが、なんとかここまで来ることが出来ました。

どうか、このささやかな本が、光を求める貴女のお手元に届きますよう、心から祈ります。

また、この本を手にとってくださいました全ての方々に神様の御加護とお導きと多大なる祝福がありますように。

心からの愛と感謝をこめて。

最後までお読みくださいますて、本当にありがとうございました。

2014年11月1日

夢咲璃い 拝

☆「あとがき」冒頭の写真は、2008年の8月、ボストンへの御縁をいただく前の夕方、伊豆の熱川（あたがわ）海岸の空に現れてくださった、熱川のお湯かけ弁財天様が写られたものでございます。ちなみに、こちらの写真は、ボストンの地元紙のサイトにも掲載されました。

光の道をゆく

<http://p.booklog.jp/book/85190>

著者：夢咲璃い

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/psychicree/profile>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/85190>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ